

第1号議案

2012年度 事業報告並びに
決算報告(案)の件

**2012年度 社団法人 天草本渡青年会議所
委員会年間事業報告書**

- 委員会名：まちづくり委員会
- 担当副理事長名：小山裕士
- 委員長氏名：井上雅之
- 副委員長氏名：松岡大輔
- 委員氏名：山下通輝、川上憲吉、武部英広、中本太樹、尾崎友彦、渡邊弘樹、
上元賢正

I. 事業名【天草市長ローカルマニフェスト評価・検証大会～約束の行方～】

1. 事業目的

(対外)

市民にマニフェストに興味をもっていただき、マニフェストサイクルの重要性を認識していただくことを通して、政治への関心・市政への意識を高めていただく。

(対内)

JAYCEEとして、また一市民として市政に対する関心と意識を高めていただく。

2. 実施日時・場所

(日時)

【街頭アンケート】

2012年4月15日(日)

9:00~12:00

【パネリストとの勉強会】

第1回

2012年5月11日(金)

13:00~15:00

第2回

2012年5月14日(月)

10:00~12:00

【天草市長ローカルマニフェスト評価・検証大会～約束の行方～】

2012年5月17日(木)

18:30 開場

19:00 開演~21:00 終了

(場所)

【街頭アンケート】

イオン九州天草店・T A I Y O本渡北店・ロッキー佐伊津店・T S U T A Y A天草店

【パネリストとの勉強会】

第1回・第2回とも社団法人天草本渡青年会議所事務局

【天草市長ローカルマニフェスト評価・検証大会～約束の行方～】

天草市民センター ホール

〒863-0033 熊本県天草市東町3番

TEL : 0969-22-4125

FAX : 0969-22-5475

3. 参加人員

(外部) 関係諸団体 211名

(内部) 理事・役員 22名

メンバー 13名

その他 1名

合計 246名

4. 事業内容

事業内容

第一部 市の評価・市民アンケート評価の報告

第二部 パネルディスカッション

(対外)

①「アンケート(各協力団体にアンケート・街頭アンケート・メンバー配布アンケート)の実施をする。

②「委員長挨拶時にマニフェスト・マニフェストサイクルの説明を行う。

③「第一部の報告では、市が独自で行なった評価と評価アンケートにて導かれた市民の評価を対比し、進捗状況をわかりやすく伝える。

④「第二部にてアンケートで市と市民の評価に開きがある政策を市長と対話形式でパネルディスカッションを行ってもらう。

(対内)

① 全メンバーで街頭にてアンケートを取る際、市民からの生の声を聞きながらアンケートの実施・回収を行っていただく。

② 街頭アンケートを行う際に、アンケートの回収目標を一斉メールにて配信し、結果も一斉メールにて配信する。

③ 4月度例会企画にて桑原教授にご参加いただき、マニフェストサイクルの重要性をメンバーに落とし込み、市政に対しての意識と関心を高める。

5. 成果

(対外)

- ① 当日アンケートの結果から、「大変勉強になった」、「manifestoを考えるきっかけとなった」と興味を示す内容のコメントが多く、manifestoへの興味・意識を高めていただくことができた。
- ② 当日アンケートで「また次回があれば参加したい」、「来年もしてほしい」などのコメントを頂き、政治への関心・市政への意識を高めることができた。
- ③ 天草ケーブルネットワークへ取材をしていたき、後日、市民チャンネルにて1週間放送をしていただけたので、来場できなかった市民に対してもmanifesto・manifestoサイクルの重要性を感じて頂けた。
 - 市民チャンネル放映期間：6月7日(木)～13日(水)

(対内)

- ① 4月の例会時にメンバーでmanifesto・manifestoサイクルの重要性を学び、検証会は必要だと思うと声をメンバーより頂いたので、関心を高めるといふ点では達成したと感じる。
 - 4月度例会企画 「学ぼう！manifestoとmanifestoサイクル！」
講師 桑原隆広氏（熊本県立大学教授）
- ② 当日終了後の懇親会時にメンバーからも「知らないことも多くあって勉強になった」、「今後も検証することが必要だ」という声を頂き、市政に対する興味関心を高めることができた。

6. 引継事項

- ① 街頭アンケートを行う際はアンケート内容を簡素化した方がよい。団体などのお願ひする場合は十分な期間を相手側に持たせることができれば、催促もしやすく、回収率を上げることができる。
- ② 天草市からの自己評価が遅れてスケジュールがタイトとなったため、相手がある事業は、スケジュールに余裕をもたせて計画されるとよい。
- ③ ドレスコードがパネリストとその他のメンバーや一般の人と違う場合は、ネクタイ着用など明確にその旨を記載する。
- ④ 事業の流れや自分達の考えをコーディネーターに伝えないと、思うような進行にならないので、資料は早めに作り、分析、勉強会を多くして、コーディネーターへの資料送付や意見交換など密に連絡を取った方がよい。
- ⑤ パネリストとの勉強会を何度か行って、事前に現状の把握・意見交換を行い、委員会・パネリストと共に行うことで、もっと具体的な提言などができてよい。
- ⑥ 委員会を早めに開催し、どのような評価検証大会にするのか委員会で話し合う機会を多く作り、事業の全体像を委員会で共有できるようにした方がよい。
- ⑦ 他の委員会メンバーへの協力やスタッフの配置などは前日にはメールなど

を利用してお知らせしておくとのスムーズな準備進行ができてよい。

- ⑧ 受付を通らずに入場する方がいらっしゃるのので、開場前に出入り口の確認しておくとの良い。
- ⑨ 事前打ち合わせに遅れたメンバーへの伝達をきちんとするように、同配置スタッフへの引き継ぎをきちんと頼むとの良い。
- ⑩ 今回は初の開催で要領などが分からず、資料の作成に時間を割いてしまい、シナリオの読み合わせなどリハーサル関係の時間を短時間しか取ることができなかったことから、進行がスムーズにいかない点があったので、司会者を含めて読み合わせなどのリハーサル関係の時間も計画時からきちんと考えておくとの良い。
- ⑪ アンケートなどを取る際は、期間を長く取り、集計作業を行うと余裕ができ、アンケートの分析がより密にできるので、事業の実施日を決定させる際はその点も考慮下さい。
- ⑫ 会場内からの質問も受けるようにした方がよいという当日アンケートの意見が多かったが、一般からの質疑は批判が多いこと、また反対派などからの質問が集中するなど様々な問題が考えられる。あくまでも検証が目的であるので、討論会と同様に質疑応答の時間を設けない方がよいと思う。
- ⑬ 今回は初の検証大会だったので、集まり易い旧本渡市で行ったが、天草市が合併し、広範囲になったので、それぞれの地域ごとの会場を使った検証大会の開催などをすることで、中心部だけでなく、天草市全体が市政に興味関心を持てるようにすることも検討されると良いと思う。また、当日アンケートにもどこの地域（旧2市8町単位）から来場したのか分かるように設問に加えた方がよいと思います。
- ⑭ ステージにテーブルを配置する際は、足元が見えないようにテーブルクロスを準備した方がよい。
- ⑮ 審議から当日までの準備期間が1ヶ月半しかなく、全体的に準備期間が短かった。委員会の見解としては、出演者（コーディネーターやパネリスト）の選出を早めに行い、遠方の出演者も考慮し、趣旨説明や承諾を得るのに1カ月、市の評価をもらう場合はアンケート実施の1ヶ月前にはもらい、市民の評価基準となるアンケートの実施・回収に1ヶ月（同時にキャラバンやポスター・チラシの配布を並行して行う）、集計作業とコーディネーターとの打合せ、パネリストを含めての勉強会に1ヶ月半、委員会内のリハーサルに2週間は必要であると考えます。期間は長く設けて取り組んだ方がよいと思います。
- ⑯ 大会会場との打ち合わせは、内容をきちんと伝えることでの的確なアドバイスが頂けるので、予算にも差異が出ないように早めに行うのがよい。また、懇親会会場との打ち合わせも同様である。
- ⑰ 印刷業者の作業工程で予算に変動があることが予想されますので、予備費もきちんと確保しておくことが大切である。
- ⑱ 依頼文などは手渡し可能か郵送かきちんと検討し、予算に反映させると良い。
- ⑲ 評価アンケートは構成が遅れたために、きちんとした枚数を把握できず、枚

数に変動が生じた。早めに構成を完成させることをおすすめ致します。

- ⑳ 当日配布資料も評価アンケートの結果をまとめるのに手間取り、枚数を予算計上時に把握できなかったので、変動が生じた。審議時には構成を決定するか予備費に余裕を持たせることをおすすめ致します。
- 21 飲み物代は定価計上していたが、スーパーでの値段も事前に確認しておくことをおすすめ致します。
- 22 ポスターを見た市民から、市長の評価検証大会なのに配列の一番上が市長というのはおかしいという意見をもらった。今回は、他の地域で開催されたポスター・チラシを参考にして作成しましたが、配列を横並びにするなど検討してください。
- 23 今回は農業関係者・商業関係者・女性・当青年会議所という構成であったが、パネリストに漁業関係者も入れてほしいという意見を頂いたので、次回開催時をご検討下さい。
- 24 当日はTKU天草、ACN、朝日新聞、熊日新聞、読賣新聞、西日本新聞の6社、取材に来ていただき、記事になったことで青年会議所の活動も同時にPRすることができた。
- 25 講師謝礼金の源泉徴収は支払い後、原則として1ヶ月以内に支払わなくてはならないので、今回は気をつけてください。
- 26 また、今回はパネルディスカッションという形式で行ったが、市民評価委員会等を設置して検証作業を行う方法などもありますので、ご検討されてください。
- 27 取材を頂いたACNなどの放映時間が事前にわかった場合には、HPやWEBの駅、またメンバーに一斉メールをするなど告知を行うと参加されなかった多くの方に見ていただけたと思いますので、ご検討下さい。

Ⅱ. 事業名：【まちづくり事業 スポーツで地域活性化 ～未来の天草につなげよう！！～ 講演会】

1. 事業目的

(対外)

観光とは別の切り口で、交流人口の増加に繋げることを目的とする。

(対内)

天草の交流人口増加を考える機会を通して、天草の現状を知り、天草の魅力を発信できるようになっていただくことを目的とする。

2. 実施日時・場所

(日時)

2012年10月23日(火)

19:00~21:10(開場18:30)

(場所)

肥後銀行 3F 大会議室

3. 参加人員 ※事業報告書の実施のみを書いてください

(外部) 関係諸団体 59名

(内部) 理事・役員 19名

メンバー 9名

その他 1名

合計 88名

4. 事業内容

〈事業全体の流れ〉

まず、事業の趣旨をメンバーに理解頂き、合宿に対する意識調査を大学・実業団に行い、合宿対象者の意識を調べる。そしてメイン事業は外部講師をお呼びして、講演会、来場者同士でワークショップを行い意見交換の機会を作る。そこでの意見、アンケートの結果を2市1町に報告書として提出し、天草での合宿誘致の取り組みに活かしていく。

〈各事業内容〉

① 事業開催の趣旨説明

(一斉メール・委員会訪問・9月例会報告事項時にて本事業の思いを伝える。)

※まず、メンバーに対して、事業開催の趣旨説明を一斉メール・委員会訪問で本事業の思いを伝える。また9月例会の報告事項時に天草市の現在の取り組みもメンバーに知ってもらう。

② 意識調査アンケート

※大学・実業団に意識調査アンケート依頼書と合宿 IN 天草ガイドブックと共に質問状を送り、

返送していただき、合宿についての意識調査をする。

意識調査アンケートを行い、大学生・実業団が合宿に対してどのように考えているのかを把握します。

③ 10月23日(火)事業当日

基調講演

～合宿地に求めるもの～ 浦田 春生氏講演(合宿地について)

ワークショップ

～天草で合宿をしてもらうために必要なものは～

※来場者をジャンルごとにグループ化し、それぞれの立場の目線から、合宿を増やすにはどうするかをワークショップで話し合う

第1部で合宿を各地で行われている浦田監督より島外からの視点で、合宿地を選ぶ理由、合宿地に望むものなどをお聞きします。また受け入れる側も競技について理解をしていた方が、サポート面でもよりよく受け入れられると思いますので、陸上競技についてもお話を頂こうと考えています。

第2部で意識調査アンケートの結果、現在の天草市の取り組み、講演をもとに、合宿をしてもらうにはというテーマで、KJ法を使い、意見交換をしながら受け入れのヒントを見出すことを考えています。

④ 意識調査アンケート・ワークショップの結果をもとに報告書を作成する。

ワークショップ、アンケートの結果を2市1町にお渡しし、合宿誘致の促進の一助としていただくという流れである。

(目的達成の為の手法説明)

① 「合宿する上で何を求めているのか、天草に足りないものなど、来場者に合宿誘致へのヒントを得ていただくため、また考える機会を提供するために、大学・実業団に合宿についての意識調査アンケートを送付し、調査をする。

② 「天草で合宿してもらうためのヒントを得るため、島外からの視点で、講師の浦田氏に、合宿地に求めるもの、現在の合宿地を選んでいる理由、もっとこのようなものがあればよいなどについて講義していただく。また合宿に来た選手のサポートや受け入れのヒントを得ていただくため、陸上競技というスポーツについても話していただく。

③ 「合宿誘致によるまちづくりについて考える機会をもつていただくため、意識調査アンケートの結果や講師の講演で聞いたことをもとに、島外の人々の求めるものを知り、合宿をしてもらうために必要なものをワークショップ形式で参加者同士、知恵を出し合い考えていただく。

④ 「参加者に当日アンケートをしていただくことで、本日の事業を振り返っていただき、合宿誘致に対して強く意識していただく。また市民の意見を行政に報告する。

(参加推進方法)

〈対外〉

① HPやWEBの駅、チラシ・ポスターを利用し、宿泊施設や旅行会社など合宿に関係する事業者などを中心に広く告知を行う。

② 旅館組合の定例会議にて、事業のキャラバンを行う。

③ 陸上関係者、各学校の陸上部などにも広報し、陸上の合宿誘致をして天草を盛り上げようという趣旨を説明して参加していただく

④ 意識調査アンケートは送付する前に送付先に電話を入れ、アンケートの依頼と担当者のお名前を聞き、アンケート協力をお願いを行う。

⑤ 天草市の広報のお知らせ欄に載せ、広く広報する。

〈対内〉

- ① 一斉メールを利用してメンバーに対して呼びかけを行う。
- ② 委員会訪問を行い、思いを直接伝える。
- ③ 9月例会にて事業実施の広報を行い、早い段階でのメンバーへの興味意識付けを行い参加促進につなげる。

5. 成 果

(対外)

- ① 合宿という視点で、ワークショップを行ったことで、観光ではなくスポーツを通じたまちづくりという別の視点での交流人口増加を考えていただくことができた。
- ② 合宿意識調査アンケートを配布する際、行政が作成したスポーツ施設ガイドブックを同封したことで、回答時に次の合宿候補に挙げたいと思うなどのコメントは頂き、天草での合宿を視野に入れていただくことができた。

(対内)

- ① 講師の話、合宿意識調査アンケート報告、ワークショップを通して、天草に足りないものを把握してもらえ、現状を知って頂けた。
- ② ワークショップにて、参加したメンバーにもグループに入っただき、一緒に天草のPRを考える機会をもったことで、天草の魅力を発信することができるようになった。

6. 引 継 事 項

- ① 参加頂いたメンバー以外にもメールなどで、ワークショップの結果を配信するなどし、出来る限り全メンバーで内容を共有する工夫をしていくとよいと思う。
- ② 今回は業種ごとのグループ分けをしたことで、人数調整が難しくなったので、業種には分けず、人数だけで分けるなどすると、当日配席でもスムーズにいくと思われる。
- ③ 第一部から第二部への会場設営は時間がかかるので、ワークショップなど席の配置換えを必要とする2部構成事業の場合、会場を設定される場合、会場の規模も考慮し、例えば、会場を2部屋借り、そちらに移動して行うなどすると、時間短縮できると思いますので、ご検討ください。
- ④ 駐車場は来場者が遅れてくることも考えて、今回も農協の駐車場をメンバー用としていたが、案内がうまくいかなかった面もあったので、事前に離れた場所の駐車場を案内し、来場者用に近場の駐車場を確保しておく、スムーズに会場案内できると思います。
- ⑤ 委員会訪問を行い、事業をPRする際は、早い段階で他の委員会に開催時期を聞き、委員会メンバーにも回ってもらうと良いと思います。
- ⑥ 事業でワークショップを行う場合は、こちらが意図する結論を出していただく為にも、趣旨の説明をきちんとし、班にいるメンバーにもきちんと落とし込みをしてから、臨むようにするとよい。
- ⑦ 今回、送付前と送付後お電話したことで、担当者に直接アンケートの意図を説明できる点、またご確認の電話をしたことで、回収率が上がったことから、次回も対外

.....
▪ に対してのアンケート調査を行う際には、そのようにされると回収率が上がると思
▪ いますので、検討ください。

▪ ⑧ リハーサルを計画する際、リハーサルの内容をきちんと考え、準備物は前日に用意
▪ しておくということを心がけると、資料が間に合わないこともなく、時間通りリハ
▪ ーサルを行えると思います。

▪ ⑨ リハーサルの連絡は少なくとも一週間前にはきちんと配信し、参加の有無を把握し
▪ て、計画するとスムーズに進行できると思います。

▪ ⑩ 委員会メンバー以外のメンバーに協力をしてもらう際は、事業内での動きをきちん
▪ と説明する時間を設け、できれば担当箇所などは事前に配信すると動きやすいと思
▪ います。

▪ ⑪ 郵送は遠方の場合のみで考えるとよい。案内などは手渡しの方が意向も伝えやすい
▪ 面もあるし、コストも下がるので、よく検討されてください。

▪ ⑫ アンケートなどを取る際は事前に送付先に確認の電話を入れるなど回収率アップ
▪ を図る工夫をするなどしていくと差異が少なくなると思います。

▪ ⑬ 今回はプロジェクターを利用したペーパーレス会議を行ったため委員会資料費が
▪ かからなかったが、パソコンを持っていないメンバーやグラフやアンケート結果な
▪ どプリントアウトした方が見やすい資料があるので、計画段階から積み上げを行っ
▪ てください。

▪ ⑭ 今回は知識不足で、振込料に差異が発生したので、ATMには現金振り込みができ
▪ る機種とキャッシュカードが必要な機種と両方あるので、しっかり確認をしたう
▪ えで、振込を行ってください。

▪ ⑮ 今回のことで、参加者には合宿促進へのきっかけをもっていただくことができた
▪ と感じる。せっかくのきっかけを活かすためにも来年度以降は周回コースの設定やキ
▪ ロメーター表示板を設置するなど、環境整備を進める機会と捉え、折に触れて行政
▪ への働き掛けなどを検討下さい。

▪ ⑯ 第一部、第二部と分けて事業を行ったので、会場設営のための休憩時間で帰られ
▪ る方がいらっちゃった。次回は二部構成でせず、一本化して事業すると帰宅者は減
▪ るのではないかと思うので検討ください。

▪ ⑰ 記者クラブへの取材依頼は少なくとも一週間前には投函しなければならないとの
▪ ことで、きちんと計画時に日程を確認し、投函するように気を付けてください。

▪ ⑱ 今回はワークショップの進行役を外部の方も参加してのワークショップを行うと
▪ いうことで、進行にできるだけ不備がなくという考えのもと、進行になれている執
▪ 行部という人選を行った。次回は早めに連絡を行い、事前に説明やリハーサルなど
▪ を行うように計画して、経験のためにもフォロワーメンバーに進行役をしてもら
▪ うということも検討されて下さい。
▪
▪

Ⅲ. 事業名【 会員拡大事業の推進 】

1. 事業目的

「天草の明るい豊かな社会」の実現に向けて、共に天草の未来を創造し、行動する仲間を作っていくために、翌年に控えた創立50周年時、会員数100名を目指す。

2. 参加人員

(内部) 理事・役員	3名
メンバー	7名
その他	0名
合 計	10名

3. 事業内容

研修拡大委員会と共に6月、9月企業訪問を実施

委員会開催報告

回数	開催日	委員会開催場所	内 容	出席	欠席	出席率
1	2011. 10. 5	カフェレストラン 黒船	年間事業計画について	7名	2名	77%
2	2011. 11. 18	J C 会館	年間事業計画書について	5名	4名	55%
3	2011. 11. 24	J C 会館	年間事業計画書について	3名	6名	33%
4	2011. 12. 14	J C 会館	年間事業計画書について	5名	4名	55%
5	2012. 1. 16	J C 会館	ローカルマニフェスト評価検 証大会について	4名	5名	44%
6	2012. 2. 21	J C 会館	ローカルマニフェスト評価検 証大会について	6名	3名	66%
7	2012. 3. 14	J C 会館	ローカルマニフェスト評価検 証大会について	4名	6名	40%
8	2012. 3. 19	J C 会館	ローカルマニフェスト評価検 証大会について	5名	5名	50%
9	2012. 4. 14	J C 会館	ローカルマニフェスト評価検 証大会について	8名	2名	80%
10	2012. 4. 18	J C 会館	アンケート結果の集計発表	7名	3名	70%
11	2012. 5. 11	J C 会館	パネリストとの勉強会	3名	7名	30%
12	2012. 5. 14	J C 会館	パネリストとの勉強会	3名	7名	30%
13	2012. 5. 16	(株)ダイワ事務所	事業最終確認	9名	1名	90%
14	2012. 5. 30	J C 会館	まちづくり事業について	6名	4名	60%

15	2012. 6. 19	J C 会館	ロカマニ審議資料確認及びまちづくり事業について	4名	6名	40%
16	2012. 7. 17	J C 会館	ロカマニ審議資料確認及びまちづくり事業について	4名	6名	40%
17	2012. 8. 20	J C 会館	まちづくり事業について	7名	3名	70%
18	2012. 9. 14	J C 会館	まちづくり事業について	5名	5名	50%
19	2012. 10. 10	J C 会館	まちづくり事業について	6名	4名	60%
20	2012. 10. 15	J C 会館	まちづくり事業について	5名	5名	50%
21	2012. 10. 22	J C 会館	まちづくり事業について	5名	5名	50%
22	2012. 11. 19	J C 会館	事業報告書及び年間事業報告書について	3名	7名	30%

委員長所見

今年、初委員長になり、私にこの役が務まるのかと不安でした。振り返ると常に緊張していたように思います。しかし、このチャンスを活かしていこうと思い、理事長の所信である「未来に向かい勇気をもってチャレンジしよう！」をいつも頭で反芻しながら、チャレンジだという気持ちでこの一年間、積極的に活動しました。まちづくり委員会ということで、天草の活性化とよりよい地域発展を目指すという思いを持って事業を実施していきました。不慣れな点多々ありましたが、小山担当副理事長、松岡副委員長をはじめ、委員会メンバーの方々など多くの人に支えられながら、無事に事業を行うことができました。

マニフェストの評価検証大会は、当会議所で行うのは初の事業でしたので、私自身、また委員会メンバーもわからないことが多く、計画にかなりの時間をかけ議論を重ねながら作り上げていきました。対外の協力も多くいただく必要があり、人に支えられて成功した事業だと感じています。委員長として、まずは私自身が学び、理解し、メンバーに伝えないといけないと他の青年会議所に足を運び、話を聞き、実際に検証大会へ参加するなどしました。今までは委員として依頼されたことに協力していた立場でしたが、自らが率先して動き、協力をお願いする立場に変わり、委員長という役職の苦勞がわかりました。まちづくり事業も多くの方の色々な考えを聞かせていただく機会を持たせていただきました。たくさんの方が天草を盛り上げたいと想われているのだなと気づかせられました。当会議所もそんな地域を想い、協力しながら天草の発展に貢献していける団体でありたいと思います。

多くのことを学び、多くの人と出会い、本当に素晴らしい時間を過ごすことができました。皆様に心より感謝申し上げます。

担当副理事長所見

近年、地域における「まちづくり」のニーズは、景気の低迷と共に益々高まりつつあるとひしひしと感じます。そのためには、JAYCEEの根幹である自分達のまちは自分達で創るという気概を持って取り組む必要があります。

現在、日本各地で政策本位による選挙を推進するためにローカルマニフェスト公開討論会が開催されております。さらには、首長が掲げたマニフェストの達成度を住民と共に評価・検証し、改善に繋げるマニフェストサイクルも同時に推進されております。そんな中、天草市では初めてのローカルマニフェスト評価・検証大会を開催することが出来ました。事前に街頭アンケートを行い、市民の目線で今の市政を評価して頂いたアンケート結果を基に、一番重要な政策や興味のある事項を取り上げ、パネルディスカッションを企画し、多くの市民も参加しての未来に繋がる大会を開催することが出来ました。また天草は、少子高齢化や雇用などの様々な問題を抱えております。その根底には経済力が不可欠です。今こそ交流人口の増加を図り、天草の魅力を対外に広く周知することで経済活性化に繋げていくことが大事だと考えます。そこで、経済活性化を目的とした「まちづくり事業 スポーツで地域活性化 ～未来の天草につなげよう！！～講演会」を開催しました。観光と違う切り口でスポーツでの交流、つまり合宿の誘致による地域と経済の活性化です。中央大学駅伝部監督の浦田春生氏をお招きしての講演会と天草の合宿誘致を増やすためのアイデアを、ワークショップを通して参加した市民もメンバーも真剣に天草を考える機会を提供することが出来ました。どの事業も次年度以降に繋がる素晴らしくJCらしい事業であったと実感しております。

本年、その重大な役割を初理事の井上委員長が担うことになり、野嶋理事長の成長して欲しいという想いもあった大抜擢だったと思いますが、委員長にとってはとても不安な中でのスタートだったと思います。しかし、そのプレッシャーをものともせず、与えられた委員長職に真摯に向き合い、自ら率先して一つ一つ出来ることから取り組み、委員長としての背中を委員会メンバーに見せてくれました。そして、その背中を見た委員会メンバーもそれに応えようと委員長を必死に支えようという想いが行動として顕れ、結果として理想的な委員会活動に繋がったと感じております。

最後に、事業に参加して頂いたメンバーとご協力頂きました関係各位に感謝申し上げますと共に、一年間、井上委員長と共に頑張ってくられた委員会メンバーに心からの敬意と更なる飛躍を期待し、副理事長の所見と致します。ありがとうございました。

2012年度 社団法人 天草本渡青年会議所 委員会年間事業報告書

- 委員会名：Union of JAYCEE 委員会
- 担当副理事長名：小山 裕士
- 委員長氏名：段下 倫
- 副委員長氏名：長山 直仁

I. 事業名【50周年事業に関する開催日程・場所の決定】

1. 事業目的

(対外)

関係諸団体との日程調整・広報PR等を円滑に進める為、開催日程・場所を決定する事を目的とする。

(対内)

壮大なスケールで夢に向かい、勇気をもってチャレンジする50周年事業の準備期間を明確にする事で、会員の事業実施に向けた気運と結束力を固めると共に、50周年事業に関わる全ての準備を円滑に進める為、開催日程・場所を決定する事を目的とする。

2. 実施日時・場所

(日程)

2013年7月5日(金)	50周年成功祈願祭 前夜祭
2013年7月6日(土)	50周年記念式典 50周年記念パーティー
2013年7月7日(日)	50周年記念事業

(場所)

(1) 50周年成功祈願祭 本戸馬場八幡宮

住所：天草市八幡町21-25

電話番号：22-4270

(2) 50周年記念式典 天草市市民センター

住所：天草市東町3

電話番号：22-4125

(3) その他

前夜祭、50周年記念パーティー、50周年記念事業については、内容に応じて実行委員会で検討し決定する。

3. 参加人員

(外部) シニアクラブ 152名

(内部) 理事・役員 25名

メンバー 40名

その他 1名

合計 66名

4. 事業内容

- (1) 例年実施される天草本渡JC、名寄JCに関わる事業、各種大会、天草の地域事業日程を把握し、重複しない日程を選定し決定する。

5. 成果

(創立50周年記念大会 開催趣意書)

1962年初夏。20数名の勇士による設立準備委員会の立上げから、地域と沢山の方々からの協力を得て、1963年5月24日に社団法人天草本渡青年会議所は、熊本青年会議所によるスポンサーの基、日本青年会議所から全国239番目の青年会議所として正式に認証され、本渡青年会議所としてJC運動・活動をスタートしています。当時の天草は天草五橋の開通前で、九州本土との交通手段は海路と陸路を繰り返す移動でした。幾多の困難を乗り越え、歩みを進められた先輩方の面影は、当時の資料からも伺うことが出来ます。それからの50年あまり、天草の誇りとJCの魂（こころ）を持って未来に夢と希望を描く軌跡は、時代の波を超え熱く語り継がれています。2013年に迎える創立50周年は、これまでに携わって来られた全ての方々に敬意を表し、地域と共に歩み続けた50年に感謝の魂（こころ）をお届けし、仲間と共に歩んだ50年を分かち合う機会を設けると共に、創立100周年の未来を見据えて、新たな一歩を踏み出す事業を開催する必要があります。そのためには、会員一人ひとりが記念大会の成功に向けて、責任を分かち合える気概と関わりを持って、地域のため、仲間のため、そして自分自身のため、天草本渡JAYCEEの誇りと魂（こころ）をひとつに結束して取り組む創立50周年記念大会を開催致します。

6. 引継事項

なし

II. 事業名 【創立50周年に向けた総決起大会並びにエクスカージョンの開催】

1. 事業目的

(対外)

シニアクラブの先輩方と現役会員の面識機会を今まで以上に増やし交流を育む機会を設える事で、50周年事業への協力依頼を行う事を目的とする。

(対内)

シニアクラブの先輩方が築き上げられたJCへの情熱や想いを感じてもらおう事で、50周年事業を構築する自覚を持って頂く事を目的とする。

2. 実施日時・場所

50周年総決起大会

(1) 天草じゃがいもクラブ 50決起ゴルフコンペ

日 程：2012年 5月20日（日）
受 付：8：30 スタート：9：00
場 所：ザ・マスターズ 天草コース
住 所：熊本県天草市有明町上津浦2928
電話番号：0969-53-0333

(2) 決起大会 大懇親パーティー

日 程：2012年 5月24日（木）
受 付：17：30 開 会：18：00
場 所：天草シーサイドホテル
住 所：熊本県天草市亀場町亀川74-3
電話番号：0969-22-0100

(3) シニアクラブ&現役交流麻雀

日 程：2012年 5月24日（木）
開 会：20：30
場 所：ポニー
住 所：熊本県天草市栄町10-8 3F
電話番号：0969-24-2444

(4) 二次会

日 程：2012年 5月24日（木）
開 会：20：30
場 所：トニオハウス
住 所：熊本県天草市栄町12-36
電話番号：0969-24-1478

3. 参加人員

(1) 天草じゃがいもクラブ 50決起ゴルフコンペ

(※懇親会のみ参加人数含む)

(外部) シニアクラブ	8名
(内部) 理事・役員	13名
メンバー	7名
その他	0名
合計	28名

(2) 総決起大会 大懇親パーティー

(※二次会のみ参加はありません)

(外部) シニアクラブ	37名
(内部) 理事・役員	22名
メンバー	16名
その他	0名
合計	75名

(3) シニアクラブ&現役交流麻雀

(外部) シニアクラブ	5名
-------------	----

(内部) 理事・役員	4名
メンバー	7名
その他	0名
合計	16名

(4) 二次会

(外部) シニアクラブ	12名
(内部) 理事・役員	14名
メンバー	7名
その他	0名
合計	33名

4. 事業内容

- (1) 50周年総決起大会のエクスカーションで「天草じゃがいもクラブ 50決起ゴルフコンペ」を開催する事により、面識のない先輩方との交流を育んでもらう。
- (2) 現役会員にとって、最も気配りや気遣いが大切なシニアクラブの先輩方との交流をスポーツ（ゴルフ）を通じ会話する事で、和やかな交流を育んでもらう。
- (3) 社団法人天草本渡青年会議所の歴史の節目でご活躍されたシニアクラブの先輩方に依頼し、大懇親パーティーのファンクションとしてトークLIVEの場を設え出演を依頼します。それぞれの時代背景や思い出エピソード、JCに対する情熱を現役会員に感じとって頂く機会にしてみよう。
- (4) 2013年度理事長候補者による50周年に向けた決意表明を実施する事で50周年事業の構築に向けて、シニアクラブの先輩方への協力依頼と現役会員の事業実施に向けた自覚を促します。
- (5) 新たな交流の機会の遊戯（麻雀）を通じ交流して頂く事で、協力依頼の幅を広げた交流の機会にしてみよう。
- (6) 事業を通して感じた50周年事業に向けた会員の意見と共に、シニアクラブ交流に感じた率直な意見も確認する為、全会員に感想文シート（100文字～150程度）を提出してもらおう。但し、欠席者については提出しなくて良い事とする。
- (7) シニアクラブ&現役交流麻雀に参加されない方々に、二次会の会場を設え交流を深めてもらう。

5. 成果

(対外)

- (1) 三つの交流手法を用いて面識の機会を増やしたことで、交流を育む機会にして頂く目的に達したと捉えています。
- (2) パーティーのプログラムに、次年度理事長候補者の挨拶を取り入れたため、協力依頼を行う目的に達したと捉えています。

(対内)

- (1) トークLIVEの実施により、先輩方のJCへの情熱や想いを体

感してもらえたことで、創立50周の実施に向けた自覚を持って頂く目的に達したと捉えています。

- (2) メンバーが積極的にテーブルを回り、面識のなかった先輩方へも挨拶をする姿を見ることが出来たため、交流を育む機会になったと捉えています。

6. 引継事項

- (1) 総決起大会のレクレーションとして開催した天草じゃがいもクラブ共催のゴルフコンペでしたが、次年度に記念コンペとして、共催での開催を検討する場合には、幹事と協賛や参加費など十分な協議を重ねて検討して下さい。
- (2) 天草シーサイドホテル様から、領収書の発行に関してご指摘を頂いております。今後の同会場使用に関しましては、重複した領収書の発行は出来ないと考えますので、ご注意ください。
- (3) 天草シーサイドホテル様から、打合せ頻度を少なく行いましょうという要望もあり、本予約の時だけお伺いし、ご挨拶を兼ねた必要事項の確認を行いました。不足していた点は、後日の電話確認で十分に事足りましたので、同会場を利用した過去の事業報告書を参考にして、効率化を図ってください。他会場であっても、過去に利用実績のある場合には、同様に実施して下さい。
- (4) 登壇頂いてお話をもらう際には、きちんとステージに注目して頂けるように、司会者のシナリオに反映させてください。
- (5) 登録費が発生する事業の場合には、必ずキャンセル料の有無を記載して行きましょう。本事業に限らずですが、記載がなく当日キャンセルが発生すると立て替えなくてはならないケースも発生してしまいます。まずは、対内対象の事業から実施することが大切です。
- (6) 麻雀の様に、特定の方しか参加できない手法を用いる場合には、個々のルールがあるので、事前に参加者へヒアリングを行って、ルール設定と協議内容を決めて下さい。
- (7) 案内文の手渡しによる参加促進は、想いを直接伝えられることもあり有効です。但し、配布状況の把握を報告してもらうなどの工夫をしなければ、非効率な手法になる可能性もあるので、手渡しによる配布を実施する場合には、十分な協議を行って下さい。
- (8) 各委員会による出欠の取りまとめは、責任感を持って実施して頂けるので、いい手法だと捉えていますので、事業内容によって実施を検討して下さい。対内の参加促進は、一人ひとりに事業内容を理解してもらうことが出来ていなければ、どのような手法を用いても推進する事が困難となりますので、事業内容の周知に力を注いで下さい。
- (9) フェイスブックなどのSNSを活用した参加促進には、まだまだ検証が必要ですので、今後も活用し検証して下さい。
- (10) 当日に突然の出席が発生した場合のため、事前に席を登録人数より多めに準備したり、空白の席札やネームプレートなどを準備しておくこと臨機応変

な対応が可能です。

(11) 出演依頼を行う場合には、直接ご挨拶に伺う機会を設けると共に、お礼状の発送を必ず行って下さい。

(12) 先輩方への各種案内等々に関しては、郵送にて実施した方が、効率が上がる場合もあるので、配布に関しては、委員会で検討をして実施してください。

Ⅲ. 事業名【創立50周年記念大会テーマ・スローガンの決定】

記念大会開催テーマ

「The Future of Dramatic Amakusa」

(和訳：ドラマティックな天草の未来)

(決定理由)

半世紀を迎える創立50周年記念大会のテーマを検討する中、最も大切にしたいと考えた事は、揺るぎない信念による伝統を受け継ぐ想いと新たな未来を切り拓く挑戦との融合です。そのためには、創立50周年を新たな契機として、この時代に求められている運動や活動を繰り広げる事で、人々の魂（こころ）に共感と感動や感激を呼び起こし、地域における私たち青年会議所の存在意義を理解して頂きたいと考えています。私たちは青年としての理想に燃え、不屈の精神と地域の未来を想う魂（こころ）を持っているからこそ、夢と希望に満ち溢れた「ドラマティックな天草の未来」を切り拓けると確信しています。

記念大会スローガン

「Good Amakusa Good JC ～JAYCEEは天草とともに～」

(決定理由)

創立50周年は、私たち現役会員だけの為の記念大会であってはなりません。これまでの歴史を築いて頂いた先輩方、ご支援やご協力を頂いた地域の皆様、そして私たちの故郷である天草に、感謝と敬意を表した記念大会を構築しなければならないと考えています。そのためには、私たち青年会議所は、何のために存在している団体なのか、私たちJAYCEEは、何のために運動や活動を展開しているのかを対外に印象付けると共に、私たち一人ひとりが自覚できるスローガンを掲げる必要があります。そこで、青年会議所としての根幹と言われる「何のために」「誰のために」という想いを言葉というカタチに乗せて「Good Amakusa Good JC ～JAYCEEは天草とともに～」を創立50周年記念大会のスローガンに決定しました。これは、天草と共にあるべき団体でなければならない、天草の未来を考える会員でなければならないという宣言の想いを込めています。私たちの想いを簡潔に印象付けるスローガンだからこそ、創立50周年の節目に、私たちの運動・活動の根幹にあるべき姿を発信したいと考えスローガンに決めました。

IV. 事業名【創立50周年記念大会に向けたプロセスの提案書作成】

1. 事業目的

(対外)

なし

(対内)

創立50周年事業を円滑に進めるために必要とされる準備を会員に提案する事で、記念大会の成功に向かうメンバーの機運を高めると共に、成功に向けての環境を整えることを目的とする。

2. 実施日時・場所

(創立50周年PRマーク プレゼンテーション大会)

日 程：2012年6月13日(水) 19:30~21:30

場 所：幸寿司

住 所：天草市五和町二江4843

電話番号：0969-33-1644

3. 参加人員

(外部) なし

(内部) 理事・役員 19名

メンバー 7名

その他 0名

合計 26名

4. 事業内容

(1) 創立50周年の準備を円滑に進める環境を整えるため、事業実施に向け必要とされる事項や事由を明記した「創立50周年記念大会に向けたプロセス提案書」を下記の資料構成で作成し、発表の場を設ける。

(2) 当日不参加の全会員にも配布すると共に、事務局内に掲示する。

5. 成果

(1) プロセス提案書を配布するだけでなく、プレゼンテーション大会に合わせて委員会からの説明を行った事で、記念大会の成功に向けたメンバー意識を高めることに繋がったと捉えています。

(2) 創立50周年に必要な事項について、本年度決めておくべき事柄と次年度に託す事柄の分別を行い作成したことにより、成功に向けての環境を整える事に繋がったと捉えています。

6. 引継事項

(1) 説明会形式の手法を実施する際には、事前に目を通してもらい当日を迎えた方が、より効果的でスムーズな運営が行えるので、資料の事前配信を検討して下さい。

V. 事業名

【創立50周年PRマーク プレゼンテーション大会の開催並びに広報PR計画】

1. 事業目的

(対外)

創立50周年のPRマークを有効活用した広報ツールによる円滑な広報活動を行う事を目的とする。

(対内)

和気藹々とした雰囲気のある機会を設ける事で、創立50周年のPRマークを決定し意識統一を図ると共に、PRマークを有効活用した広報ツールによる円滑な広報活動を行う事を目的とする。

2. 実施日時・場所

(1) 創立50周年PRマーク プレゼンテーション大会事前説明会

日 程：2012年5月23日（水）

時 間：20：00～20：20

場 所：肥後銀行株式会社 天草支店 3階大会議室

住 所：天草市南新町6-1

電話番号：0969-22-2151

(2) 創立50周年PRマーク プレゼンテーション大会

日 程：2012年6月13日（水） 19：30～21：30

場 所：幸寿司

住 所：天草市五和町二江4843

電話番号：0969-33-1644

(3) 創立50周年に向けた意識調査アンケート

日 程：（配布）2012年5月23日（水）

（締切）2012年6月15日（金）

場 所：肥後銀行株式会社 天草支店 3階大会議室

住 所：天草市南新町6-1

電話番号：0969-22-2151

(4) 創立50周年PRマークの投票期間

投票期間：2012年6月13日（水）～6月22日（金）

場 所：社団法人天草本渡青年会議所 事務局

住 所：天草市本渡町本戸馬場2179-1

電話番号：0969-23-0018

3. 参加人員

(外部) なし

(内部) 理事・役員 18名

メンバー 8名

その他 0名

合計 26名

4. 事業内容

【創立 50 周年 P R マーク プレゼンテーション大会事前説明】

- (1) 創立 50 周年 P R マーク プレゼンテーション大会の開催に向けて、趣旨説明と事業 P R を行う事前説明会を開催する。また、会員の意識統一に向けて、全会員が集う例会の企画時間を活用する。

【創立 50 周年 P R マーク プレゼンテーション大会】

- (2) 創立 50 周年の準備をスムーズに行う環境を整えるため、記念大会の開催に向けて必要とされる事柄を明記した「創立 50 周年記念大会に向けたプロセス提案書」発表の場を設ける。
- (3) 創立 50 周年事業開催までに予想される実際のスケジュールを作成する事で、スムーズな実働への対応を促す。
- (4) 「記念大会をみんなで開催して行こう」という意識統一と会員相互のコミュニケーションを図るため、和気藹々と語り合う機会として、創立 50 周年の P R マーク プレゼンテーション大会を開催する。
- (5) 創立 50 周年の P R マークをプレゼンテーションしてもらう際に、イメージを膨らませてもらうため、40 周年の記念事業「天草の未来予想図」で、当時の子ども達が描いた天草の 10 年後の絵につけたタイトル一覧と昨年の名刺構想で集約したアンケート一覧を事務局に掲示する。
- (6) 創立 50 周年記念大会テーマ・スローガン決定に向けて行う、テーマ、スローガン（案）の事務局掲示による会員の意見集約も活用し参考にしてもらう。

【創立 50 周年に向けた意識調査アンケート】

- (7) 意識調査アンケートの趣旨を説明し、創立 50 周年記念大会に向けた会員一人ひとりの意識や状況を確認する。

【創立 50 周年 P R マークの投票】

- (8) 創立 50 周年 P R マークの決定は、下記の手順による会員の投票で決定する。
 - 1) 各委員会の発表した P R マーク（案）を事務局に掲示する。
 - 2) 会員のレターケースに準備した 2 票の投票用紙に○を記入し投票箱に投函する。
 - 3) 全会員からの投票を目指した周知と投票の促進を図る。
 - 4) 最多得票のデザインを創立 50 周年 P R マークに決定する。
 - 5) 最多得票が同数の場合には、三役会構成役員と当委員会で協議し決定する事とする。

【創立 50 周年のキャラバンツール作製】

- (9) 創立 50 周年事業開催日を記載した横断幕やのぼりに加え、P R マークのピンバッジを作製して、対内外に配布、使用する事で広報 P R を行う。
- (10) P R バッジの配布状況一覧を作成して、P R バッチの在庫管理を行う。

5. 成果

(対外)

- (1) P R マークの決定後、迅速にツール（のぼり旗、横断幕、ピンバッジ）を作成したことにより、各種大会等において有効活用する事が出来た。

め、目的に達成したと捉えています。

- (2) 全国大会で社団法人名寄青年会議所の皆様方に、作製したピンバッチをお渡したことにより、創立 50 周年記念大会への来訪を PR する有効な活用となったことから目的に達成したと捉えています。

(対内)

- (1) PR マークを各委員会によるプレゼンテーション形式で、対内 PR を行ったことにより、各委員会における協議を実施して頂いたことで、50 周年への認識と意識統一を図るための和気藹々とした雰囲気で開催することが出来たので、目的に達したと捉えています。
- (2) ピンバッチの着用をすることにより、何のバッチなのかを相手から問い合わせいただく機会も増え、有効な広報ツールとなっていることから目的に達したと捉えています。

6. 引継事項

- (1) 対内周知が目的であっても、伝えたいことが分かりやすく目に触れるように、手元資料だけでなく、プロジェクターの活用を実施して下さい。
- (2) 創立 50 周年に向けた認識と意識統一をしてもらうため、事務局への掲示を行ったが、効果が得られたかの検証は、一人ひとりとの対話を実施しなければならないので、掲示による周知や告知は、効果を検討し実施して下さい。
- (3) アンケートの実施は、回収効率が課題としてあげられるため、配信から回収までを短期間で設定し速やかに行うことをお勧めします。
- (4) アンケートの内容は、JC 歴により記入しにくい内容もあるので、必要なことはもちろんですが「記入しやすいように」という観点を忘れず取り入れて下さい。
- (5) 投票による決定をするときには、全会員からの投票が好ましいので、記名による実施を検討して下さい。その際には、内容によっては人に知られたくないという方もおられるかもしれませんので、開票には注意し実施して下さい。
- (6) 何かに向けて意識統一を図るには、会員相互のコミュニケーションづくりを強化することが、第一歩であると改めて実感しましたので、気軽に参加してもらえるレクレーションや懇親会を企画するなど、手法を検討して下さい。
- (7) 例会企画を活用した対内周知の場合、参加促進を担当委員会に任せるのではなく、例会企画の実施委員会による出欠確認を行うことで、参加促進に繋がる事も考えられるので検討して下さい。
- (8) 今回は、PR マークの決定を各委員会によるプレゼンテーション大会にて決定しましたが、40 周年の PR マークを担当委員会への一人で決定したように行う方法もあります。どちらかが優れた手法であるという訳ではなく、状況により検討し実施された方が良いと思います。
- (9) 広報ツールは、のぼり旗、横断幕は必須だと思われるので、必ず PR マーク、スローガン等々を反映させて作製して下さい。また、ピンバッチ以

外にも、ネクタイやエコバックなど人の目に触れるツール、活用して頂けるグッズなどを検討してみてください。

(10) 高額になるツールなどの品物を発注する際には、見積書の発行だけでなく、サンプル商品の確認を行い、希望する仕上がりの品質で予算計上して下さい。

VI. 事業名【 会員拡大事業の推進 】

1. 事業目的

「天草の明るい豊かな社会」の実現に向けて、共に天草の未来を創造し、行動する仲間を作っていくために、翌年に控えた創立50周年時、会員数100名を目指す。

2. 参加人員

(内部) 理事・役員	2名
メンバー	0名
その他	0名
合 計	2名

3. 事業内容

研修拡大委員会と共に8月、11月企業訪問を実施

委員会開催報告

回数	開催日	委員会開催場所	内 容	出席	欠席	出席率
1	2011.10.13	J C 会館	年間事業計画協議	2名	0名	100%
2	2011.12.13	J C 会館	年間事業計画協議	2名	0名	100%
3	2011.12.21	J C 会館	年間事業計画協議	2名	0名	100%
4	2011.12.27	J C 会館	年間事業計画協議	2名	0名	100%
5	2012.1.23	J C 会館	事業内容協議	2名	0名	100%
6	2012.2.21	J C 会館	事業内容協議	2名	0名	100%
7	2012.3.6	J C 会館	事業内容協議	2名	0名	100%
8	2012.4.10	J C 会館	事業内容協議	2名	0名	100%
9	2012.4.19	J C 会館	事業内容協議	2名	0名	100%
10	2012.5.18	J C 会館	事業内容協議	2名	0名	100%

11	2012.5.22	J C 会館	事業内容協議	2名	0名	100%
12	2012.6.12	J C 会館	事業内容協議	2名	0名	100%
13	2012.6.23	J C 会館	事業内容協議	2名	0名	100%

委員長所見

私たち委員会に与えられた職務を簡単に言ってしまうと「2013年に迎える創立50周年をどうしたいのか」ということです。この大切な創立50周年の準備を副理事長と副委員長の三人四脚で描かせてもらえたことは、とても貴重な経験となり、喧々諤々と議論を重ね、時にはぶつかり合い、時には支えあう時間でもありましたことに感謝申し上げます。

50年に及ぶ当青年会議所の月日を紐解くことは、簡単に語ることは出来ません。だからこそ、先ずやるべきことは、先輩たちが一日一日と積み上げ築かれた歴史を振り返りたいと思い「創立50周年総決起大会 想いをひとつに」を開催しました。当日は、23名の歴代理事長を始めとした沢山の先輩方にご出席賜り、これからの50年という大きな扉のカギを開けるヒントをお聞きすることが叶いました。この時に壇上で語って頂いた先輩方の表情が、とても笑顔に溢れていて、私たち現役へのメッセージも温かく力強い言葉を頂けたことに、改めて感謝申し上げます。この日、私が感じた「やるなら、皆が楽しくやれるように」という想いから、テーマを「The Future of Dramatic Amakusa」とし、スローガンを「Good Amakusa Good j c ~ JAYCEEは天草とともに~」に決定させて頂きました。さらに、50周年を対内外にPRするシンボルマークを各委員会対抗のプレゼンテーションにより決定したことで、メンバーの周年へ向けた意識も高まり、和気藹々と想いを語り合う楽しい時間にすることも出来たと実感しています。しかし、これからが本番です。

メンバーの皆さん、創立50周年記念大会を迎えることを、どう考えていますか。人生80年といわれる昨今、私は現役として携われることは、幸せなことであり、責任ある一年になることを自覚しました。そして、メンバー一人ひとりの関わりとやりがいある充実した時間を一緒に過ごせることを楽しみにしています。2013年は、さらに笑顔満点の私に進化することをお約束し、ご協力頂きました一年間への感謝とお礼の挨拶とさせて頂きます。

担当副理事長所見

Union of JAYCEE委員会は、二人だけの委員会でしたが、とても大事な職務を担っていました。創立50周年記念大会の準備です。50周年記念大会は、ただ50年の節目に当たるから開催するのでは意味がないと考えます。50年間天草と共に歩み続けてきた歴史と、天草の発展のためにたゆまぬ努力を続けてこられたJCイズム＝伝統をこれからも守り続けるという気概と、大志を抱き未来を切り拓いていく強い想いが融合し、更なる天草地域の発展に繋げていくことこそが、この50周年記念大会を開催する意義であり使命であると思います。その大事な記念大会の準備をするにあたり、段下委員長と長山副委員長は、来年の50周年の成功に何が必要か真剣に考え、情熱と行動力を持って責任を全うしてくれました。

準備としては、50周年記念大会に向けて開催日程・場所を決定し、根幹となる大会テーマ・スローガンを想いを持って決定しました。そして、歴史を築いてこられた多くの先輩方と総決起大会を開催し、交流を育みながら周年への意識の高揚を図りました。ま

た、スムーズな実行委員会の立ち上げを視野に入れ、プロセスの提案書を作成し、皆で考え、皆の想いのこもったPRグッズを作ろうとプレゼンテーション大会を開催し、余念なく一年間を通して準備を行ってきました。

しかし、準備には限りがありません。なぜならば完璧は無いからです。しかし、完璧を目指してひた向きに努力していくプロセスにこそ、学びや気付きがあり、自己成長に繋がるのです。実績重視の社会では結果を求めますが、JCは成果を重んじる団体です。だから、失敗も許される人生の学び舎なのです。2012年に考えられる全ての準備は行ってきました。この50周年準備委員会であるUnion of JAYCEE委員会の成果は、2013年の50周年記念大会の成功に尽きると思います。人間は、努力すれば必ず報われ、怠れば足元をすくわれます。つまり、人間は努力した分しか成果は付いてこないという教訓です。

来年は、メンバー皆で和気藹藹とプレゼンテーションをして決めた想いのこもったPRバッジを胸に各地にPRに赴き、委員長を中心に委員会としての覚悟を表した「Good JC Good Amakusa」のスローガンの元、「ドラマティックな天草の未来」の創造に向けて、準備の真価が問われる年となることでしょう。そして、何度も議論を繰り返して構築してきた一年間の準備が、必ずや50周年記念大会を大成功に導き、更なる天草地域の発展に繋がることを確信致します。

最後に、委員長と副委員長の一年間の労を労うと共に、ご協力頂きました全メンバーに感謝申し上げ副理事長所見と致します。ありがとうございました。

2012年度 社団法人 天草本渡青年会議所 委員会年間事業報告書

- 委員会名：元気交流委員会
- 担当副理事長名：河口 克也
- 委員長氏名：吉本 雅弘
- 副委員長氏名：荒木 圭一
- 委員氏名：南平 礼、吉永 陽三、小林 三剛、松永 英也、松浦 光毅

I. 牛深ハイヤへの参加

1. 事業目的

(対外)

天草を代表する祭りの牛深ハイヤ道中総踊りに参加し、盛大な祭となる為の一助になることで、牛深ハイヤの振興に寄与することを目的とする。

(対内)

牛深ハイヤ祭りを通して社団法人天草本渡青年会議所メンバー間、さらには牛深青年会議所メンバーとの交流と親睦を深めることを目的とする。

2. 実施日時・場所

・実施日時

前夜祭(懇親会)	(有)うしぶか葬祭	2012年4月21日(土) 17:00~18:30
前夜祭(総踊り)	牛深総合センター	2012年4月21日(土) 19:00~20:30
牛深ハイヤ(事前懇親会)	(有)うしぶか葬祭	2012年4月22日(日) 11:00~12:30
牛深ハイヤ(総踊り)	牛深地域周辺一帯	2012年4月22日(日) 13:00~16:00
牛深ハイヤ(事後懇親会)	ホテル久保田	2012年4月22日(日) 16:00~19:00

3. 参加人員

【前夜祭】

(外部) 関係諸団体	0名
(内部) 理事・役員	5名
メンバー	3名
その他(家族)	0名
合計	8名

【牛深ハイヤ当日】

(外部) 関係諸団体	0名
(内部) 理事・役員	18名
メンバー	4名
その他(家族)	5名
合計	27名

4. 事業内容

- ①一人でも多くのメンバーで参加するために、早い段階での周知徹底を行う。
- ②祭り当日により親睦を深める場とするために毎年恒例の花見に牛深メンバーを招待し、メンバー間の交流を図る
- ③移動の際も、一人でも多くのメンバーで交流と親睦を深めることが出来るようにバスをチャーターし乗り合わせにて移動を行う。

5. 成果

(対外)

牛深青年会議所チームと共に大勢のメンバーで参加し、道中総踊りを盛り上げたことは、牛深ハイヤ祭りに充分寄与することが出来た。

(対内)

牛深ハイヤの参加を通して、バス内や昼食会、道中総踊りなどで楽しい一日を過ごすことが出来た。それにより、当青年会議所メンバーの交流はもちろんのこと、牛深青年会議所メンバーとも交流を深めることが出来た。

6. 引継事項

- ①本年度は、毎年恒例の新入会員主催による花見に牛深メンバーをお呼びし、交流を図ってから牛深ハイヤへの参加でした。どんな理由でもいいので牛深メンバーと交流を図る機会を増やせばより参加人数も増え交流が図れますのでご検討ください。
- ②本年度は全体の参加案内を日曜日に開催される牛深ハイヤのみ呼びかけをしました。土曜日の前夜祭もありますので、日曜日に参加出来ないメンバーには土曜日の呼びかけを行うと少しでも参加することが出来ますのでご検討下さい。
- ③本年度は牛深ハイヤ実行委員会にてバスをチャーターしての参加になりました。送迎の費用等に関しても牛深ハイヤ実行委員会に確認をとり、しっかりと委員会で協議し、メンバーに案内を行ってください。(本年度はバスの費用負担なし)
- ④バスを使用せずに個別で参加されるメンバーもいますので、行き帰りの交通の便の配慮をしっかりと行って下さい。

II. 事業名 【名寄・天草 心の交流事業「陶器でMy箸を作ろう！」】

1. 事業目的

(対外)

名寄JCに天草の伝統文化に触れていただき、天草をそして天草本渡JCメンバーをより身近に感じていただき絆を深める事を目的とする。

(対内)

交流事業を通じて名寄JCへの理解を深め、今まで以上に身近に感じていただく 事

を目的とする。更にはメンバーの家族とも交流を図り、親睦を深めるとともに名寄に興味を持ってもらう。

2. 実施日時・場所

(日時)

【M y 陶器著作製】2012年 6月24日(日)

午前の部 9:00~12:00

午後の部 13:00~17:00

【全国会員大会にてM y 陶器箸手渡し】

2012年10月13日(土)

たから市終了後懇親会場 21:15~22:00

(場所)

【M y 陶器著作製】

天草市天草文化交流館 (旧教育会館)

熊本県天草市船之尾8番25号 TEL・FAX 0969-27-5665

【全国会員大会にてM y 陶器箸手渡し】

小倉リーセントホテル 2F 祇園の間

福岡県北九州市小倉北区大門1-1-17 TEL 093-581-5673

3. 参加人員

【M y 陶器著作製】

(外部) 関係諸団体 3名

(内部) 理事・役員 19名

メンバー 7名

その他 11名

合計 40名

【全国会員大会にてM y 陶器箸手渡し】

(外部) 関係諸団体 6名

(内部) 理事・役員 20名

メンバー 4名

その他 1名

合計 31名

4. 事業内容

(1) 水の平焼と天草更紗に協力をお願いし、M y 陶器箸と天草更紗の袋をLOMメンバーで作製する。全国会員大会たから市が終了後の名寄ナイトで、M y 陶器箸を直接名寄JCメンバーにお渡しする。また、参加していただいたご家族には手びねりの方法を使って、茶碗等を作製していただく。

(2) 名寄市のパンフレットを事務局に設置する。また、事業当日にはメンバー及び家族に名寄市のパンフレットを配布する。

(3) 名寄JCにLOM内広報誌を送り、天草本渡青年会議所のリアルタイムな情報をお届けする。

(4) My 陶器箸を作製する際には名寄・天草交流ヒストリ一年表と名寄JCメンバー全員のプロフィールを作成して貼り出す。

(5) 天草更紗、水の平焼き、天草のパンフレットを送付し名寄JC事務局に設置、回覧していただく。

(6) My 箸作製事業当日の様相を撮影したビデオレターを制作し、全メンバーのプロフィールと一緒に名寄JCに送付する。

5. 成 果

(対外)

メンバーの手作りによる水の平焼を用いたMy 陶器箸と天草更紗を用いた箸袋をお渡しすることで、天草の伝統文化に触れていただき身近に感じていただくことが出来ました。また、全国大会で直接お会いし、My 陶器箸を渡しお互いの地域やまちづくりについて語り合った事で、天草をそして天草本渡JCメンバーを更に身近に感じてもらい絆を深める事が出来た。

(対内)

名寄メンバーのプロフィールの掲示と名寄市のパンフレット配布を行ったことで、名寄JCへの理解を深め、身近に感じていただく事が出来た。また、事業を通じてメンバーのご家族とも交流を図り、親睦を深める事ができたとともに、事業の目的・趣旨も伝える事ができ、名寄に興味を持ってもらう事が出来た。

6. 引 継 事 項

(運営上の問題点)

①名寄JCに毎月LOM内広報誌を送り、天草本渡青年会議所のリアルタイムな情報をお届けすることで、さらに身近に感じてもらう事が出来ますので今後ともご検討ください。

②全国大会プログラムをしっかりと担当委員会が把握し、記念式典や卒業式の開催をはじめとした各ファンクションの内容や楽しさを伝える事が参加推進方法に繋がります。ご検討ください。

③FAXや案内文だけではなく、メンバー一人一人に直にお会いし名寄JCへプロフィールやビデオレターを送るための趣旨説明をしっかりと行うことで参画していただくことができます。ご検討してください。

(参加推進方法の検証)

①新たに作製する試作品は、完成まで余裕を持ったスケジュールで作成してください。また、ものづくりをされる際には試作品を少しでも早く作製をし、手に触れてもらう事が参加推進に繋がりますのでご検討ください。

②例会や総会で参加促進を図りましたが、欠席をしたメンバーには告知する事が出来ませんでした。また、どうしても仕事や家庭の事情で参加出来ないメンバーもいます。直接電話をしたり直接会いに行き、事業の話をする事で少しでも交流を図れたり携われたり出ると来ると思います。今後の参加推進に繋げてください。

③名寄メンバーのプロフィールを事務局など目の付くところに張り出すことでより、親近感が湧き今後の交流のツールとして有効であると思われました。参考にしてください。

④事業前の家族が集まる機会にPRを行う場合は、事前に委員会で協議し興味を持っていたらだけチラシなどを作成し呼びかけをするなどの参加推進方法をご検討ください。

⑤各委員会でオブザーブ参加し呼びかけを行ったがスケジュール調整等難しく、全ての委員会で呼びかけをする事が出来なかったため、事業内容説明会などメンバーに集まっていたとき周知する場を設けるなどの手法もご検討ください。

⑥プロフィールや、ビデオレターをお互いで送り合い事前に鑑賞しておく事で、直接で会った時に少しでも距離感を縮める事が出来ました。今後も交流ツールとして、相互間における作成と実施を検討してください。

(その他の問題点)

①LOMメンバー、メンバーの家族や子どもがケガした場合を想定し配慮はしていたが、ケガをされた方がおられました。今後刃物等、危険な道具を使用されるのであれば救急箱の準備やメンバー、保護者の方々が子どもに付き添う等を行い、注意事項などでの呼びかけもしっかりと行ってください。また、危険な道具を極力使用しなくて済むように下準備をしておくなどの方法もご検討ください。

②手作りで贈り物をする時には、使う素材などの選定を慎重に行い、鮮度や強度などの試験をしっかりと行い事業を組み立ててください。

③委員会で何度も試作を重ね所要時間を協議し、作製するものに対して余裕をもった時間設定をされるとより楽しい事業となりますので、ものづくりを行う際にはご検討ください。

(予算上の問題点)

①メンバー数分、物品を送られたりする場合には年度中にメンバーが増減するケースが考えられますので余裕を持った予算を組んでください。

②事務局の備品を使用する際には、事業当日まで委員会でしっかりと確保してください。事業準備の段階で無くなると予算計上していない部分で予算を負担する事になり非常に困ります。ご検討ください。

③業者に予算を打ち合わせする際は金額の変更がないようにしっかりと口頭で約束をせず、見積もりをとってから確約をいただくようにしてください。

④備品を準備する際は講師との打ち合わせをしっかりと行い、確認もれのないようにしてください。

⑤委員会資料を使わず委員会を開催・運営出来れば、資料作成する時間や配布する手間が省けより効率のよい会議できます。今後もパソコンを使いペーパーレス会議を徹底出来るよう継続してください。

⑥保険を使用する際は、商品の性質上(一定の保険料や人数)などにより、業者によっては単価が変わるケースが発生いたします。人数が大幅に変わる場合は事前に見込み数を出し、保険料を算出するようにしてください。

⑦名寄JCと商品をやり取りする際には、送料の負担についても事前にしっかりと打ち合わせを行ってください。

⑧事業実施スケジュールを確認し、審議通過後も定期的な確認を行い、スケジュール通りの運営を心がけてください。

⑨天草島外で商品を購入する際には振込手数料がかかるケースがほとんどです。天草内に商品がなく、今後どうしても島外で商品を購入する際には振込手数料の計上をお忘れなく。また、今回のニスにつきまして、天草になかったため仕方がなく島外で購入することになりましたが、地元で買えるものは出来る限り地元で購入するよう心掛けてください。

⑩事業を計画する際の予算組みは、委員会で時間をかけてしっかりと話し合い、予算を上回らないよう綿密に行ってください。

Ⅲ. 事業名：【天草ほんどハイヤ祭りわっしょーいっ！】

1. 事業目的

(対外)

天草ハイヤを通じて、地域社会の発展や文化の振興を目的にするとともに、メンバーの家族や、牛深青年会議所と交流を図る事を目的とする。

(対内)

天草ハイヤの歴史を学び、祭りが行われた経緯を理解して参加する事の出来るメンバーを一人でも多く増やす。また、山車を作製する事や道中総踊りに参加する事で同じ目標に向かって活動する機会を設け、当青年会議所メンバー同士の交流を図り、結束力を高める事を目的とする。

2. 実施日時・場所

(日時)

6 月度例会企画	2012 年	6 月 15 日 (金)	20 : 00 ~ 20 : 35
山車作製	2012 年	6 月 26 日 (火) ~ 7 月 28 日 (土)	18 : 30 ~ 21 : 00
事前懇親会	2012 年	7 月 28 日 (土)	17 : 00 ~ 19 : 00
天草ハイヤ道中総踊り	2012 年	7 月 28 日 (土)	19 : 00 ~ 22 : 30
(道中踊り全体練習)		7 月 18 日 (水)	18 : 30 ~ 20 : 00
打ち上げ懇親会	2012 年	7 月 28 日 (土)	22 : 15 ~ 24 : 00

(場所)

6 月度例会企画：肥後銀行 3F 大会議室

山車作製場所：吉永産業倉庫

事前懇親会：天草青果市場（本渡郵便局横）

天草ハイヤ道中総踊り：国道 324 号線【天草市役所～天草信用金庫本店前】

(総踊り練習) 天草宝島国際交流会館ポルト

打ち上げ懇親会：あまくさ村

3. 参加人員

【道中踊り当日】

(外部) 関係諸団体	39名
(内部) 理事・役員	19名
メンバー	12名
その他	0名
合 計	70名

【山車作製】

(外部) 関係諸団体	3名
(内部) 理事・役員	24名
メンバー	16名

	その他	5名
	合 計	48名
【事前懇親会】		
(外部) 関係諸団体	30名	
	(内部) 理事・役員	26名
	メンバー	8名
	その他	0名
	合 計	54名

4. 事業内容

【例会企画】

- (1) 例会企画で天草ハイヤ道中総踊りの原点や今までの経緯を学び、理解を深める。
- (2) 当時、天草ハイヤに携わられた本渡商工会議所婦人部に在籍されていた方にインタビューし取りまとめた内容や、当時の想いをメンバーに聴いてもらう。
- (3) 執行部、各委員会別に分かれ、社団法人天草本渡青年会議所として天草ハイヤに今後どのような形で関わっていくのか、また今以上にこの祭りをよくする為にどうすればいいかなどの意見を考え述べてもらう。
- (4) 8月度総会にて、話し合った結果を取りまとめ配布する。

【道中総踊り】

- (1) 当青年会議所として、一人でも多くのメンバーで天草ほんどハイヤ祭りに参加をし、天草ほんどハイヤ祭りを通じて地域の祭りを盛り上げる。
- (2) 当青年会議所と、牛深青年会議所またメンバーの家族で道中総踊りに参加し、踊りを通じてメンバー同士の交流をより深める。
- (3) 事前懇親会の中でハイヤ踊りの練習時間を設け、ハイヤ道中総踊りの練習を行う。
- (4) 打ち上げ懇親会でお互いの労をねぎらい、共に語り合う事で和をつくりさらなる交流を深める。

【山車作成】

- (1) 全メンバーで協力して山車を作成しメンバー同士の交流を深める。
- (2) 来年50周年を迎えるにあたりPRマークを乗せた山車を参加させる事で、当青年会議所とその活動をPRする。
- (3) フェイスブックやホームページを使い、山車作製プロセスを配信します。
- (4) 全メンバーに障子紙を配布し、会社や個人のPR、また願い事などを書いていただき山車の一部とする。

5. 成果

(対外)

天草ハイヤを踊り楽しみ、天草の伝統文化を身体で感じ地域の人たちと触れ合う事で、地域社会の発展や文化の振興に繋がった。また、当青年会議所を広くPRするとともに、メンバーの家族や、牛深青年会議所と親睦を深め、踊りや山車を披露することで地域の方々と交流を図る事が出来た。

(対内)

天草ハイヤの歴史や祭りを深く知る事で興味を持ってもらい、地域の人達に天草ハイヤの素晴らしさを伝える事が出来るメンバーを増やす事が出来た。また、山車を作製する事で、当青年会議所メンバー同士の交流を図り達成感を得る事が出来た。

6. 引継事項

【例会企画について】

- ①例会企画の時間では委員会の考えていた内容を全て伝える事が厳しい状況であったので、別に会場や日時を設けて行う事をご検討ください。
- ②天草ハイヤに携わられた本渡商工会議所婦人部に在籍されていた方に実際に当時経験をした事など、直接お会いし話を聞かせていただくとよりメンバーに想いが伝わると思いますので講師をお呼びしての講演などもご検討ください。
- ③委員会での伝達がうまくいかず、グループディスカッションでのメンバーへの落とし込みが足りないと感じました。リハーサルなど打ち合わせを綿密に行いスムーズな運営を心がけてください。
- ④事業終了後に例会企画で行なった報告書を早くメンバーに配布する事がより効果がありますので、報告書を作成する際には参考にしてください。
- ⑤例会企画で行った意見を集約したものを参考に、定期的に伝統文化を学ぶ機会を設ける事で伝統文化の継承につながりますのでご検討ください。

【道中総踊りにについて】

- ①道中総踊りの踊りは、昨年と同じく牛深ハイヤで踊った踊りにし、みんなが参加しやすく、踊る内容も簡単な踊りで参加をする事にしましたが、メンバーの中には短調で踊りがいがないと言われるメンバーも一部いました。来年は50周年を迎えます。今後の事も考え、これを機に天草本渡青年会議所だけの踊りを作成されてみてはいかがでしょうか。
- ②今回は参加人数を考慮し、従来の2団体での参加ではなく1団体での参加にしました。100名を越える参加になりますと2団体の登録料が必要になりますので参考にして下さい。
- ③一部のメンバーで事後懇親会に別行動をされる方がいらっしゃいましたので、委員会でしっかりと計画立て、周知徹底し全てのメンバーに配慮を行い今後このような事がないようにお願いします。
- ④今年はメンバー同士やメンバーの家族、牛深青年会議所との交流を第一に考え、一般参加者に広く告知呼びかけは行いませんでした。その中でも参加を希望していただける一般の方々もいらっしゃいますので、一般参加者を募集する・しないに関わらず参加希望があれば受け入れる環境作りをして下さい。
- ⑤今回から他団体に呼びかけをせず、牛深青年会議所と家族だけを呼びかけました。そこで牛深青年会議所のメンバーと事前懇親会にてしっかりと交流を図る時間をとれましたので今後もご検討ください。
- ⑥道中踊りの保険は天草ほんどハイヤ祭り実行委員会にて加入されているかを毎年確認して、内容をご確認の上での加入をご検討下さい。
- ⑦今回、道中踊りの練習は委員会で協議した結果、踊りも牛深ハイヤと同じ理由から当日までの間に一回と、事前懇親会の際に一回の練習としました。踊りの練習などいろいろな理由で牛深青年会議所のメンバーと会う機会を増やす事が出来れば、より踊りや祭りも盛り上がると思います。また、道中踊りの内容を変更する場合は練習の回数を増やすなどご

検討下さい。

⑧今後もハイヤにはメンバーの交流や地域へのPRを目的とし、事業として参加していく事で参加人数を減らす事なく継続していけると思っていますので、次年度も事業計画書を作成しての参加をご検討ください。また、参加人数も減少傾向でありますので参加推進方法にも趣向を凝らした方法で取り組んでください。

⑨道中踊りの参加登録料が複雑（事前懇親会、家族の料金、木札、保険料、クリーニング代など）になるので、委員会での会計担当をしっかりと決めておく事で受付がスムーズになりますのでご検討ください。

⑩木札の注文が出欠の取りまとめよりも先に注文しないといけない（道中踊り参加申し込みの際に注文）ので、早めの出欠取りまとめをしてください。（本年は7月10日の切でした。）

【山車作りについて】

①山車作製場所をメンバーの会社の倉庫をお借りし作製する事が出来ました。山車の作製時期が梅雨の時期でもあり、本年も雨の降る日がとても多かったが、天候に左右される事なく予定通り山車作製が出来ました。今後、山車を作製されるのであれば、場所に関係なく室内で出来るとベストです。ご検討ください。

②山車作製の際にメンバー全員に少しでも携わっていただきたいと考え、障子紙に会社や自分自身のPRを書いていただくような参加推進方法を取り組みましたが、実際に山車作製に全員参加する事が出来ませんでした。メンバー全員を巻き込むためには自宅訪問や企業訪問をし、直接メンバーに会う手法をご検討ください。

③今年使用した山車は事務局横に保管をしており、龍は専門業者（メンバー）へレンタルの依頼をしていただきますと再度使用出来るようにしてあります。今後、新たに作製せず使用される予定がありましたらご検討ください。

④山車作製の現場で、参加していただいたメンバーにフェイスブックを使いアップしていただいた事で参加出来ないメンバーにも状況を伝える事が出来ました。今後も新たな手法として告知呼びかけする際に使用してみてもいいかがでしょうか。

⑤山車作製の開始時間に変更となった場合には、至急メンバーに連絡をし、当日参加出来なくなった時などの対応をしっかりとしメンバーに迷惑をかけないようにしてください。

⑥事業計画時、事務局以外の場所で山車を作製するとメンバーが集まらないのではとの意見があり不安な部分はありましたが、離れた場所で製作を行ってもメンバーは集まって来ていただけました。今後も場所の選定をする際にご参考ください。

（その他の問題点）

①事前懇親会時に会場にトイレがあったにもかかわらず、トイレ以外の場所で用を足している所をハイヤスタッフに見られ、注意をされる事がありました。今後このような事が無いよう、事前にトイレの場所を告知し注意を促して下さい。

②事前懇親会会場から道中踊りの隊列組までの指示が遅く、踊り開始ぎりぎりまで整列する事が出来なかったため委員会メンバーで配慮し、踊りの準備をしっかりと行うようにして下さい。

【予算の問題点について】

①発電機等をレンタルする場合は燃料も含め、借り主とよく打合せを行い予算組みしてく

ださい。

②今後、山車を新たに作成される際は外見や精度に関係なく、メンバーがより交流を図れるように手作りで行うようにしてください。

③障子紙等、使用する数量で予算を計上すると、失敗などで不足する可能性が出てくるので予備材料分も含め、余裕のある予算計上にしてください。

④しめ縄等の作製に技術が必要な場合、一般の方に作製を依頼する際には謝礼が必要なので予算計上してください。

⑤山車のパーツを作る上で、カッターを通常の使い方とは違う形で使用する事になり、刃が想定していた以上に破損しました。この様な使用方法で加工する場合は、器用な人がその部分を担当する、または指導する、など役割を決められた方が良いと思いますのでご検討ください。

⑥ペンキなどを使い文字等を書く場合、書く物に対してのらない場合が有りますので、専門業者にアドバイスをもらうなどしてください。

⑦メンバーの私物等使用させていただくと破損した場合迷惑がかかりますので、事前に購入をするか打ち合わせをしっかりとってください。

⑧計画不足で予算を計上していないものでしたが、山車の臨場感を演出するために（柵、ドライアイスなど）を購入しました。計画時から綿密な打ち合わせをし、きっちりとした予算組みをしてください。

⑨今回、ゴミ処理をしていただけるメンバーがいたのでゴミ処理代はいらなくなりましたが、基本的にゴミ処理代は発生します。予算を計上する際には処理代がかかるケースが想定されますので参考にしてください。

IV. 事業名：【名寄・天草 心の交流事業 P a r t 2】

1. 事業目的

事業目的（対外）

名寄 J C との交流において、互いの L O M 間の交流推進を図ることを目的とする。更には天草・名寄の物産を知っていただき、互いの特産物流通拡大を図ることを目的とする。

事業目的（対内）

メンバーが協力して事業を成し遂げ「和」を育くみ、名寄 J C と共働によって、更なる交流を深めることを目的とする。

2. 実施日時・場所

・実施日時

全国会員大会

地域活性化たから市出店 2012 年 10 月 13 日（土）11：00～16：00

・実施場所・会場

地域活性化たから市

勝山公園大芝生広場

北九州市小倉北区城内3

3. 参加人員

（外部）関係諸団体 6名

（内部）理事・役員 21名

メンバー 3名

その他 1名

合計 31名

4. 事業内容

（1）名寄 J C と交流を図り親睦を深めるため、全国会員大会たから市において、共にブース出店を実施する。

（2）全国会員大会における交流に役立てるため、名寄・天草心の交流事業 p a r t 1 に参加出来なかったメンバーに名寄メンバーを知ってもらうためにも、M y 箸づくりで活用したプロフィールを事務局に張り出しておく。

（3）たから市において、特産物の販売を行い全国の青年会議所メンバー、一般参加者に両地域の特産物を認知してもらい、また天草、名寄の地域振興につながるパンフレットを、当日来場者に配布する。

5. 成果

（対外的）

全国大会を通して、ブース出店や大会式典などの時間を共有したことにより交流と親睦を深めることが出来た。ブースの共同出展は、互いの特産品を知る機会であったとともに

来場者には、天草と名寄の特産品やパンフレットの配布による流通拡大に繋げるためのPRを行うことが出来たため、目的に達することが出来た。

(対内的)

全国大会の全日程を通して、メンバー同士が互いを深く意識し協力し合えたことで、和を育む親睦が図れたと実感しました。またメンバーが名寄市について認識することで互いの距離感もなくなり、さらなる交流を深めることに繋げることが出来た。

6. 引継事項

【運営上の問題点】

- ①実際に運営をする上で、出展内容にもよりますが、1テントで出展する場合のブース人員は8名程度が適正で、後は営業役に回ったり、時間を区切り役割場所等のローテーションを行うと多くのメンバーで関わられます。また、食糧班、設営班、包装班、販売促進班など、それぞれにリーダーを定めて運営を行うと慌てることなくそれぞれの役割に応じて対応できますので参考にしてください。
- ②ブース出展をする際、試食品を準備する事で少しでもたくさんの方々に地域の物産を食してもらえます。また、売上にも影響しますのでブースを出される際はご検討ください。
- ③事業計画時には、当日にプロフィールを渡す予定でしたが、事前にプロフィールを送る手法に変更し、お互いの事を少しでも知っておくことで交流を図りやすい環境を準備出来ました。今後の参考にしてください。

【その他の問題点】

- ①たから市の特産物の紹介パネルの掲載もれの問題は、主催者側との行き違いにより起きたことです。次年度においてブース出展をされる場合は、事前に主催者側としっかり打合せを行い、更に発注した物と相違がないか最終確認も行うようにしてください。
- ②各種大会等で調理し出展する場合、当日無駄なものや足りないものが出る可能性がありますので事前の調査を徹底しレイアウトや備品の確認を早い段階から行ってください。
- ③名寄JCと一緒に出店する場合、料理内容の確認を綿密に行い、特に名寄JC分の仕入れ先を確認し当日買い出し等の内容に工夫してください。
- ④各種大会で出展する場合、フォーラム等の参加者の確認を行い、タイムスケジュール、人員配置を考慮し大会への積極的な参加が出来るようにしてください。
- ⑤移動の時間はメンバー同士が交流し、青年会議所活動を話し合う場にもなりますので、交通手段は大型バスをチャーターして行く等検討してみてください。
- ⑥名寄との交流事業において、互いの窓口を一人に絞ってください。情報が交錯しそれぞれ違った認識をする恐れがあります。
- ⑦ブース出展にかかる備品のレンタル代などの費用は後払いになりますので、支払いをする際は主催者側に早めに請求し支払いを済ませるようにしてください。

【予算上の問題点】

- ①委員会にてしっかりと協議を重ね、審議通過後の変更をしないように準備段階で時間を作って事業計画を立ててください。
- ②今回、事業計画を二つに分けたため、印刷用資料の注文に誤差が生じました。資料の数量はしっかりと計算して予算を組んでください。
- ③今後も資料をなるべく使わずペーパーレス会議を徹底してください。

④食材によっては梱包方法により、荷物を最小限抑える方法もありますので、郵送で送られる際にはしっかりと検討してください。

⑤振込手数料は金額や金融機関により様々な金額があります。しっかりと確認の上、予算計上してください。

⑥出展する日時、曜日、出展場所、天気、料金設定などいろいろな条件で売上額に影響を及ぼしますので、収益事業でブース出展を行う場合、食材の数などは適材になるよう損益分岐点を算出した計画を立案し、食材が余らないようにしてください。

【その他】

①アカデミー事業などで全国大会やこれまでの名寄との交流事業で「楽しかったこと」「メリット面」等を伝達できるPRビデオ等のツールを利用されると参加促進にもつながると思います。

②全国大会規模の大会になりますと交通の便に予想以上の混雑が想定されます。タイムスケジュールを組まれる際にはよく検討されてから作成してください。

③当日の物品搬送車について、出来るだけ一台で済むように考慮してください。出展ブースの兼ね合いから会場に搬入できる車が制限される場合があります。

V. スマイルの実施

1. 事業目的

大勢の前に立ち、笑顔で話せるように取り組んでもらい、自分の想いを言葉で伝える事を目的とする。

2. 参加人員

1月	9名
2月	14名
3月	地区長訪問例会の為なし
4月	10名
5月	16名
6月	13名
7月	11名
8月	14名
9月	11名
10月	17名
11月	12名
12月	14名
合 計	141名

3. 事業内容

毎月行われる例会・総会にて、誕生日・入会月のメンバーをお呼びし、近況報告や自社のPRの場としていただき例会に気軽に発言でき、参画することで有意義な時間を過ごしていただく。

4. 成 果

スマイル発表者には、自己研鑽を図っていただくことができ、メンバー間の情報交換や自己研鑽の場とすることができた。

5. 引 継 事 項

- ①アカデミーメンバーや新入会員にスマイルの主旨・目的をしっかりと伝え、参画してもらえるよう、仕組み作りを検討ください。
- ②次月の誕生日、入会月メンバーを事前に例会などで告知し、少しでも例会に来ていただいて参加してもらえるように呼びかけを行ってください。
- ③過去に行われていた本来のスマイルは楽しい雰囲気で行われていたと卒業された先輩にお伺いしておりました。BGMをかけてスマイルを行うなど、雰囲気をガラリと変えるような趣向を凝らしたスマイルを企画してみてもいいかがでしょうか。

VI. 大忘年会の実施

1. 事業目的

1年間頑張ったメンバーの労をねぎらい、メンバーを支えてくれた家族または牛深青年会議所との親睦を深める。

2. 実施日時・場所

・実施日時

大忘年会 2012年12月1日(土) 19:30~21:30

二次会 2012年12月1日(土) 22:00~23:30

・実施場所・会場

大忘年会 いけすやまもと

二次会 フラワーカラー

3. 参加人員

(外部) 関係諸団体 12名

(内部) 理事・役員 16名

メンバー 9名

その他(家族) 7名

合計 44名

4. 事業内容

会場設営・準備及び次年度委員会への引き継ぎをし、楽しい企画を演出し雰囲気を作り出す

5. 成果

参加したメンバーで労をねぎらい親睦を深める事ができた。また、次年度への引き継ぎもスムーズに行うことができ、楽しい雰囲気を作り出すことができた。

6. 引継事項

①本年立ち上げました明豊躍友会の地方をオープニングに行いました。次年度以降も出来る状態であればオープニング演出を企画してみたいかがでしょうか。

②牛深メンバー、メンバーの家族と席次は用意しておりましたが、当日参加される方がいらっしゃいましたので、席次には人数の増減も考えた配置で作成してください。

③今年も研修拡大委員会に新入会員の紹介をお願いいたしました。忘年会の流れもありますので委員会同士で打ち合わせをしっかりと行って下さい。

④本年度、次年度ともに交流委員会のメンバーが一人でも多く参加することで交流委員会伝統の引き継ぎ式もより盛り上がります。年頭所から思いや意味をしっかりと伝え、一人でも多くのメンバーで参加出来るように呼びかけを行って下さい。

⑤領収書が必要となりますので、メンバー案内文に領収書名欄を記載し、事前に把握しておくことで精算もスムーズに行う事が出来ます。会場にて会費と引換でお渡しするようにしてください。

Ⅶ. 事業名 【 会員拡大事業の推進 】

1. 事業目的

「天草の明るい豊かな社会」に実現に向けて、共に天草の未来を創造し、行動する仲間を作っていくために、翌年に控えた創立50周年時、会員数100名を目指す。

2. 参加人員

(内部) 理事・役員	3名
メンバー	4名
その他	0名
合 計	7名

3. 事業内容

研修拡大委員会と共に3月・12月企業訪問を実施

委員会開催報告

回数	開催日	委員会開催場所	内 容	出席	欠席	出席率
1	2011.10.13	南風	委員会幹事・会計幹事・選考委員の選出・年間事業計画書について	4名	3名	57%
2	2011.10.28	JC会館	年間事業計画について	3名	4名	42%
3	2011.11.8	JC会館	年間事業計画報告	3名	4名	42%
4	2011.12.14	JC会館	名寄パート1 天草ハイヤについて	4名	3名	57%
5	2012.1.5	JC会館	名寄パート1 天草ハイヤについて	4名	3名	57%
6	2012.1.16	JC会館	天草ハイヤ山車について	3名	4名	42%
7	2012.1.26	JC会館	名寄パート1 天草ハイヤについて	3名	4名	42%
8	2012.2.13	JC会館	名寄パート1 天草ハイヤについて	4名	3名	57%
9	2012.2.17	JC会館	名寄パート1 天草ハイヤについて	4名	3名	57%

10	2012. 3. 6	JC会館	名寄パート1 天草ハイヤについて	4名	4名	50%
11	2012. 3. 13	JC会館	名寄パート1 天草ハイヤについて	3名	5名	38%
12	2012. 3. 20	JC会館	名寄パート1 天草ハイヤについて	3名	5名	38%
13	2012. 3. 29	荒木圭一宅	名寄パート1 新入会員歓迎会	4名	4名	50%
14	2012. 4. 8	JC会館	名寄パート1 天草ハイヤについて	4名	4名	50%
15	2012. 4. 14	JC会館	牛深ハイヤとりまとめ	3名	5名	38%
16	2012. 4. 19	JC会館	名寄パート1 天草ハイヤについて	4名	4名	50%
17	2012. 5. 2	JC会館	名寄パート1 天草ハイヤについて	3名	5名	38%
18	2012. 5. 14	JC会館	名寄パート1 天草ハイヤについて	4名	4名	50%
19	2012. 5. 31	JC会館	名寄パート1 天草ハイヤについて	3名	5名	38%
20	2012. 6. 7	JC会館	名寄パート1 天草ハイヤについて	4名	4名	50%
21	2012. 6. 23	JC会館	名寄パート1 事業前日準備	5名	3名	62%
22	2012. 7. 2	JC会館	天草ハイヤについて	4名	3名	57%
23	2012. 7. 26	JC会館	天草ハイヤ準備	4名	3名	57%
24	2012. 9. 13	JC会館	名寄パート2について	2名	5名	28%
25	2012. 10. 3	JC会館	名寄パート2について	3名	4名	42%
26	2012. 10. 11	JC会館	名寄パート2 事業前日準備	3名	4名	42%
27	2012. 10. 22	JC会館	事業報告書取りまとめ	3名	4名	42%
28	2012. 11. 17	JC会館	事業報告書取りまとめ	2名	5名	28%
29	2012. 11. 30	JC会館	大忘年会役割分担打ち 合わせ	3名	4名	42%

委員長所見

本年度、元気交流委員会は社団法人天草本渡青年会議所メンバーの元気の源になり、率先して行動し「げんき」をモットーに想いを繋ぎ一年間活動してまいりました。名寄JCとの交流では、お互いの地域や物産品を形にして北九州の地で直接お会いしメンバー同士の交流を図りました。2013年度には、友好締結20周年を迎えるにあたりメンバー間の親睦を図る良い機会になりました。天草ハイヤへの参加では、天草の伝統文化であるハイヤの原点を学び、今までよりもさらに理解を深め、道中総踊りを通じて牛深青年

会議所メンバーとの交流を図るとともに、メンバー同士の交流や地域社会への貢献につながったのではないかと強く感じています。また、山車作製という目標にメンバーみんなで楽しさや喜びを分かち合い、一つのものを作り上げる達成感を得ることを共有出来たのではないかと感じております。代々受け継がれてきた明豊躍友会の活動においては、「踊りの競演」が市民センターの耐震工事の影響により開催されなくなり、従来の明豊躍友会の活動が行うことが出来ませんでした。それでも、メンバーの結婚式の余興や大忘年会で明豊躍友会として初の地方の演奏を披露出来たことで、新入会員の交流の場を設け、ともに地方の練習を通じて心の交流を図れた事が何より嬉しいことでした。

最後に、交流委員会の委員長とはどんなにきつくても苦しくてもメンバーみんなの前でいつも楽しく元気でいる事。この難しさや大切さを学ぶ機会をいただき、一年前の自分と比較いたしますと一回り大きく「人として」成長させていただいたと強く感じております。この職務を全うすることが出来たのも、いつも厳しく見守っていただいた副理事長をはじめとする、委員会メンバーの協力。また、理事の皆様やフォロワーメンバーの皆様に支えていただいた事で、最後までJC活動に邁進する事が出来ました。このような貴重な経験をさせていただいた事に心より深く感謝いたします。本当にありがとうございました。

担当副理事長所見

本年は、対内交流、友好JCとの交流を重点に計画し活動し、牛深ハイヤへの参加から始まり、名寄JCとの交流、天草ハイヤへの参加、花見の段取り、忘年会の段取りなど多くの交流事業を実施しました。なかでも名寄JCとの交流事業では、全国大会のたから市にて名寄JCメンバーと共同ブース出展で直に交流を図り、また名寄JC全メンバーの顔写真付きプロフィールをJC会館に張り出すなど、素晴らしい手法での交流事業でした。

事業の数が多い元気交流委員会は毎月何かしらの議案と奮闘し、メンバーからアドバイスを頂きながら、たまに叱られ、初委員長として事業を遂行して行く事は大変だったと思いますが、目的達成したときの喜びを味わうこともでき、自分自身大きく成長したのではないかと感じております。

元気交流委員会の担当をさせて頂きましたが、担当として委員会のために何が出来たのか。メンバーのために何をしてやれたのか。自分の不甲斐なさ力不足を感じ、委員会メンバーにも負担をかけたと反省しております。

本年1年間、様々な経験・感動させて頂いたことに感謝致します。反省するところも多々ございましたが確実な成長に繋げることが出来ました。本当にありがとうございました。

2012年度 社団法人 天草本渡青年会議所 委員会年間事業報告書

- 委員会名：研修拡大委員会
- 担当副理事長名：田中大地
- 委員長氏名：平井太宗
- 副委員長氏名：前田知洋
- 委員氏名：岡本幸一郎・長井正行・小浦一馬・野崎亜季子・宮崎正臣・泉貴雄

I. 事業名【アカデミー研修事業】

1. 事業目的

(対外)

入会候補者に青年会議所とはこういった活動をしているのか、またどんなメンバーが所属しているのかを理解してもらうことで、入会への意欲を高めて頂く。

(対内)

アカデミーを主とした全メンバーが、JCの活動目的や活動機会を学び、これからの青年会議所活動に対する自分の携わり方や目的を確認することで、各事業などへ積極的に関わる契機として頂く。また、同じLOMに集う仲間として、メンバー同士の絆を一層強くする。

2. 実施日時・場所

(日時)

2012年9月9日(日)

12:00~14:00(受付 11:30)

※懇親会 14:10~18:30

(場所)

五和海洋レジャーセンター

〒863-2201 熊本県天草市五和町御領 9264

TEL: 0969-32-2223 FAX: 0969-32-2223

3. 参加人員

(外部) 入会候補者 3名

(内部) 理事・役員 20名

(内、アカデミーメンバー 3名)

メンバー 17名

(内、アカデミーメンバー 8名)

その他 0名

合計 40名

4. 事業内容

(対外)

- ① 入会候補者へも最適なセミナーである、日本JC公認プログラム「Vision Mission & Values (VMV)」を参考に、天草本渡JCに関する内容を中心としたセミナーを実施する。
- ② 入会候補者の方には、JCメンバーで構成された各グループに分かれてセミナーを受けて頂く。
- ③ 懇親会の中で、入会候補者の方を含め、全メンバーの自己紹介を行ない、どういったメンバーが所属しているのかを理解してもらう。

(対内)

- ① 新入会員向けのセミナーとしても全国で開催されているVMVセミナーを参考に、天草本渡JCについて特化したセミナーを構成する。
- ② 当委員会メンバーが、セミナーの講師役を務める。
- ③ アカデミーメンバーへ事前に青年会議所について知りたい事などの聞き取りを行ない、その回答を基にしたセミナーを実施する。
- ④ VMVセミナーを構成する、青年会議所のVision (目的)、Mission (使命)、Values (価値感)の項目ごとに、グループワーキングの時間を設ける。

5. 成果

(対外)

- ① 事業実施後のアンケートで、参加して頂いた全ての入会候補者から事業内容は「十分です」との回答もあり、青年会議所の活動を少しでも理解して頂く機会となった。
- ② 当日参加して頂いた入会候補者の内、1名から快く入会の承諾を得ることができたことから、入会への意欲を高める事業が実施できた。

(対内)

- ① アカデミーメンバーの知りたい事を踏まえ、JCの活動目的や活動機会について説明しているVMVセミナーを基に組み立てたセミナーを実施した中で、多くの参加メンバーから十分な内容だったと反応もあり、メンバーの今後の青年会議所各事業へ多くの参加が期待できる。
- ② 懇親会においては、ご家族も含め、天草本渡青年会議所メンバーだからこその繋がりの中で、メンバー同士の親睦がより深まる機会となった。

6. 引継事項

- ① 講師役メンバーの発表内容に関しては、まず基となるシナリオを委員長と副委員長で作成し、リハーサルを重ねる中で講師役のメンバーが自分なりの言葉へ置き換え、発表に向け理解を深めてもらいました。しかし、人に伝わるような発表をするには、青年会議所の歴史が載っている資料の閲覧や参考になるセミナーへの参加など、基

となるシナリオを作成する段階から講師役のメンバーに任せることが、具体的な理解へ繋がると感じます。ただし、担当メンバーには早めの投げかけを行なって下さい。

- ② 講師役メンバーのやむを得ない理由による急な欠席にも対応できるように、委員会メンバー誰もが講師役として代役が務まるように、リハーサルを重ねるなど準備をしておいて下さい。
- ③ アカデミーメンバーへ青年会議所について知りたいことなどの事前聞き取りは、アカデミーメンバー自身にとっても有意義なセミナーの構築に繋がりますし、セミナーの内容を構成する側としても組立てがしやすくなります。全ての意見を反映することはできなくても、本事業に参加したアカデミーメンバー全員から内容はよかったとアンケートの回答があったことから、事前の聞き取りはぜひ行なって下さい。
- ④ 各グループ内での進行役は、内容を熟知している運営側の委員会メンバーが担当するのが理想ですが、どうしても他のメンバーに依頼する場合は、該当するメンバーに時間を作ってもらい、グループワーキングの内容や落としどころの説明を行なって下さい。
- ⑤ やむなく事業時間が超過してしまうケースを考え、後に質疑応答など調整が取りやすい時間を設けていたほうが、余裕を持った進行ができる。
- ⑥ セミナーで説明に使用する言葉は、参加者全員を入会候補者目線で考えた言葉使いをした方が、参加者全員の理解へと繋がります。どうしても分かりにくいJC用語を使わなければいけない場合は、補足説明をして下さい。
- ⑦ 知識を得ることも研修ですが、所属しているメンバーと多くの言葉を交わし、意見を出し合うことも大切な研修の一環と考えます。グループワーキングでひとつの事業を実際に組立て、発表するなど、お互いにコミュニケーションが自然と取れるような作業をぜひ多く取り入れて下さい。
- ⑧ 飲食が伴い、比較的人の移動が多くなる懇親会では、各自の役割が煩雑になりやすいので、全体的な進行がスムーズにいくように、事業担当の委員会メンバーは特に自分の役割をしっかりと把握しておいて下さい。
- ⑨ 事業を担当する委員会外のメンバーに対して、参加依頼や色々な確認作業などが出てくる場合は、事業担当委員会メンバー各自に担当する委員会を割り振っておくと、事業実施に向けて準備がしやすくなります。それぞれに責任感を持たせる点でも効果的です。
- ⑩ 懇親会費など参加費用を無料にすることは、参加促進にそれほど効果的なものではありません。参考にアカデミーメンバーに聞き取りをした所、参加できるかどうかは仕事やその日の都合が付くか付かないかが大きな要因で、無料かどうかは関係ないとのことでした。より多くの参加者を見込むなら、興味を持てる事業内容の構築や積極的な呼びかけを行なって下さい。
- ⑪ 今回のように全メンバーが一律でない登録料が発生する場合、その支払い作業に労力をとられる場合があります。事業当日ではなく、支払いのみ事前に済ませておくと、当日他の準備に余裕ができます。
- ⑫ 出席者数が計画時より減ったことで生じる経費の減額に関しては、一人でも多くのメンバーの参加を考える上で、その差異を全く無くすことは困難だと考えます。ただ、より現実的な参加人数に近づける方法として、今回アカデミーメンバーのみに

行なったように、事前に検討している事業実施日に対して、現時点での出欠状況の聞き取りを行なうとよい。

⑬備品の購入にあたっては、価格の確認と共に、予定している購入時期にその在庫があるかどうかの確認も併せて行なって下さい。また、備品には漏れが無いように、事業当日の流れをしっかりと確認して下さい。

⑭参加者に記入して頂く資料がある場合は、まず集めた意見をどう活用したいか、落としどころを確認し、そこから分かりやすい設問内容の記載をして下さい。

⑮入会候補者の参加人数を検討する際は、各委員会一人ずつという考えの他に、実際に挙がっている入会候補者の中から現在反応がいい人の精査を行なうと、より現実的な人数が出てきます。

⑯複数の業者価格の合算で設定された懇親会一人当たりの参加費は、業者ごと一人当たりの単価の確認を取っておくことで、後の会計処理がしやすくなります。

⑰入会して日の浅いアカデミーメンバーを対象とした研修事業は、入会候補者に対しても分かりやすく、青年会議所を身近に感じて頂く機会になると思います。担当委員会の意向によるかと思いますが、ぜひ入会候補者の参加もご検討下さい。

⑱会場の施錠までを考え、事業閉会後の会場後片付けまでのタイムスケジュールを把握しておいて下さい。

Ⅱ. 事業名：【会員拡大事業の推進】

1. 事業目的

(対外)

当青年会議所の紹介を含めた会員拡大活動を行ない、周囲からの認知度向上を図り、入会への関心を高める。また、会員を増やすことで、社会への奉仕を行なえる人材を地域に拡充させ、天草の発展に貢献する。

(対内)

会員拡大を通して、地域貢献や自己啓発に向け、より充実した事業を実践できる当青年会議所を目指す。また、創立50周年時に会員数100名の目標達成に向け、会員全体で取り組もうとする啓発をメンバーに行なう。

2. 実施日時・場所

(日時)

通年

1～8月：企業・候補者訪問 9月～12月：候補者訪問

(月に4回 毎週火曜日 9:00～12:00 13:00～16:00 を基本)

2月度例会企画 2012年2月15日(水) 30分間

(場所)

社団法人天草青年会議所エリア全域

例会：肥後銀行天草支店 3F 大会議室

3. 参加人員

(外部) 入会候補者 45名

(内部) 理事・役員 25名

メンバー 42名

(内、新入会員 10名)

その他 0名

合計 112名

4. 事業内容

(対外)

①入会案内冊子を作成し、天草内の企業訪問を行なうことで、当青年会議所の幅広い紹介と、入会候補者の情報収集ができる。

②入会候補者への勧誘訪問を継続的行なうことで、当青年会議所への理解を深めてもらう。

③あしなみや事業案内文を、企業や候補者への訪問の際に入会案内冊子と共に配布することで、当青年会議所のメンバーや活動内容を、広く周知できる。

④当青年会議所のホームページに入会案内のページを作成することで、天草内外の住民に広く、活動の紹介を行なうことができる。

(対内)

- ①入会案内冊子を作成することで、メンバー各々が会員拡大活動を行ないやすくなる。また、メンバーが利用できるよう事務局に準備しておく。
- ②当青年会議所入会申込書内容の検証により、入会時の動機や入会時期等をデータベース化することで、有効な勧誘情報として役立てることができる。
- ③賛同いただけるメンバーの事務所等、目立つところに入会案内冊子を置かせてもらうことで、当青年会議所のPRと、メンバーに会員拡大への意識を常に持っていただく。
- ④各月の会員拡大当番委員会を決め、月に4回のスケジュールで研修拡大委員会メンバーが同行のもと、企業訪問や入会候補者訪問に取り組むことで、会全体として会員拡大に取り組もうとするメンバー全体の意識向上に繋がる。
- ⑤紹介・勧誘訪問の状況報告を例会内にて発表、またメールによる周知を行うことで、情報の共有と、それに伴う新たな情報収集へ繋がる。また、勧誘状況の報告書を作成し、閲覧して貰える様に事務局に開示する。
- ⑥2月度例会において会員拡大に関する例会企画を行い、企業訪問などの本年度の拡大手法の落とし込み、また各自の入会候補者の洗い出し等を行なうことで、メンバー全員の会員拡大へ向けた意識の向上を図る。

5. 成 果

(対外)

- ①新規を含めた企業165社へ拡大訪問を行なったことで、周囲へ当青年会議所のPRが出来た。また、10名の新入会員や、新たな入会候補者45名に繋がったことから、入会への関心を高める機会となった。
- ②本年入会した10名の新入会員には各事業へ積極的に参加して頂いたことで、事業目的として掲げている天草の発展に貢献することができた。

(対内)

- ①拡大担当以外全ての委員会に、企業訪問先と会員拡大に繋がる話のやり取りを実際に体験してもらうことで、参加したメンバーの会員拡大に取り組む意識の向上を図ることができた。
- ②月1回の一斉メールや例会時における拡大報告を行なったことで、メンバーから入会候補者に関する情報提供もあり、拡大の意識を高めるきっかけになった。

6. 引 継 事 項

- ①拡大企業訪問では、各委員会に年2回担当月を設けたが、同行してもらったメンバーについては拡大への意識向上を図ることができたと感じる。やむなく参加できなかったメンバーについては、仕事の都合が付く時間や休日を事前に聞いておき、早めに担当日の周知を行なった方が良い。なお、比較的多忙な時期となる11・12月は、メンバーの同行による企業訪問以外の手法を検討されて下さい。
- ②拡大企業訪問は、新たな企業・候補者の発見に加え、青年会議所に対する地域住民・企業の理解度や、天草の現状に対する人の考えを聞くことができ、JCメンバーとしては勿論、いち市民として勉強になる部分もあります。メンバーへ積極的な参加

の呼びかけを宜しく願います。

- ③ 拡大訪問日の企業訪問先が明確に決まっておらず、当日の時間を有効に使うことができなかつたので、前もって担当のメンバーはお互いに話し合い、訪問先をリストアップしておくが良い。
- ④ 昨年から引き継ぎのあった候補者の勤め先や、メンバーからの情報に基づいた企業は、現在ほとんど行き尽くしている状態です。新たな拡大情報を得るために、この地区の企業を1件1件訪問してみるなど、次年度は新規ローラー訪問の実施もご検討下さい。
- ⑤ メンバーの会員拡大活動への呼びかけが不足している部分があった。拡大担当委員会からの呼びかけは勿論ですが、各委員会の次第へ「会員拡大について」の議題の付け加えや理事長からの呼びかけ等、依頼できる部分の検討をお願いします。
- ⑥ 費用をかけて作成した入会案内のしおりに関して、内容の十分な把握ができておらず、訪問先で十分な説明、活用ができなかつた。説明のしやすいレイアウトやしおりに変わる別資料の検討、またはしおりの十分な読み込みを行なってください。
- ⑦ 毎月1回の拡大活動報告のメール配信、企業訪問報告資料の事務局設置、例会次第への活動報告掲載、候補者リストの貼り出しは、拡大活動へ十分に参加できないメンバーとも最新の情報の共有できる手段と考えます。引き続き、使用の検討をお願いします。
- ⑧ 拡大訪問の際には、青年会議所の説明は勿論ですが、委員会や事業への参加案内も併せて行なって下さい。口頭での説明よりも、委員会や事業に参加してもらい、青年会議所を体感してもらうことが候補者への理解へ繋がると思います。
- ⑨ 入会案内冊子を綴じるスライドホルダーや、入会案内冊子に使用したA3用紙が余っております。事業案内文等、拡大ツールへ利用して下さい。
- ⑩ 拡大担当の委員長は自分の委員会メンバー各自が、企業訪問の担当ができるよう、早めにやり方の落とし込みを行なって下さい。拡大担当の委員会メンバー全員が拡大訪問を先導できることで、拡大訪問日の幅広い設定ができます。
- ⑪ 面会予約なしの突然訪問では、話し合う時間が十分に取れないケースがあります。最初の訪問時には、短時間の挨拶程度に済ませ、まず天草本渡青年会議所の誰ということを知ってもらうことで、事前の面会予約も含め、相手側との時間調整の連絡が取りやすくなります。
- ⑫ 企業それぞれで滞在する時間の長短があり、またメンバーのスケジュール調整も毎月同じようにいかない中で、計画通りの部数の入会案内冊子の使用は難しいことです。ただ、使用予定した部数を一気に全部印刷はせず、使用状況に応じてこまめに印刷することで、無駄な印刷代を省くことができます。
- ⑬ 企業訪問時や例会企画時に使用する資料は、よくご検討下さい。企業訪問に関して、本年訪問先の方と話が広がり、有効だと感じた資料は、入会案内冊子、メンバー顔写真一覧、直近の事業案内資料でした。なお、事業案内資料については、事業担当委員会が対外用に用意するチラシもあるかと思いますが、企業訪問時に渡す分を印刷代で計上しておくこともご検討下さい。また、LOM内広報紙も直近の事業やメンバーの事がユニークに伝わるツールだと思います。

Ⅲ. 事業名：【3分間スピーチの実施】

1. 事業目的

人前で自分の意見や考えをはっきりと発言することは、社会人として重要なスキルである。普段人前で発言する機会が少ないメンバーをメインに、実際に人前で話す機会が必要と考える。

2. 実施日時・場所

(日時)

1月、2月、4月～11月 例会時

(場所)

肥後銀行天草支店 3F 大会議室

3. 参加人員

(外部) オブザーバー	3名
(内部) 理事・役員	218名
メンバー	118名
顧問	5名
その他	0名
合計	344名

4. 事業内容

多岐に亘る職種に携わる人々の集合体でもある「JC」の特性を活かし、「立場変われば物事変わる」ことから、身近な時事問題をテーマとし、二側面(局面)からのお話を聞かせて頂く。発表者は、基本としてお互いが異側面となる職場環境、また立場のメンバーを指名。2名の発表者にはテーマを前月に伝えておく。発表を聞いたメンバーは、発表内容を含めた感想をコメント用紙に書き、発表者2名に渡す。

5. 成果

指名していた発表者の都合がつかず、予定通りに行かなかったこともあったが、普段人前で話す機会がない発表者にとっては、社会人としてひとつのスキルを磨く良い機会となった。また、聞き手にとっても、ひとつのテーマに基づいた職業の異なるメンバー各々の考えを聞く貴重な機会となった。

6. 引継事項

①発表者やテーマの設定については、「私の仕事の内容」など、比較的誰もが答えやすいテーマを設定し、例会時や例会案内文での事前周知を行なっておくことで、当日指名でも発表に不慣れなメンバーも参加しやすいかと思えますし、事前指名のケースにあった当日の急な欠席者の対応についても解消できます。

- ②コメント用紙は当日の配布資料などと同じように受付に置いておくとスムーズに運営ができます。
- ③進行役は委員会などであらかじめ決めておくといいと思います。役割を与えておくことで、その委員会メンバーの出席動機にも繋がります。
- ④コメント用紙の内容もご検討下さい。数字で良し悪しを表す部分は、もし悪いと判断の数字だけでは、どこが悪く、どういうふうに直せばいいのかが発表者には具体的には分かりません。
- ⑤コメント用紙をまとめるリングですが、多少扱いづらい感じがしました。発表者が後で見返しがしやすいよう配慮をした上で、綴じ紐などもあるかとは思いますが、コメント用紙を渡す方法は再度次年度でご検討ください。

IV. 事業名：【普通救命講習資格取得の推進】

1. 事業目的

救命行為を要する緊急な場面においても即座に行動が出来るよう、所属する全メンバーが資格取得を目指すことで、地域から信頼される組織へ繋げる。

2. 実施日時・場所

(日時)

2012年11月12日(月) 19:00~22:00

(場所)

天草広域連合消防本部(中央消防署)

3. 参加人員

(外部) シニアクラブ	3名
その他	2名
(内部) 理事・役員	7名
メンバー	2名
その他	0名
<hr/>	
合計	14名

4. 事業内容

天草広域連合消防本部に依頼し、指導員2名のもと、普通救命講習Ⅰの講習を受講。応急手当の基礎知識、心肺蘇生方法、大出血時の止血法、AED(自動体外式除細動器)の使用方法などを学ぶ。

5. 成果

未取得者、また再受講対象者58名の大半とはいかなかったものの、受講した全てのメンバーが、資格取得及び資格更新をすることができた。

6. 引継事項

- ①実施日については、58名の未取得者、再受講対象者（受講後、3年経過）のメンバーを優先に設定しました。そのメンバーの受講希望日を事前に聞き取った結果、今回は希望数が多かった平日の実施となりましたが、仕事の都合上、土日しか都合が合わないメンバーもいましたし、本年の新入会員10名の中からも僅か1名の参加結果となりました。開催日程に余裕が持てるなら、平日と土日の両方を設定することで、メンバー全体が受講しやすくなります。なお、天草広域連合消防本部では、毎月第2日曜の9時から公式に講習会を開いているとのこと。
- ②参加予定で、当日になって欠席したメンバーがいました。消防署は参加人数に応じて指導員の人数を設定するので、迷惑のかからないように、事前の出欠確認はしっかり行なって下さい。
- ③メンバー以外に、一般の方も参加できるようご検討下さい。本年は2名の一般の方に参加して頂きましたが、同じ講習に取り組む中で、初対面でも話しやすい雰囲気でした。青年会議所活動の理解にも繋がりますし、会員拡大のきっかけにもなると思います。

委員会開催報告

回数	開催日	委員会開催場所	内 容	出席	欠席	出席率
1	2011.10.15	幸寿司	年間事業計画書（案） について	6名	2名	75%
2	2011.11.4	(株)エムズ	研修アカデミー事業に ついて 会員拡大事業について	3名	5名	38%
3	2011.12.12	シーサイドカフェ	委員会年間事業計画 （案）について 会員拡大事業について	3名	5名	38%
4	2012.1.12	J C 会館	第58回天草市民駅伝に ついて 1月拡大訪問について 1月度例会 拡大アワ ー 3分間スピーチの テーマについて	2名	6名	25%
5	2012.2.8	J C 会館	2月度例会企画につい て 2月拡大訪問について	3名	5名	38%
6	2012.2.23	J C 会館	3月拡大訪問について 入会候補者掲載広用紙 書き出しについて	3名	5名	38%
7	2012.3.5	海鮮蔵	3月拡大訪問について アカデミー研修事業に ついて	6名	1名	86%

8	2012. 3. 14	J C 会館	アカデミー研修事業について	2名	5名	29%
9	2012. 4. 19	J C 会館	会員拡大企業訪問について 映画「ワッゲンオッゲン」について 創立50周年総決起大会 シニア案内文配布について アカデミー研修事業について	3名	4名	43%
10	2012. 5. 1	J C 会館	アカデミー研修事業について	3名	4名	43%
11	2012. 5. 16	J C 会館	アカデミー研修事業について	4名	3名	57%
12	2012. 5. 22	J C 会館	アカデミー研修事業について	2名	5名	29%
13	2012. 5. 31	J C 会館	6月の企業訪問スケジュールの確認 創立50周年関連 アカデミー研修事業について	3名	4名	43%
14	2012. 6. 18	J C 会館	アカデミー事業について	3名	5名	38%
15	2012. 6. 28	J C 会館	7月拡大企業訪問割振りについて アカデミー研修事業について	4名	4名	50%
16	2012. 7. 27	J C 会館	8月拡大企業訪問割振りについて アカデミー研修事業について	2名	6名	25%
17	2012. 10. 17	J C 会館	普通救命講習資格取得について アカデミー研修事業の 検証について	3名	5名	38%

委員長所見

委員長としてこの1年間を振り返りますと、共に活動する同じ委員会メンバーが勉強になった、充実していた1年間だったとどうすれば感じてくれるかを日々考えていました。昨年、熊本ブロック協議会で委員長を経験させて頂いたこともあり、委員会の基本的な流れや注意点などアドバイスはもらっていましたが、いざ実践してみると、委員会メンバーが意見を言いやすい進行ができなかったり、活動の案内や作業依頼が後手になったりと、仕事の合間をぬって参加してくれたメンバーの時間を無駄にってしまう時もありました。しかし、そんな中でも担当副理事長を始め、委員会メンバーみなでカバーし合い、本年担当を任された事業を予定通り実施することができました。以前、先輩から「委員長になってこそ、勉強になる所が多いよ。」と教えられた通り、人を動かす立場にたって初めて気づかされることが多く、本業の仕事にも繋がる充実した1年間だったと実感しています。

担当副理事長所見

研修拡大委員会は、会員拡大を推し進めると共にメンバーの研修を行う担いがありました。会員拡大は、新たな手法として年間を通して毎月欠かさず企業訪問と勧誘活動を行い拡大に努め、大義を全うするまでに至りませんでした。10名の新たな友を入会へ導くことができました。委員会で予定を立て、全メンバーを巻き込み毎月欠かさず活動を行っていくひたむきな委員長の姿勢には頼もしさを感じました。また、メンバーの研修として、アカデミー研修事業、3分間スピーチ、普通救命講習資格取得を行い、委員会メンバー全員で事業遂行に当たっており会員はもとより委員会メンバー自身の研修にもつながりました。

担当副理事長として、良きアドバイスができるように構えておりましたが、当委員会は事業構築から実施、日々の運動・活動、そして委員会メンバー全員の顔が見える運営と、組織としてしっかり機能し1年間楽しく担当させていただきました。委員長、副委員長と共に委員からも、次年度役員を輩出するに至り、本年得た糧を今後の活動に発揮していただけることと期待しております。

2012年度 社団法人 天草本渡青年会議所 委員会年間事業報告書

- 委員会名：広報渉外委員会
- 担当副理事長名：田中大地
- 委員長氏名：渡辺隆文
- 副委員長氏名：天野秀俊
- 委員氏名：芥川琢哉、山下由希弥、村田勝貴、赤城志学、岩崎昌人

I. 事業名：【機関誌あしなみの発行】

1. 事業目的

(対外)

当青年会議所活動の理念、2012年度の理事長をはじめとする各委員会の方針・活動を発信することで、地域の方々に魅力ある団体を認知してもらい、地域発展の第一歩とする。

(対内)

理事長をはじめとする、各委員会の委員長の方針を認識することによって、メンバー同士本年度の当青年会議所の活動を理解していただき、より協調性のある「地域に必要な団体」を目指す。さらに新入会員拡大のツールとしても利用する。

2. 実施日時・場所

実施日時

【No.169】2012年2月発行 【No.170】2012年11月発行

3. 参加人員

(外部) シニアクラブ	1名
(内部) 理事・役員	25名
メンバー	42名
その他	1名
合計	69名

4. 事業内容

- ①昨年に引き続き、ホームページ上から容易にダウンロードできる環境を作る。
- ②研修拡大委員会と連携を図り、会員拡大のページを設ける。
- ③新入会員に入会の経緯・動機などをインタビュー形式で掲載する。
- ④メンバーの店舗にあしなみ設置を依頼し、残数を確認する。

【あしなみNo.169】

- ①社団法人天草本渡青年会議所の船出をなるべく早く対外に発信し、会員拡大にも早く利用していただく為、2月に発行する。
- ②2012年度の野嶋理事長の活動方針に1ページ目をすべて使ってインパクトのあ

る表紙にする。

- ③顔写真入りの組織図を掲載する。
- ④研修拡大委員会と連携を図り、部数を昨年よりも増やし、会員拡大のツールとして利用する。
- ⑤出向者代表から、LOMを越えた活動をするにあたっての意気込みを掲載する。
- ⑥2012年度の野嶋理事長の想いを受け継いだ各委員会の委員長から本年度の抱負を語っていただく。
- ⑦事業紹介・事業参画・参加募集を掲載する。
- ⑧会員拡大に有効に活用していただく為、最終頁に拡大ページを十分に確保する。

【あしなみN○170】

- ①年度終わりに近づく11月に事業報告を内容とした170号を発行する。
- ②1年間の活動の総評を野嶋理事長に語っていただき、掲載する。
- ③各委員会事業報告を十分にページ確保し、掲載する。
- ④卒業生にJC生活についての熱い想いを語っていただく。
- ⑤当青年会議所創立50周年予告ページを設ける。

(参加推進方法)

- ①169号では2012年事業の方針、170号では2012年事業の事業成果の報告を各委員会に原稿を依頼する。
- ②関係団体等の配布先リストを再検討し、多くの方に読んでもらう。

5. 成 果

(対外)

- ①理事長所信をはじめ、各委員会の方針等を掲載したことで、当青年会議所の魅力を対外に認知していただくことができた。
- ②あしなみの掲載記事について、周年告知文の掲載に関しては、多くの方々への周年に対する意識付けを行う為の手法の一つとなり、JCI・Nothing・But・Net sキャンペーンの推進記事を掲載した事は、設置の契約こそいただけませんが、自動販売機設置を呼びかけた事が地域の方々の、より住みやすい周辺環境という点で地域発展への一助とすることができた。
- ③2012年度は、組織図にメンバーの顔写真を使い、2ページにわかりやすく掲載したことで、当青年会議所の活動や団体の魅力を認知していただくことができた。
- ④年間のおもな事業の紹介と事業に対する各委員長の想いを掲載したことで、地域の方々に対し団体の魅力を認知してもらうことができた。

(対内)

- ①「未来に向かい勇気をもってチャレンジしよう！」のテーマのもと、理事長所信を通し、当青年会議所の年間活動方針やメンバーに対する想い、事業を行うにあたっての姿勢を伝えていただいたことで対内メンバーに本年度の当青年会議所の活動

を理解していただくことができた。

- ②本年度は、研修拡大委員会との連携をはかり、計画段階から拡大用部数を決め昨年以上の150部を、新入会員拡大時のツールとして使用してもらうことができた。
- ③委員長所信を掲載したことで対内メンバーに対し、各委員会の方針を伝え認識してもらうことができた。
- ④第169号での理事長所信、また第170号でのあいさつ文を通しの中で、これまでの想い、JCでの経験や学びを語っていただいたことで、現役メンバーの意識向上を図ることができ、より協調性のある「地域に必要な団体」を目指すことに繋げることができた。

6. 引継事項

- ①本年度は、年2回の発行を行いました。発行作業と同様、発送にかかる作業も予想以上に時間を要しました。引き継ぎ資料として、本報告書以外に発送作業に必要な、あしなみ送付状、配布先リストの一覧表、及びタックシール作成資料等を参考として添付しておりますので、次年度発行に活用していただくようご検討ください。
- ②対内メンバーに対する配布方法に関し、本年度は例会時での配布を行いました。当日欠席メンバーに対しては、事務局メールボックスへの投函で終わらせてしまい、メールボックス内に長期間あしなみが放置された状態が見られました。より多くのメンバーに読んでいただける機会をつくるために、投函後メンバーへの一斉メールで周知を促していただき、長期間未回収のメンバーに対しては直接連絡を入れていただくなど、メンバーに対する配布方法を、配布後のフォローも含め再度ご検討ください。
- ③本年度は研修拡大委員会との連携により昨年以上にあしなみを会員拡大ツールとして活用していただけたことで、対外向けという点で非常に優秀なツールだと考えます。次年度でも他の委員会との連携を図り、各事業の際、事業会場にあしなみ配布用のブースを設け、参加者に対し購読を推進していただくよう、計画書内にあります発送名簿以外への配布もご検討ください。
- ④あしなみは対外に向けた優秀なツールであるため、随時読んでいただける環境をつくるのが大事であると考えます。本年度は当青年会議所ホームページ内からダウンロードできる環境づくりを行いました。委員会での記事回収の遅れや封筒への折り込み作業、タックシールの作成等に時間を要した為、迅速な更新には至りませんでした。今後は、発送に至るまでの十分なシュミュレーションと記事回収に関しては各依頼者に対し回収担当者を決める。ホームページのアップデートに関しては、出版社より製本データもいただけるよう打ち合せを行う等の対応を行い、上記環境づくりの継続をご検討ください。
- ⑤本年度はあしなみを対外に設置させていただく際、訪問先の担当者に手渡ししてしまっただけで、その後の残数確認また、設置の確認がとれない場所がありました。設置場所の把握また、その後残数の確認作業をスムーズに行う為、可能であればメンバー内店舗も含め委員会で設置までをさせていただけるよう訪問先の担当者との交渉を図られる事をご検討ください。
- ⑥依頼記事の回収に関し、依頼する際には期限を明確に伝え、その後も定期的に依頼

者と連絡を取り合う。また各依頼者に対し、委員会内で担当を決めて行う等、記事回収を行う際の手法を再度ご検討ください。

⑦角2封筒を注文する際は、1000部単位での注文を行う事で、割引が発生し単価を下げる事が出来るようです。当初、このシステムを委員会で把握できておらず、500部単位での注文を2回行った為、角2封筒の購入で差異が発生してしまいました。次年度以降、年2回の発行を予定される場合は注文を1回にまとめて行われるよう注意してください。

⑧本年度は、電子資料を主体とした委員会運営と、新たにドロップボックスを併用する事で、予想以上に委員会資料の用紙代・印刷代を削減する事ができました。今後、この運営体制の継続を続けていただくと共に、委員会資料の用紙代・印刷代の計上額をご検討ください。

⑨本年度はあしなみの予算を作成する際、梱包作業に必要なノリの購入を考慮していなかった為、委員会メンバーにノリを持ち寄ってもらう事となり、負担をかける結果となりました。参考までに、本年度は400部程度の発送に対しノリ5本を使用しております。次年度での協議のうえ、予算への計上をご検討ください。

⑩原稿依頼に関し、電話等による口頭での依頼だけでは内容が十分伝わらない事が考えられます。本年度は文字数にバラつきがあり、その後委員会で精査する時間が必要となりました。今後は、依頼内容に文字数の厳守とJC用語の使用禁止の追加また、依頼を受けたメンバーが内容を十分把握する為の手法として、依頼後に再度メールを送る事をご検討ください。

⑪本年度の試みとして、新入会員掲載記事をインタビュー形式で掲載する予定でしたが、全体的な作業の遅れからインタビューを取る時間を作れず、紹介だけの掲載に終わってしまう結果となりました。次年度以降も、委員会メンバーのアイデアを活かした、新しい試みによる掲載を企画されることと思いますが、計画段階でのコミュニケーションや、その後事業計画を伝える際の、委員会メンバーに対するおとしこみ、また可能であれば校正時、記事の調整を行う為の予備企画を準備される等が重要であると考えられますので、ご検討ください。

⑫あしなみに関しまして、現在内部の紹介の記載が多く、公益目的事業として認定される状況ではありませんが、熊本県県政情報文書課と本年の協議内容によれば、地域の諸問題を紹介したり、市民の啓発を促すような配布物にすれば、公益目的事業として認定される可能性があるということです。次年度以降より公益性のあるあしなみをご検討ください。

Ⅱ. 事業名：【LOM内広報誌の作成】

1. 事業目的

どのような団体でも団結力というものがが必要です。今年のLOM内広報誌ではメンバー同士の「和」を築いていけるような見て楽しい広報誌作りを目指します。

2. 実施日時・場所

実施日時

通年(毎月1回例会時に配布)

3. 参加人員

(外部)なし

(内部)理事・役員 25名

メンバー 42名

その他 1名

合計 68名

4. 事業内容

LOM、ブロック、地区の活動を中心に取材し、毎月1回作成、発行し、例会時に配布する。

5. 成果

(対内)

- ①広報誌に掲載する写真を笑顔の多い写真にすることによって見て楽しい広報誌にすることができた。
- ②広報誌に2013年度当青年会議所創立50周年に関する記事を毎月掲載することによってメンバーに対して50周年に向けて意識を向上させることができた。

6. 引継事項

- ①本年度は毎月1回例会時の発行を行いました。11月・12月など事業がない月もありますので、記事の掲載内容を委員会の検討の上、準備をすすめてください。
- ②広報誌の作成は発行日に対して余裕のある作成を行ってください。具体的な作成日マニュアルを作られてもよいかもしれません。
- ③事業やイベントには委員会で話し合い、担当者を決めて、最低1名は確実に現場にて取材活動ができる状態にしておいてください。

Ⅲ. 事業名【ホームページの管理・運営】

1. 事業目的

(対外)

当青年会議所の想いや事業内容を分かりやすく発信し、広く周知する為の有効な活用。また、私たちの運動・活動に好感を持っていただけた対外者に対しての事業への参加推進、及び当青年会議所への入会のきっかけとしてもらう。

(対内)

メンバー間での情報共有、交流の場としての利用。また、対外へ向けて当青年会議所のPRを行う際のツールとしての活用。

2. 実施日時・場所

(日時)

通年

(場所)

社団法人 天草本渡青年会議所ホームページ上

3. 参加人員 (外部)関係諸団体 WEB利用者

(内部)理事・役員 25名

メンバー 42名

その他 1名

合計 68名

4. 事業内容

①各委員会への訪問取材を行い、事業に対する想い、内容等の情報をホームページ上に記載する事で閲覧者に対し広く周知する。

②ホームページ更新を随時行い常に新しい情報を訪問者に対して発信する。

③各委員会に対し、対外配布資料に関しては当青年会議所のURLの記載を徹底していただく。

④メンバー間の情報交換を頻繁に行っていただく為、天草Webの駅の利用推進を呼びかける。

⑤各委員会スケジュールは委員会独自での更新を行っていただく。

⑥各委員会を委員会開催時に訪問し、スケジュール更新方法に対する勉強会を開催する。

⑦ホームページの外部バナー設置を各種団体に積極的に働き掛ける。

⑧当青年会議所の情報発信、共有の為の一手法として「天草Webの駅」を活用する。

5. 成果

(対外)

- ① 理事長の本年度にかけの想いや活動方針をホームページで見たとのお声をいただき、閲覧者に対して青年会議所の活動方針や理念を伝えることができた。
- ② 動画を使用することで、よりわかりやすく青年会議所の事業内容や想いを発信することができ、事業参加推進に繋がった。(青少年健全育成事業)
- ③ 本年度行われた全体の事業を発信したことで、青年会議所の活動の概要を閲覧者に周知することができた。

(対内)

- ① 当LOMの情報や事業内容を連絡網システムにより発信することで、メンバー同士の情報の共有をスムーズに行うことができた。

6. 引継事項

- ① ホームページにて各委員会の日程を掲載される場合は、年頭にアップする方法をホームページ担当委員会が各委員会に周知徹底し、各委員会メンバーに対して頻繁な閲覧をお願いをさせていただくように呼びかけを行ってください。
- ② 対外向けのページで動画や画像を積極的に利用したことで見やすく、操作が易しいページ作りを心がけました。次年度も視覚的効果も取り入れたホームページ制作に努めて下さい。
- ③ 対外トップページに天草Webの駅のパナーを設け、青年会議所とのホームページとのリンクを試み、対外に対して認知度の向上を図りましたが、当委員会の周知も足りず、メンバーが利用した形跡も残っていませんでしたので次年度以降も天草Webの駅を利用するかご検討下さい。
- ④ トップ画面に時折動画を使用したことで、写真よりも興味を持っていただき、インパクトのあるものになったと考えます。次年度以降も積極的な動画の利用をご検討下さい。
- ⑤ 具体的な更新手続きのマニュアルなどを作成し、事業開催後何日でアップするなど、どの事業を記事や写真や動画にし、ホームページに掲載するかをしっかりと委員会で決めた後、更新作業をされることをお勧めいたします。また、更新をされた時にメンバーにお知らせをすることでメンバーの更なる閲覧につなげることができると思います。
- ⑥ 無料のオンラインファイル共有ソフトは、委員会開催時において容易にデータのやりとりができ、スムーズな運営を行う上で有効なツールとしての活用ができました。また、データでのやりとりの機会が増え、ペーパーレスの委員会を開催することができ、印刷費の削減に務めることができました。次年度以降も活用をご検討下さい。
- ⑦ 無料のオンラインファイル共有ソフトは取り扱うことができる容量の上限が非常に低いものが多いので、活用する際にはご注意ください。
- ⑧ 広報機材の持ち出しは、持ち出しリストがありますので確実に記入し、所在の確認ができるようにしてください。
- ⑨ 広報機材においてデジタルカメラの電池パックとSDカードをカバーする蓋が破損によりなくなっており、電池パックやSDカードを紛失する恐れがあり、広報活動を行っていく上で支障をきたすおそれがありますのでご注意ください。また、本年度2台保有しているうちの1台のデジタルカメラが故障により使えなく

なっていました。本年度の事務局の予算にて一眼レフカメラの予算が計上されていますので、本年度中に購入されれば、次年度はデジタルカメラ一台と一眼レフカメラ一台の計2台のカメラでの広報活動になりますのでご了承ください。

- ⑩本年度においてはホームページが情報交換の場としての利用が大変難しく、委員会が望むような活用がほとんど見られないといった状況でした。次年度においてもメンバーの情報交換の場としての利用を考えているならば、更なる機能の向上を目指し、ホームページの利用価値をメンバーに発信し、積極的に閲覧の呼びかけを行ってください。
- ⑪本年度バナーの配置やトップ画面のイメージを工夫して閲覧者初めてホームページを訪れた方でもひと目でわかるような工夫をいたしました。引き続き工夫を凝らし、閲覧者の興味を引くような内容にしてください。また、閲覧者をカウントするカウンターの機能をより詳細にし、一日毎の閲覧者数や、月ごとの閲覧者数を調べることができればさらに興味を持ったホームページ閲覧者が増えることを期待できたかもしれません。
- ⑫本年度は広報写真の掲載を見ていて楽しくなるようなものを選定し、メンバー同士の「和」を感じていただき、当青年会議所に入会希望者を募りましたが、残念ながらホームページを見たことによる入会希望者が現れませんでした。本来拡大のツールとしても重要なツールとなるはずなので、拡大につながるような内容を検討していただき、ホームページに掲載することを検討下さい。
- ⑬本年度、当青年会議所の事業に参加していただいた一般参加者やメンバーに広報写真をダウンロードできるシステムの構築を目指しましたが、ダウンロードツールを作るための費用の面、コンプライアンス関係の問題を解決するための具体的な方法を見つけることができず、結果的に完成に至ることができませんでした。次年度以降もシステムの構築を目指すのであればコンプライアンス関係には十分気お付けられ、予算の面においても十分検討をされた上で作成されてください。
- ⑭他団体にバナーの設置をお願いする場合には各団体のリストなどを作成し、お願いの方法についても注意しながら行っていただくことをご検討下さい。
- ⑮連絡網システムはメンバー間の情報の共有に有効なツールであるといえますので引き続き使用されることをお勧めいたします。欠席や遅刻の返信を容易にできしてしまうという点においては注意をしながら使用されてください。
- ⑯事業やイベントには委員会で話し合い、最低1名は確実に現場にて広報活動ができる状態にしておいてください。

IV. 事業名：【渉外活動(各種団体協力依頼の窓口)】

1. 事業目的

青年会議所以外の団体との協力・交流を図っていく事で地域に根付く団体と言え
ると思います。各種団体からの協力依頼に対し、迅速かつ正確に対応していきま
す。

2. 実施日時・場所

通年

3. 参加人員

(外部)なし

(内部)専務理事 1名

メンバー 7名

その他 1名

合計 9名

4. 事業内容

専務理事と連携し、依頼をFAX・メールを活用し、メンバーに発信する。

5. 成果

各種団体からの協力依頼に対し、何度か対応の遅れや、処理の遅れもあったが、
専務理事や事務局員の協力のもと遂行することができ、青年会議所以外の団体と
の協力・交流を図っていく事ができた。

6. 引継事項

①引き続き専務理事や事務局員との連携を密にとり、できるだけ早くアクションを起
こし協力依頼団体へ対応できる準備をしておいてください。

②チケット販売の依頼が来た時にはメンバーが多く集まる例会や各事業開催の時に
積極的に呼びかけてください。

V. 事業名：【JCI Nothing But Nets (NBN)キャンペーンの
推進】

1. 事業目的

公益社団法人日本青年会議所からのLOM重点依頼事項であるマラリア撲滅運動をメンバーに広く周知し、協力する。

2. 実施日時・場所

通年

3. 参加人員

(外部)	なし	
(内部)	理事・役員	25名
	メンバー	42名
	その他	1名
	合計	68名

4. 事業内容

例会時などに時間を設けメンバーに広く周知する。また、自動販売機の売り上げの一部を募金していただけるようなメンバーのお店や知り合いの企業を募集する。

5. 成果

例会時や各事業開催時にポスターや募金箱を作成し、自動販売機の推進、募金活動を行うことができ、マラリア撲滅運動を周知することができた。

自動販売機契約台数 0台 募金総額 19,190円

6. 引継事項

- ①本年度は自動販売機の売上の一部を募金するという推進方法でしたが、残念ながら契約を一台もいただくことができませんでした。次年度も自動販売機を中心に募金活動を行う場合には、担当委員会で十分に推進方法を検討され、スケジュールなど具体的に決められて活動されることをご検討下さい。
- ②推進をする際、当青年会議所の倉庫に実際の蚊帳がありますのでご使用ください。
- ③NBN用の通帳がありますので、その通帳をお使いください。募金の受け渡しの際には日本青年会議所が多少複雑な手法を取られていますので、ホームページを確認の上作業を行ってください。
- ④あしなみやホームページにも積極的な掲載をお願いします。
- ⑤常に日本青年会議所の動きや地区協議会の推進の動きを確認しながら、それに沿った推進方法を心がけてください。
- ⑥本年度は12回の例会のうち2回しか募金活動を行うことができませんでした。例会にてメンバーに対して推進活動を行う場合は、具体的な推進月などを決めた上で行われることをご検討下さい。

VI. 事業名：【会員拡大事業の推進】

1. 事業目的

「天草の明るい豊かな社会」の実現に向けて、共に天草の未来を創造し、行動する仲間を作っていくために、翌年に控えた創立 50 周年時、会員数 100 名を目指す。

2. 実施日時・場所

通年

3. 参加人員

(外部) なし

(内部) 理事・役員 0名

メンバー 7名

合計 7名

4. 事業内容

研修拡大委員会と共に3月・7月企業訪問を実施

委員会開催報告

回数	開催日	委員会開催場所	内容	出席	欠席	出席率
1	2011. 10. 6	よみや	顔合わせ 年間事業計画について	4名	2名	66%
2	2011. 11. 3	J C 会館	年間事業計画書について	4名	2名	66%
3	2011. 12. 4	J C 会館	L O M 内広報誌について	4名	2名	66%
4	2012. 2. 8	J C 会館	あしなみの構成について	3名	3名	50%
5	2012. 9. 11	J C 会館	L O M 内広報誌について	5名	2名	71%
6	2012. 10. 17	J C 会館	L O M 内広報誌について	4名	3名	57%
7	2012. 11. 8	J C 会館	JCI NOTHING BUT NETSの推進 について	4名	3名	57%
8	2012. 11. 20	J C 会館	あしなみ170号発送作業について	4名	3名	57%
9	2012. 12. 11	J C 会館	L O M 内広報誌について	4名	3名	57%

委員長所見

広報と渉外と二つの役割を持って1年間活動してまいりました。ホームページの管理運営、機関誌「あしなみ」の発行、LOM内広報誌の発行、マラリア撲滅運動のナッシングバットネットの推進、他団体との連携を図る渉外活動を担当させていただきました。初理事初委員長ということで、どのようにして委員会を運営してよいものか分からず、実際の広報活動、渉外活動を円滑に遂行していくことができず、委員会メンバーやLOMのメンバーにご迷惑をおかけしました。1年間の活動を通して青年会議所の理事であるということの重み、委員会メンバーを充実した有意義な一年間にしていかなければならないという責任を感じることができました。ここで勉強させていただいたことを十分発揮し、今後のJC活動に邁進していきたいと思えます。最後に、当委員会の事業に関わっていただいた関係者の方々、メンバーの皆さん本当にありがとうございました。

担当副理事長所見

広報渉外委員会は、本年初めて理事となった委員長と副委員長が率いる組織でありました。未知数の2人ではありましたが、委員会の担いを委員会メンバーと共に1年間頑張ってくれました。担当副理事長として、委員長、副委員長はもとより委員会メンバーみんなが、歩幅は違っても前向きに一步ずつ、自己修練として委員会活動を行えるようサポートしていく所存でございました。しかし、ひとり一人の歩幅の違いを見抜けず、担当副理事長として常に厳しく接して、しっかりしたサポートとは言えなかった面もあり反省と勉強をさせていただきました。

1年間の委員会活動を通して、皆の時間を大切にすること、企画力の向上、パソコン使用の上達、文章作成力の向上等々、少しずつではありましたが確実に皆の成長に繋がったと確信いたしております。

2012年度 社団法人 天草本渡青年会議所 委員会年間事業報告書

- 委員会名：青少年育成委員会
- 担当副理事長名：荒木泰匡
- 委員長氏名：原田竜一
- 副委員長氏名：金子友理子
- 委員氏名：石井美恵 久保孝雄 田中修 大塚貴洋 村上輝真 穂山豪 益田友和
菅原秀仁 山下大輔 安田量寛 倉田政幸

I. 事業名【第2回 J Cサッカーフェスティバル天草】

1. 事業目的

(対外)

多くの子ども達に、勝利という共通の目的を持ちチーム一丸となって協力し戦うことで、コミュニケーションやチームワークを身につけて頂く。そして日々、個々が切磋琢磨しながら練習し、積み重ねてきた成果を発揮できる場を提供することで、子ども達の健全な成長に繋げていく。

(対内)

子ども達の真剣な姿と向き合うことで、メンバーの青少年育成に対する意識を深めていただく。また、スポーツ大会への共催を通して、青少年育成におけるLOMと地域コミュニティとの相互交流を高めるとともに、全体事業としてのメンバー同士の連携、団結力を高める。

2. 実施日時・場所

(日時)

2012年2月11日(土・祝日) 8:00~15:00 集合 7:30

(場所)

天草島内 小学校運動場及びグラウンド 12会場

本渡南小学校・本渡北小学校・佐伊津小学校・本町小学校・御領小学校・手野小学校・二江小学校・富岡小学校・新合小学校・高浜総合グラウンド・大矢野グラウンド(2会場)

3. 参加人員

(外部) 79チーム790名

(男子チーム 74チーム)

(女子チーム 5チーム)

(リフティングコンテスト男子659名)

(リフティングコンテスト女子 29名)

サッカー協会 12名

(内部) 理事・役員 20名

メンバー 10名

その他 7名

4. 事業内容

- ①小学生を対象に、天草の地域内で活動を行うチームとの試合を経験できる大会を、学校を母体とするサッカー協会との共催で開催する。
- ②事業当日までに開催会場になる小学校に訪問し、当日使うボールと備品をお渡しし、当青年会議所の青少年育成に対する熱い思いをお伝えする。また、当日は一会場で開会式を行い、理事長挨拶にて、子ども達に青少年育成に対する熱い思いを伝える。

(対外)

- ③8人制サッカーを行うことで、11人揃わずに出場できない小学校や、一学校では参加ができない小規模校でも、合同チームにて参加できるようにする。また、一校から複数チームの参加を受付けることで、より多くの子ども達の試合出場の機会とする。
- ④参加チームが自己申告でランク別に分かれ、同じレベルでの試合が見込まれることで、強いチームも弱いチームをそれぞれ目的にあった参加ができ、力が均衡するチームが切磋琢磨しながら一緒にプレーする。
- ⑤12会場それぞれのリーグで優勝チームを選出することで、優勝することの経験を多くの子ども達に感じてもらう。
- ⑥リフティングコンテストを開催し、学年ごと・女子に分けて、それぞれ入賞をすることで子ども達の技術に対する目標設定と参加意欲につなげる。また、当日は時間ごとに全会場におけるリフティング最高回数を掲示し、勝利への意欲につなげる。
- ⑦リフティングコンテストは新しく女子の部を設けると共に、昨年のルールであった1m円周内での測定・1人1回のチャレンジという基準を見直し、参加しやすい、結果を出しやすい基準で行う。
- ⑧前年度の引き継ぎを基に、子ども達が楽しみ、力を発揮できるリフティングコンテストのルールを作成すると共に、スムーズな大会運営のために、マニュアルとなる大会概要を作成する。
- ⑨当日使用するボールには、社団法人天草本渡青年会議所のネームを入れ、開催会場に贈呈することで、PRにつなげる。
- ⑩試合結果をホームページ上に掲載し、社団法人天草本渡青年会議所の取り組みをPRする。

(対内)

- ⑪会場毎にメンバーの役割分担を明確にして、事前説明会でお伝えする。当日は責任感と高い意識を持って参加していただく。

(参加推進方法)

(対外)

- ①サッカー協会に未登録のチームは、参加できる大会が少ないので、参加できるようにすることで、より多くの参加者を募ることができる。(現在登録チームは24チーム)

(対内)

- ①広報渉外委員会と協力して、当青年会議所ホームページにて、サッカー大会の

PRを行う。

- ②委員会メンバーにて各委員会を個別に訪問し、共催者スタッフとしての協力をお願いをする。

5. 成 果

(対外的)

- ① 8人制サッカーを用い、複数チームの参加や合同チームでの参加受けも可能にしたことで、小規模校や、低学年生の参加、女子の参加が増え、昨年を上回る790名の参加があった。
- ② 12会場それぞれのリーグで優勝チームを選出したことで、優勝や試合経験を多くの子ども達に積んでもらうことができた。
- ③ ランク別に分かれリーグ戦を行うことで、力が均衡するチームと一緒にプレーすることができたり、今大会へ参加するための新たなチーム構成ができるなど、練習を積み重ねる中でコミュニケーションやチームワークに磨きを掛けていくことができ、子ども達の成長につなげる機会とすることができた。
- ④ リフティングコンテストは学年ごと・女子それぞれに入賞を作ったことで、子ども達が目標設定をし練習に励んでいる話を聞くことができ、練習を積み重ねる意欲に繋がったことと、個人の成果を発揮できる場とすることができた。

(対内的)

- ① 会場準備・リフティングコンテストの運営・閉会や片付けなど、会場毎にメンバーが役割を認識し、子ども達の真剣な姿と触れ合ってもらったことで、事業に対しての考えや改善案等を持っていただくことができ、青少年育成に対する意識を深めていただくことができた。
- ② 第2回目の大会への共催を通して、挨拶回り・事業当日・意見交換会などにおいてサッカー協会や小学校との意見交換を行うことができ、青年会議所の考え、教育現場の考え双方を理解する機会となり、地域コミュニティとの交流を深めることができた。
- ③ 昨年から引き続きスタッフとしての役割をメンバーに把握していただいたことで、当日はスタッフ同士、またサッカー協会とも上手く協力し合うことができ、連携を図ることができた。

6. 引 継 事 項

(事前準備について)

- ② 毎年先生方の異動もあるため、大会の引継ぎがきちんと行われているところと、そうでないところがあります。学校側に大会を周知していくためには、この事業を継続していくことが一番であることと、サッカー協会の先生方と連携し、これからは学校への事前挨拶回りは欠かさずに行うことで、学校側の理解と協力も増えていくと考えます。
- ③ 学校会場でない会場の準備の点から、第1試合の開始時間を少し遅らせることができないか検討して欲しいとの要望がありました。会場は毎年希望を取った上で変わりますので、学校会場のみであれば現在のタイムスケジュールが良いと考えますが、そうでない場合は次年度開催時に開始時間についてサッカー協会との打合せをお願いします。

- ④ インフルエンザが流行する時期ですが、天草で行われるサッカー大会で一番の参加者数が見込める大会であるため、開催は2月が一番良いという意見交換会でのご意見でした。参加者がたくさんの試合を経験するために、学級閉鎖等の予測が立てづらい事態にも臨機応変に対応できるようサッカー協会と連携を図って下さい。
- ⑤ 当日使用するボールは、事業終了後、開催会場に贈呈することで非常に喜ばれますし、J Cサッカーフェスティバルと社団法人天草本渡青年会議所のPRにもつながります。会場はまず始めに学校側の希望を取られた上で調整されますが、過去に会場になったことがない学校から優先的に開催会場としてもらうよう、打合せを行って下さい。
- ⑥ 女子の部について、昨年事業を行った成果として今年女子の登録チームが増加したと考えられます。今年リフティングに参加した女子がいたことで、来年はまた参加数の増加が見込まれると思います。通常部活を行っているチームではない学校も多いのでサッカー協会と連携を図り、女子の部のコンテストへの事前周知にも力を入れて下さい。

(開会式・閉会式について)

- ⑦ 開会式について、各チームの試合開始時間に差があり、参加者が同じ時間に集まらないために統一して行うことはしていませんが、会場にいる参加者だけでもそろって事業の開催趣旨、当日のスケジュール、リフティングコンテストを行う場所・順番等の業務連絡を行った方が良く感じましたのでご検討下さい。
- ⑧ 閉会式については、進行はJ Cで行い、試合の講評はサッカー協会の先生から、表彰状贈呈とリフティングコンテストの結果発表についてのお知らせはJ Cメンバーから行うのがスムーズかと考えます。次年度以降の閉会式の際はご検討下さい。

(運営について)

- ⑨ 一つの会場に3名以上のメンバーがいると、運営がスムーズに行えます。参加者は会場入りする時間も退場する時間もそれぞれですので、試合の合間にもれなくコンテストと写真撮影を行うためにも、試合会場に近いメンバーを誘い合っただけでも参加してもらうなど、メンバーの参加促進についてご検討下さい。また、外部からのボランティアスタッフの募集についてもご検討下さい。
- ⑩ 運営用の資料については、1会場に1部で充分ですが、メンバーにはスタッフとしての役割を事前に認識していただくために、参加者全員分の資料が必要です。印刷費の計上漏れがないようにして下さい。
- ⑪ サッカー大会・リフティングコンテストの表彰状は双方に、J C I マークを入れるためカラー印刷を行いました。J C I の表彰状を購入し利用すると、モノクロ印刷で済みます。また、今年の表彰状が31枚余っていますので、予算計上の際にご検討下さい。
- ⑫ 天草ケーブルネットワークでの放映、ホームページ上での試合結果の報告、あしなみでの事業報告など、事業の発信を行っていることに対して、参加者・保護者・サッカー協会も非常に喜ばれていました。積極的な事業の発信をご検討下さい。

(リフティングコンテストについて)

- ⑬ リフティングコンテストについては、朝一番にサッカー協会の先生と開催場所・

コンテストに参加する順番等を充分打合せ、会場内の全チームの指導者にお知らせをすると、審判をしていた先生が出場する試合前にチームの子ども達を探すといったことも無くなり、スムーズな運営ができます。

⑭ リフティングコンテストの参加申込みについて、本年は当日各チームが持参するという形になりましたが、参加・不参加の変更や、試合会場が変更になったとしても、事前に申込用紙を頂く方が運営がスムーズに行えます。また、参加申込用紙に「名前のふりがな」「性別」の欄も追記すると、当日の運営と結果をまとめる作業がスムーズに行えます。

⑮ 女子の部リフティングコンテストについては、上位3位のみメダル・表彰状の授与としましたが、今年の参加者人数(29名)と記録(最高回数8回)からすると妥当かと考えます。参加人数の増加が見込めるようでしたら、男子と同じ10位までの表彰状授与をご検討下さい。

⑯ リフティングコンテストの計測について、カウンターを使うよりも複数人数でカウントした方が間違いがない場合もありますので、メンバーが必ず入った上で子ども達と一緒にカウントを行うなどご検討下さい。但し、記録が伸びる場合はカウンターがあった方が良いです。

⑰ リフティングコンテストの前年度優勝記録の掲示や、他に、スラロームドリブルのタイムトライアルコンテストやMVPのような個人賞があっても面白いのではというご意見もいただきました。次年度以降ご参考下さい。

(サッカー大会について)

⑱ 試合のパート分けについて、6年生にとって卒業前の最後の大会という意味を含め、6年生チームを作って行いましたが、パート分けが解りにくいという意見もありました。次年度開催時にサッカー協会との打合せをお願いします。

Ⅱ. 事業名：【私たちの未来へつなぐ道 ～1000年のいのちに逢える旅～

屋久島体験学習会】

1. 事業目的

(対外)

自然溢れる天草の子ども達に、自然の壮大さや自然と触れ合うことの楽しさを感じてもらふ事で、自然の守り方や活かし方を学び「共に生きる」という価値観を身につけると共に、自分達の未来を描く発想力と、それを実現するための考える力を育てることを目的とする。

(対内)

「共に生きる」という観点から、自然の守り方・活かし方を理解することで、天草の未来に向け活動するアイデアと行動力を培ってもらふと共に、未来の希望である子ども達のサポートを通して、青少年育成に対する責任感と使命感を養う事を目的とする。

2. 実施日時・場所

(日時)

天草事前学習会	2012年	8月12日(日)	9時～
屋久島体験学習会	2012年	8月17日(金)	3時30分～
屋久島体験学習会	2012年	8月18日(土)	
屋久島体験学習会	2012年	8月19日(日)	～19時45分
私たちの未来へつなぐ道 発表会	2012年	9月1日(土)	9時～
ボード掲示	2012年	9月3日(月)	～18日(火)

(場所)

天草事前学習会	肥後銀行天草支店3階
屋久島体験学習会	屋久島島内及び屋久島環境文化研修センター
私たちの未来へつなぐ道 発表会	肥後銀行天草支店3階
ボード展示場	TSUTAYA天草店

3. 参加人員

〈天草事前学習会〉

(外部)	参加小学	29名
	参加者小学生保護者	30名
	教育長	1名
	外部小計	60名
(内部)	役員	16名
	メンバー	9名
	内部小計	27名
	合計	87名

〈屋久島体験学習会〉

(外部)	参加小学生	30名
	看護師	3名
	屋久島文化研修センター担当者	2名

	登山ガイド	6名
	ウミガメ学習会ボランティアスタッフ	4名
	屋久島青年会議所	6名
	外部小計	51名
(内部)	役員	19名
	メンバー	8名
	内部小計	27名
	合計	78名
〈私たちの未来へつなぐ道発表会〉		
(外部)	参加小学生	30名
	参加者小学生保護者	30名
	講師	1名
	外部小計	61名
(内部)	役員	17名
	メンバー	9名
	内部小計	26名
	合計	87名
	合計	252名

4. 事業内容

○天草事前学習会：身近にあるものを題材に、自然の恩恵を受けて生きていることを認識し、人間の行動が影響を及ぼす自然環境の現状を学ぶ。また、世界遺産である屋久島での体験学習を通して、気づきを得るための心構え・準備を行う。

○屋久島体験学習会：1000年の時を超えて生き続ける森の生き物に逢う旅で、自然の壮大さ、触れ合うことの楽しさを感じながら、自然の守り方や活かし方を学び、「共に生きる」という価値観を持ってもらう。大自然の中の小さな自分と、人間は生かされていることを感じ、共に生きていく未来のために、自分に何ができるかを考える。

○私たちの未来へつなぐ道発表会：

「共生」の大切さを学ぶと共に、未来のために今できることや、今後取組んでいくアイデア等を、自分自身の体験を基に考えをまとめ、子どもの目線からの考えを地域へ向けて発表する場とする。

《天草事前学習会前》

①参加決定通知に参加者の顔と名前の把握、また、しおりへの掲載用として写真の同封をお願いします。

- ②参加決定通知及び天草事前学習会の案内と共に、事前アンケート用紙を同封し、現在の自然環境について子ども達がどう感じているのか、故郷天草の未来を子ども達が考えたことがあるのか、今を生きる子ども達が思っていることを記載してもらう。事前アンケートは事前学習会前に参加者の顔写真と共に提出してもらう。

《天草事前学習会》

- ③学習会に入る前に、参加者の緊張をほぐす為にアイスブレイクを行う。
- ④グループに別れ、身近にあるものを題材に、原材料やどのように造られて私たちの生活の一部になっているかを連想ゲームで辿り、私たちが日頃生活をする中で自然の恩恵を受けて生きていることを認識する。また、人間の行動が影響を及ぼす自然環境の現状を学ぶ。
- ⑤UNESCOの理念と世界で行われている活動を通して、体験学習を行う屋久島が登録されている「世界遺産」は、どうやって生まれたのかをわかりやすく学んでもらう。
- ⑥保護者へ向けて事業の趣旨説明、安全対策についての説明を行い、安心して子どもを預けてもらえるようご理解を頂く。また、保護者に健康チェックシートを記入してもらい、持病やアレルギー等について把握しておく。
- ⑦現地の天候が変わりやすいため、携行品の確認を保護者・参加者そろって行い、事業への参加準備を万全に行ってもらおう。
- ⑧天草事前学習会の内容をパートごとに委員会メンバーで司会を行う。また、全般を通してメンバーは子ども達の答えを導き出すサポートや、コミュニケーションを深めるサポートを行う。

《屋久島体験学習会》

〈1日目〉

- ⑨世界自然遺産屋久島の研修機関である屋久島環境文化村センターにて、映像・展示資料・現地の方の話を通して、下記の内容を学ぶ。子ども達には委員会で作成した穴埋めクイズの答えを、施設の中から探し出してもらう。また、メンバーは事前に屋久島が目指す、自然と共生する島づくりの概要を学んでもらい、参加者が持つ小さな疑問がスムーズに解決できるようサポートを行ってもらう。
- 森と水の関係、屋久島の形成や気候・海流について。
- 屋久島の人々の山岳信仰や集落ごとの伝統芸能にふれ、歴史を知ることから学ぶ自然から受ける恩恵について。
- 屋久島が世界遺産に認定された理由や取り組みについて。
- ⑩屋久島の大自然の中にある屋久杉を使って、人間が自然環境を損なわずに生計を立てる方法を学びながら、私たちの生活の一部となっている箸を製作する。
- ⑪天体望遠鏡を使った星空観察を行い、広い空に輝く季節の星を学ぶ。自然の一部である空をテーマにした共生について委員会メンバーが発信し、星空観察の説明については研修センターに補足とサポートをして頂く。
- ⑫一日をふりかえる時間を設け、心に残ったこと、学んだ内容、もっと知りたいと思ったことを書き留める。また、2日目のスケジュール・登山のマナー・心構えについて確認を行う。

「2日目」

⑬早朝より、総距離約 20Kmの縄文杉（屋久島に自生する最大級の屋久杉）を目指す登山を行う。約 10 時間の登山を 10 名（子ども 5 名＋メンバー 5 名）に 1 人の山岳ガイドを配置し、道中の下記ポイント毎に説明を行いながら、大自然を自分の目で見て、体感し、励まし合いながら完歩する。また、メンバーには天草事前学習会を通して縄文杉登山での学習内容を把握してもらい、登山中に子ども達への説明を行うと共に、一人ひとりの安全を確認しながら同行する。

○観光、保存の森林鉄道以外では、日本唯一現役の森林鉄道が走るトロッコ軌道（約 8km）を歩き、登山道トイレの維持管理に必要な物資の輸送や、屋久杉の昔の切り株や土埋木の運搬に使用されていることを学ぶ。

○小杉谷集落跡（登山口から約 50 分）にて屋久杉の伐採で生計を立てていた島民の歴史 47 年間が残る集落跡地を見学し、鹿児島市内ですらインフラが整備されていなかった時期に、電気と水道が引かれ、郵便局、床屋や銭湯、商店、小学校、森林軌道と呼ばれるトロッコ道、島の外周道路の整備がされていた人間の歴史を学ぶ。

○三代杉・大王杉・夫婦杉・ウィルソン株など屋久杉の代表格を例に、長い年月をかけて育った姿や、倒木や切り株の上で次の世代の杉が成長した様子、新しく生まれた小杉を観察する。

○登山の頂上にある縄文杉に触れ、7000 年を生きるという壮大さと、人間が縄文杉を宝として守っている様子を学ぶ。

○登山道の脇を流れる滝や、巨木とコケの森といった屋久島の自然環境を見ることで、森や海の生態系バランスを学ぶ。

○野生の動物達が森と一体となり、生き生きと過ごす様子を観察する。

○自然を守るために、人間が出すゴミや汚物等を自然の中に残さない取り組みを学ぶ。

⑭北太平洋最大にして日本一のアオウミガメの産卵場である屋久島で、ウミガメの生態と、浜の自然環境について、そこに暮らす人たちの取り組みについて学ぶ。産卵するために上陸するウミガメ、孵化し海へ向かう子ガメの様子を観察し、海に戻れなかった子ガメの放流を行う。

「3日目」

⑮自然界の一番下にある海で、空から落ち、森を流れ、海と合流する水と触れ合いながら、タイドプール（潮だまり）学習会を行い、サンゴ礁の水溜りで共に暮らす生き物を観察する。また、大自然が作る海辺の地形を観察する。

⑯千年以上厳しい風雪に耐え、伐採された後も何百年土に埋もれた屋久杉の土埋木が、工芸品として形を変えて蘇る姿を見て、人が屋久杉をどう活用してきたのかを学ぶ。

⑰帰りの道中で、子ども達に 3 日間の感想や、未来の天草をどのようにしたいか、自分にできると感じたことがあったかなどを発表してもらおう。

⑱解散式にて事後発表会で使う、「私たちの未来へつなぐ道ボード」の原紙を手渡し、3 日間の体験を基に事後発表会で発表するための作業について説明を行う。

《私たちの未来へつなぐ道 発表会》

- ⑨ 事後発表会までに、子ども達の考え、アイデア、屋久島体験学習会で自分が撮影した写真を基に「私たちの未来へつなぐ道ボード」を作成してもらい、共に生きていく未来のために、自分が何を学び、何ができるかを考え、子ども目線からの考えを地域へ向けて発表する場を設ける。
- ⑩ 発表はグループごとに行い、リーダーやそのグループに同行したメンバーも感想を発表してもらう。
- ⑪ 屋久島の観光ガイド経営者であり、屋久島青年会議所メンバーでもある大野睦氏による「共に生きる」をテーマにした講演会を行う。また、大野氏には子ども達の発表についてコメンテータの役割も務めていただく。
- ⑫ 子ども達が作成した「私たちの未来へつなぐ道ボード」を発表会後は地域の方々の目に触れる公の場に掲示する。
- ⑬ 保護者アンケートを実施し、子どもの成長について、この事業に対しての意見を頂く。アンケートは発表会終了時に回収する。

(参加推進方法)

(対外)

- ① 募集要項は小学校を訪問し、事業説明を行うと共にお渡しし、学校より事業参加促進の協力を頂く。また、事業参加募集告知を青年会議所HPにお知らせし、学校の先生方や保護者がインターネット上で確認できるようにする。
- ② 各学校のPTA会長宛にも事業参加募集の依頼文をお渡しし、保護者代表からも事業への参加推薦と理解を頂く。
- ③ 学校掲示用ポスターを作製し、子ども達の参加募集を常にアピールすると共に、学校の先生へ向けて事後発表会への参加促進につなげる。

(対内)

- ④ 現地調査予定日の全日程を全メンバーに発信し、参加できる機会を多く発信することで、1人でも多くのメンバーに参加してもらう機会を設ける。
- ⑤ メンバー学習会を3日間設けることで、全メンバーに事業における役割と、屋久島の魅力を伝え、参加意欲に繋げる。

5. 成 果

(対外的)

自然豊かな天草の子ども達に、「共生」をテーマに組み立てた今回の事業を通して、今までに見たことのない新しい発見と、体験したことのない壮大な大自然への感動を覚えてもらうことができ、自然との共生のために自分たちができること、こんな大人になりたいという気持ちが生まれたことから、自然と触れ合うことの楽しさを感じる中で、共に生きることの価値観を伝えることができた。

また、人間による自然破壊と、自然を守ろうとしている人間との矛盾した現状を天草学習会で学んだ後に、屋久島体験学習会において新たな自然の活かし方があること、それによって生かされる人間の生活を学習したことで、参加者がこれから訪れる未来を想像し、思い描いた自然と共生する未来のために、今自分たちができることを

考える力を養うことができた。

(対内的)

メンバーが「共に生きる」という価値観をメンバー学習会や、各々での学習により参加者に伝えるために学んだこと、メンバー自身が世界遺産である屋久島を体感し、屋久島で暮らす人々から自然と共に生きるための取り組みや自然の活かし方を学んだことで、今後未来に向け活動するアイデアと行動力を培ってもらうことができた。保護者アンケートからは、今回参加した子ども達が家庭に戻った時の様子や変化、事業への評価や今後の青少年事業に向けた希望を詳しく知ることができ、今後行う青少年事業への大きなアイデアや参考となるものをメンバーに持ってもらうことができた。

また、本事業を通して参加者の安全を第一に考え行動し、人としての道徳、礼儀や挨拶、助け合う心を伝え、この事業をサポートする中で、参加者が大自然の中で「共に生きる」ことを体感していく様子を一番近くで見守ることができ、青少年育成に対する責任感と使命感を養うことができた。

6. 引継事項

《天草事前学習会前》

(対外)

- ① 事前に資料を提出していただく場合は余裕を持った期日を確保し、期日を過ぎた場合は電話連絡をして、参加者のご自宅まで伺うといった全員分そろえる方法をとるようにした方が良い。

《天草事前学習会》

(対内)

- ① 班での作業がある場合は、リーダー・サブリーダー以外のメンバーも班に参加してもらい役割を与えることで、良い意見やコミュニケーションを図るきっかけとなりますので、全員参加型の企画を検討してください。

《屋久島体験学習会》

〈1日目〉

(対外)

- ③ 自然を題材にした学習会では天候に左右され計画通りにいかないことが多くありますので、いかなる天候でも目的を達成するための別の手法を用意しておくことが必要である。

〈2日目〉

(対内)

- ① 屋久島学習会の二日目の縄文杉登山では、リーダー学習会での説明が不十分だったことと、山岳ガイドとの打ち合わせ不足、何よりも事前現調に多くのメンバーを連れて行くための参加推進が不足、メンバーの体力的な確保と心構えが足らなかった。参加者の安全対策が発生するプログラムには必ずメンバーを一度は現地調査に参加してもらおうと共に、伝えるべきことが確実に伝えられるよう、外部講師・ガイドとの打合せには十分な時間をとるようご検討下さい。

▪ 〈3日目〉

▪ 無し

▪ 《私たちの未来へつなぐ道 発表会》

▪ 無し

▪ 《その他》

- ①参加者が予定人数を超えた場合の応募者への対応・抽選方法を計画しておいて下さい。参考資料に本年行った参加者抽選内容と結果について添付しております。
- ②抽選会を行う際は男子と女子のどちらかに偏る可能性がありますので、事業内容に合わせて男子と女子を分けて抽選すること、また、募集時に男女比率を告知することをご検討下さい。
- ③参加決定通知書を送付する時に返信用封筒を同封し、参加者の顔写真と簡単なアンケートを返信していただくことで、事業前に参加者の名前と顔を覚えることができます。是非検討してください。
- ④事業直前までメンバーの出欠の変更があると考えていいと思います。全体組織図を作成される際は、様々な事態を想定して対応できる組織図で計画されてください。
- ⑤天草ケーブルテレビの撮影料は基本的に天草島内での撮影は無料、島外にて撮影を行う場合は内容や時間、後援や協力の有無などを考慮しその都度見積りして下さい。また映像を編集していただく際も料金が発生しますので合わせて協議されてください。
- ⑥本事業を解りやすく理解してもらうために、映像を使った学習会が最適と考え企画したが、映像の時間が長いと集中力を欠いてしまう傾向があったので、映像を区切り質疑応答の時間を儲けるなどの構成をするべきだった。
- ⑦今回は半日プログラムを企画したが、一日プログラムを行い子ども達のコミュニケーションをもっと図ったほうが良いとの意見があったので検討してください。
- ⑧今回企画したアイスブレイク（じゃんけん大会）は大変好評で、使用する道具もロープだけでいいので安易にできます。是非活用していただきたいと思ます。
- ⑨事前学習会の前半部分で保護者説明会を行い保護者向けの趣旨説明や安全対策を十分に説明することで、安心して子供を預けてもらえるようご理解していただくことができました。またその時に健康チェックシートを記入してもらい、持病やアレルギー等を把握することで、後の屋久島学習会で安全な対応と適切な判断をすることができたので、今後も計画に入れてください。
- ⑩参加者のTシャツは班ごとに分け、名前とサイズを記載しておくスムーズに配布することができます。メンバーのTシャツは事業前に配布しておくスムーズな運営ができます。
- ⑪駐車場の誘導担当のメンバーの数が少なかったと考えます。当委員会から2名

配置していましたが、参加者が多く来る時間帯では対応できなかったのが委員
会メンバーで足りない時は委員会以外のメンバーにも協力してもらい対応し
たほうが良い。また、駐車場と集合場所が異なる場合は、事前の周知徹底と更
に事前配布資料に解りやすく記載しておいてください。会場看板と駐車場看板
を使用する方法も検討してください。

- ⑫ 班にとけ込めない子供への配慮や、スケジュール通りのスムーズな行動を考慮
すると、最初から常に班行動を徹底した方が良い。
- ⑬ 移動が伴う事業のスケジュールは余裕を持ち、昼食時間は休憩も兼ねて一時間
程度計画していたほうが良い。
- ⑭ 開会式・出発式・解散式をする会場は雨風をしのげる会場を検討してください。
今回は天草青果市場をお借りいたしました。市場が開催される時間帯に左右
される会場ですので十分な打ち合わせをしてください。
- ⑮ 一日目の最後に振り返り学習会を設けることで、その日の出来事や感想を鮮明
に書き留めることができ、今回は発表会で使用するボード作成の参考とするこ
とができました。しおり作成時には、しおりにフリースペースを用意しておく
と活用することができます。
- ⑯ 体力を使う事業においては、体力的に個人差が出るので、メンバーの気遣いの
配慮はもちろんのこと、体力のある子ども達が率先して助け合うように指導す
ることで、良いチームワークができ良い事業へと繋がりますのでご検討下さ
い。
- ⑰ 登山時に数名の子どもが足を痛めたが、リュックの重さが原因という指摘もあ
ったので、足が痛い子どもに対してはメンバーが中身を少し持ってあげるなど
の対応についてご検討下さい。
- ⑱ 今回は登山という手法を用いたが、途中でリタイアし頂上までたどり着くこと
が出来なかった参加者がいた。しかし、自然の壮大さや自然と触れ合うことの
楽しさを感じてもらい、自然の守り方や活かし方を学ぶことが目的でしたので、
それに対応する雨天プログラムを利用し、メンバーが付き添って参加者のフォ
ローを行い、縄文杉登山を行う中で学ぶ予定の内容を伝えることができ、目的
達成に繋げることができました。
- ⑲ 宿泊の際に参加者と同じ部屋になるメンバーがいるとき（リーダー・サブリー
ダー等）は参加者の就寝の妨げにならないように配慮をして下さい。またスタ
ッフ会議を参加者の就寝後に行う際は、事前に会議資料を用意するなど検討を
して下さい。
- ⑳ お土産を購入する際は会計で必ず混雑する傾向がありますので、時間に余裕を
持ったタイムテーブルで計画し、制限時間を周知する際は予定時間よりも前倒
しした時間を周知したほうが良い。
- ㉑ 解散式で到着やゴールがある場合は、その場を盛り上げるための企画を委員会
で事前に考え、待機班や設営班に周知し、また保護者と一体となったお出迎え
をしたほうが子ども達の達成感をより強めることができる。
- ㉒ 解散式の終了後に記念撮影などをする傾向があり、その場を仕切るメンバーが
いないため、帰りの時間が遅くなることがあります。参加者や保護者のことも
考慮してあまり長くならないように解散式のあとも撤収作業で忙しいとは思

いますが、担当のメンバーを決めておいたほうが良い。

- ②「私たちの未来へつなぐ道ボード」の原紙を保護者の方に手渡し説明をすることで、発表会までの作成期間に子どもと一緒にボードの作成を協力することができ、親子の交流を育むきっかけとすること出来たので大変よかった、との声が保護者から有りました。保護者参加の事業ではなくても、自宅で親子の交流のきっかけとなる計画があると良いと思います。
- ③事務局のビデオカメラが無かったため、委員会メンバーの私物で対応する予定だったが、担当者を決めておらず準備できなかった。携行品や備品を準備する際は必ず担当者を決め、一覧表に記載するべきだった。
- ④助成金を多く利用して事業を行う際は、支払い時に立替をする必要があることも考慮し、運営側と事前に連携を取ることで、支払い先や助成金団体に迷惑のかからないように対応しなければならない。
- ⑤集合時間が早朝の場合は近隣の迷惑にならないように声のボリュームを考えて話すようにメンバーや参加者に周知してください。
- ⑥参加者に使い捨てカメラの使用を計画する場合は、紛失する可能性があるのので、リーダーやサブリーダーにも携行させ、班の参加者を対象に撮影することで、万が一紛失した場合にも対応できるように心がけておくとうい。
- ⑦現地調査を重ね、参加者目線でのタイムスケジュールを考慮し計画を行ったが、対象年齢の子どもを現地調査に連れて行く回数が少なく、もっと余裕をもったタイムスケジュールが必要であった。特に乗り物等を利用し移動距離が長い事業では、対象年齢の子どもを連れだ現地調査や、時間調整ができる部分を盛り込むなど、余裕を持ったタイムスケジュールの構築を検討してください。
- ⑧現地調査参加者が少ない場合は、特に安全対策の対応として、近くで類似した場所を設け、本番の想定をした説明をすることでメンバーの参加推進と、少しでも安全対策を理解していただくことができる。
- ⑨しおりに振り返り学習会のメモを行うためのページを設けていたので、その後の事後発表会のボード作成に参考資料として活用することができた。しおりを作成される場合はメモやフリースペースのページを確保しておいたほうが良い。
- ⑩事業最終日に保護者の方にアンケートを記載していただきました。内容としまして、本事業への応募の理由、事業を終えての子どもの変化・成長、青年会議所への今後の要望等です。様々なご意見をいただきましたのでぜひ参考にし、計画時に全メンバーに周知する場を設け、アドバイスを求める為の手法をとられてください。また、次年度以降の事業構築の参考にもなりますので、保護者アンケートの実施も検討してください。(参考資料保護者アンケート参照)
- ⑪本年は飲酒禁止に関するの告知をしておりませんでした。それにより屋久島学習会でのメンバーの飲酒があったようです。それに伴う事故や安全対策の不備等は見受けられませんでした。子どもを預かる立場としてふさわしくない行為であるとのご意見がございましたので、事業当日の飲酒に関しては禁止するよう周知を行ってください。
- ⑫これまでに作成された青少年健全育成事業に関するDVDをシニア室の棚に保管してありますので、事業構築の参考資料としてご活用ください。

《予算》

- ① 箸を作成する場合は事前に材質を確認し、計画段階で実際に作成し耐久性がある材質を計画する必要がある。
- ② 小さな生き物の観察をする際は、実際に手にとって観察の方がより詳しく観察することができるため、透明のケースや採取用の網などを用意したほうがよい。
- ③ 大型バスを利用する際は、乗車定員と参加者の人数の確認を十分に行い計画しなければいけない。
- ④ 車両をレンタルする場合は、レンタルの内容をよく確認し、予算に該当する項目の有無を調べたほうがよい。
- ⑤ 対外参加者においては、趣旨と携行品の説明を早い段階で行い、本会計からの支出か対外参加者の私物かを把握したほうがよい。
- ⑥ 子ども対象に関わらず、いかなる場合も緊急の事態を想定して緊急車輛や交通経路を把握し、それに伴う金額の確認を行い緊急時に対応できる準備をしておいたほうがよい。
- ⑦ 講師のお茶は当日購入するケースが多く、設営やリハーサルなどで購入を忘れがちですので、事前に担当を決めて対応するようにしたほうがよい。
- ⑧ 委員会を開催する場合は、他の委員会と調整をし極力プロジェクターを使用することで、印刷費の削減を考慮した委員会運営をすることが望ましい。
- ⑨ ⑩、⑭説明会を行う際は、写真やイラストはカラーで説明を行う方が効果的で理解しやすいため、プロジェクターを使用するなどの手法が望ましい。
- ⑩ しおり等の写真やイラストがある場合はカラーで印刷したほうが理解しやすく、組織図や行程表なども色分けしてあることでより見やすくなるため、計画時からカラー印刷で予算計上したほうがよい。
- ⑪ 印刷を多く行う際に、事務局以外の印刷会社などに依頼をする場合は会計幹事と予算書を確認し、印刷をしてください。
- ⑫ 応募人数は見込みで計画しなければなりませんので、これまでの青少年事業を参考にして計画を立ててください。(本年度 30 名募集に対し 69 名応募)
- ⑬ 青少年事業では子ども達に使い捨てカメラを使用することがよくありますが、今回の事業では多くの子ども達がうまく撮影できていませんでした。使い捨てカメラの使用を計画する場合は、しおりに撮影マニュアルを掲載したり、事前に説明を行うなど計画をしたほうがよい。
- ⑭ 高速道路の使用を計画する場合は、引率の車両が誤って個人カード利用による高速料金の支払いを行わないようにしっかりと周知する必要がある。
- ⑮ 移動手段として公共の乗り物を計画する場合は、往復割引・団体割引・旅行会社による特約割引などが適用される場合があるので、計画時に確認を行ってください。
- ⑯ レンタカーを使用する際は、車輛の大きさにより種類が別れ、金額もそれぞれ異なるので、目的に適した車両を計画する必要がある。
- ⑰ 引率用の車両を使用し有料駐車場をする場合は、領収書を紛失する場合がありますので、委員会メンバーで担当を決め、支払いと領収書の保管を責任をもって行

うことが望ましい。

- ⑩天草島外での事業を計画する場合は、余裕を持ったタイムスケジュールであっても、渋滞や想定外の事態に備えて出来るだけ有料道路を使用したほうがよい。
- ⑪看護師の事前学習会への参加を計画する場合は、部署によっては急な勤務が入りキャンセルになることがあるので、事前に確認を行う必要がある。
- ⑫依頼文やお礼文は予算計上漏れが考えられますので、委員会メンバー全員で事業計画書と予算書を何度も確認してください。
- ⑬携行品が多くなると準備不足が考えられますので、携行品リストを何度も確認し、早めの準備を心がけたほうがよい。
- ⑭同じ時期に数回肥後銀行を使用する場合は、警備保障振込料金がまとめて送付されますので、手数料が一回で賄うことが出来ます。事前に警備会社と打ち合わせをし確認を行ってください。
- ⑮医療品に関しては事前に備品を確認し、更に同行される看護師がいるならばアドバイスをもらい早い段階で必要な医薬品を用意しておいたほうが良い。
- ⑯衣類の洗濯を計画する場合は、宿泊施設などに洗濯機や乾燥機が備え付けてある場合がありますので、事前に確認をしてください。
- ⑰荷物を運搬する際は荷札を使用し名前を記載しておくことで、スムーズな運搬を行うことができるので、是非活用してください。
- ⑱体温計を使用して健康チェックを行う場合は、体温の測定に時間が掛かるため、各班に1本ずつあるとスムーズな健康チェックを行うことができる。現在救急箱に6本の体温計の備品があるが、使用する前に電池の確認を行ったほうが良い。(医療品備品別紙参照)
- ⑲助成金を活用する事業を構築する場合は、予定者段階で申請を行う可能性が高くなります。執行部と相談し、外部へ提出する助成金団体への提出資料を、どの段階で確認し提出するのかスケジュールを立てておいて下さい。また、提出資料の内容変更について、事業の大幅な変更を行うと助成を受けられなくなる可能性もありますので早い段階での事業構築が必要となります。
- ⑳本年活用した助成団体（子どもゆめ基金・くまもと21ファンド）への提出資料や書式について一冊のファイルにまとめて事務局に保管していますので、参考にさせていただきます。
- ㉑保険料につきましては、団体割引などの特約が発生する場合がございますので、会計幹事・財政特別室と十分に確認をして、計画と支払いを行ってください。
- ㉒助成交付までの流れを下記に示しますので、今後の事業の際に参考にしてください。

	(21 ファンド)	(子どもゆめ基金)
助成申し込み	24年 1月 29日	23年 11月 15日
助成決定	24年 3月 22日	24年 4月 12日
助成金交付請求書提出	24年 6月 22日	24年 6月 22日
助成金交付	24年 8月 10日	24年 12月 28日
実績報告書提出	24年 10月 1日	24年 10月 1日

I. 事業名【 会員拡大事業の推進 】

1. 事業目的

「天草の明るい豊かな社会」に実現に向けて、共に天草の未来を創造し、行動する仲間を作っていくために、翌年に控えた創立50周年時、会員数100名を目指す。

2. 参加人員

(内部) 理事・役員	2名
メンバー	11名
その他	0名
合 計	13名

3. 事業内容

研修拡大委員会と共に4月・11月企業訪問を実施

委員会開催報告

回数	開催日	委員会開催場所	内 容	出席	欠席	出席率
1	2011.10.9	JC会館	委員会内担当役割について 年間事業計画について	5名	5名	50%
2	2011.11.4	JC会館	年間事業計画について 青少年育成事業について	3名	7名	30%
3	2011.12.13	JC会館	年間事業計画について 青少年育成事業について	3名	7名	30%
4	2011.12.26	JC会館	JCサッカーについて 青少年育成事業について	3名	7名	30%
5	2012.1.18	JC会館	JCサッカーについて 青少年育成事業について	3名	7名	30%
6	2012.1.31	JC会館	JCサッカーについて	3名	7名	30%
7	2012.2.5	JC会館	JCサッカーについて	3名	7名	30%
8	2012.2.15	JC会館	JCサッカーについて	3名	7名	30%
9	2012.2.29	JC会館	青少年育成事業について	3名	7名	30%
10	2012.3.19	JC会館	青少年育成事業について	3名	8名	30%
11	2012.4.24	JC会館	青少年育成事業について	3名	8名	37%
12	2012.5.16	JC会館	青少年育成事業について	3名	8名	37%
13	2012.5.31	JC会館	青少年育成事業について	3名	8名	36%
14	2012.6.6	JC会館	青少年育成事業について	3名	8名	36%
15	2012.6.18	JC会館	青少年育成事業について	3名	10名	43%

16	2012. 7. 6	JC会館	青少年育成事業について	3名	10名	43%
17	2012. 7. 20	JC会館	青少年育成事業について	3名	10名	43%
18	2012. 8. 3	JC会館	青少年育成事業について	3名	10名	43%
19	2012. 8. 11	JC会館	青少年育成事業について	3名	10名	43%
20	2012. 8. 16	JC会館	青少年育成事業について	3名	10名	43%
21	2012. 8. 23	JC会館	青少年育成事業について	3名	10名	43%
22	2012. 9. 3	JC会館	青少年育成事業について	3名	10名	43%
23	2012. 9. 21	JC会館	青少年育成事業について	3名	10名	43%
24	2012. 10. 22	JC会館	青少年育成事業について	3名	10名	43%
25	2012. 11. 21	JC会館	青少年育成事業について	3名	10名	43%

委員長所見

本年青少年育成委員長を仰せつかり、一年間子ども達の笑顔と成長に触れることができ本当に良い経験となりました。まずは昨年から開催し、本年度で2回目となるJCサッカーフェスタですが、子ども達の元気溢れるプレーとチームワークで、今までの練習の成果を発揮する場となりました。また保護者な方の子ども達に対する声援の熱さに、私たちメンバーも圧倒されるほどの盛り上がりとなりました。そして青少年健全育成事業として、本年度は子ども達に「共生」を学んでいただくために屋久島に行きました。屋久島といえば世界遺産ですが、私が想像していたよりも遥かに壮大な自然と、そこに住む地域の人々の自然に対する想いに感動し、どうしても屋久島に子ども達を連れて行きたいと思い、幾度の現場調査と会議を重ね、無事に屋久島での学習を終えることができました。

青少年健全育成事業を構築する中で、現在子ども達を取り巻く近代社会や情報社会の中では少し希薄になっているもの、それが自然との共生だと思いました。

勿論、自然あふれるこの天草において、身近な所に自然は豊富にあります。しかし近すぎて気付かないこと、当たり前過ぎて見逃してしまうことが多くあるように思いました。そこで限られた時間の中で天草以上の壮大な自然と、それを守る地域の人々の自然に対する取り組みを伝えるために屋久島を選定したのです。

まずは自然を大好きになること、そして自然と共に生きているということ、最後に自然とこれから共に生きていくために私たちがしなければいけないこと、その答えが最後に理解することができました。それは「優しさ」ということ。私たちが今以上に優しくなることでもっと「共に生きる」ということが近くなるはずです。

何よりも一人の怪我もなく子ども達を無事保護者のもとへお返しできたことに、心より感謝をしています。子ども達にとっても一生忘れることのない最高の夏になったことは間違いありません。

青少年育成委員長を経験したことで、未来の天草を担う子ども達の為に、そして地域の為に何ができるのかを本気で考え向き合う事が出来たことに、私のこれからの人生において、かけがえのない一年となりました。しかしそんな中で何度も弱音を吐くことがありましたが、そんな私をいつも助けてくれた方々に本当に感謝しています。天草本渡青年会議所の中でも伝統ある青少年育成委員長を経験できたことに対し本当に誇りに思います。一年間ありがとうございました。

担当副理事長所見

本年の青少年育成委員会は、地域の宝である子ども達が新しい発見や普段の生活では得られないような経験をし、共生という言葉の中ですべてのものに恩恵を感じることで、心身の健全な成長を目指して活動をしたように感じます。生きていく上で様々な選択肢に出会い、信念を持ち自分の道を進んで行く為の力を身につけることは非常に難しいことです。そのなかで「共生」と「経験」という2つのキーワードを軸に委員会では協議を重ね、事業を組み立てていったように思います。

前年の2011年度から引き続き開催することができた第2回J Cサッカーでは、天草市サッカー協会との共催という形で行い、ルールの変更や前年度からの問題点を無くすことでより良い事業、そして継続的に行われる事業となるように協議しました。チーム一丸で勝利に向かい戦うことで、チームワークやコミュニケーションが身に付けられました。また、競技を8人制で行うことで小規模の学校でも参加が可能となったことや、会場ごとの順位決定など、色いろな経験ができ子供たちの健全な成長に繋がったと感じました。

8月から9月にかけて行われた青少年育成事業「私たちの未来へつなぐ道」では、共に生きるという価値観を子どもたちに身につけてもらうことを念頭に置き、事業で得られる経験の中で自分の未来を描き・考え、行動する力を育めるように協議し実施に至りました。それらの目的において委員会が導きだした答えが、世界遺産である屋久島に触れ、1000年の命に出会い、通常的生活では感じる事が出来ない豊かな経験を積むことでした。島外で行われることや、2泊3日での開催になったことなど委員会には、様々な方から賛否両論の意見をいただき、委員会として本当に厳しい時期もあったように感じます。しかし、目的にもあるように「子どもたちに未来を描く力を育んでもらう」のに私たちが前を向いてしっかりとこの事業をやり遂げなければ、この事業の成功は無いと委員会が熱い想いを持ち取り組んだ結果、行うことが出来たことは非常に良かったと感じました。この事業を通じて、屋久島青年会議所の方々や何度も調査に参加していただいた方々などたくさんの方に協力をいただき、そして良い経験をさせていただきました事を深く感謝しております。事後発表会においては、講師に「大事にすること」「守ること」は『やさしくなること』だと教えていただきました。青年会議所としても学んだことを糧に子どもたちの未来・天草の未来をしっかりと考えていかなければならないと感じました。

本年、天草の未来を担う青少年達と共に事業を経験することができ、そして担当副理事長として関わることができ、様々な気づきや学びをいただきました。この貴重な機会を与えていただいた社団法人天草本渡青年会議所に感謝します。

2012年度 社団法人 天草本渡青年会議所 委員会年間事業報告書

- 委員会名：総務例会委員会
- 担当専務理事名：上 剛司
- 委員長氏名：池田正志
- 副委員長氏名：谷端利則
- 委員氏名：余宮貴之・後藤 円・久木山智哉・赤城清志・高山唱太郎・野口博文・福田八起・齋藤 昇

I. 事業名【新年賀詞交歓会の企画・運営】

1. 事業目的

(対外)

各種団体・来訪JC・シニアクラブと新年の挨拶と賀詞交歓を図ると共に、社団法人天草本渡青年会議所の新年度体制の紹介と各委員会の年間事業紹介の機会とする。

(対内)

準備から実施まで全メンバーで事業にかかわり携わっていただくことにより、メンバー間の和の育成に繋げる。

2. 実施日時・場所

2012年1月17日(火) 18時30分～20時30分

天草シーサイドホテル

3. 参加人員

(外部) 関係諸団体 64名

(内部) 理事・役員 24名

メンバー 11名

その他 1名

合計 100名

4. 事業内容

(対外)

①関係団体、他LOMの新年のスケジュールの調査と確認を早めに行い、より多くの方にご参加いただけるよう日程調整を行う。

②開会から乾杯までの時間を短縮することにより、歓談・交歓の時間を長く設定できる。

③元気交流委員会にご協力をいただき、参加していただいた方々に楽しんでいただけるような福引抽選会を実施する。

④来賓・来訪JC・シニアの方々から歓談しやすいような話題提供のツールとして、メンバー全員に自分のプロフィールを記載したネームプレートをつけていた

だく。

⑤ 歓談の中で、2011年度新入会員を紹介し、新入会員にはJ Cに対する意気込みを一言語っていただく。

⑥ ご出席の来賓・来訪J C・シニアクラブの方々へ各委員長から事業紹介をしていただき、また各委員会の事業紹介の資料を作成し、当日配布し各委員会の活動の理解を深めていただく。

⑦ 来賓・来訪J C・シニアクラブに理事長のメッセージカードを作成し当日配布し、おもてなしの気持ちを伝える。

(対内)

⑧ 執行部・各委員会にご協力をいただき、当日のスムーズな進行のため別紙参考資料のとおり役割を分担する。また、委員会ごとのマニュアルを作ると共に当委員会から担当者を配置し各委員会担当のサポートを行う。

⑨ 当日はメンバー席を設けず状況を見ながら来賓・来訪J Cやシニアクラブの方々へ挨拶・おもてなしの心で賀詞交歓を心掛けていただく。

⑩ 福引でメンバーが当選しても受け取るようにルール設定を行う。当日進行を担当していただく元気交流委員会から開始前にアナウンスを入れていただく。

5. 成 果

(対外)

① シニアクラブの出席が昨年を上回り、より多くの先輩方と新年挨拶と賀詞交歓を図ることができ、また役員紹介の中で2012年度の社団法人天草本渡青年会議所の新体制をお披露目することができた。

(対内)

① 事業を通して各委員会との連携を深め、和の育成に繋げる契機とすることができた。

6. 引 継 事 項

【各委員会との連携について】

① 各委員会への事前訪問、説明を十分に行ってください。事業当日の各部署の人員配置も十分に考えていただき、リハーサルも十分に行ってください。

【案内について】

② 案内の発送日、返信期限は会場側との事前打ち合せを十分に行い検討して下さい。シニアクラブに対しては12月の卒業式など事前に参加推進されるようご検討ください。

③ 他L O Mへの案内は、郵便だけでなくメール、F A Xでも案内いたしました。次年度も執行部と連携を取り案内を出して下さい。また、理事長会の申し合わせもありますので案内を出すL O Mについては理事長の判断を仰いでください。

④ 案内発送先に対しての出席率を考えると必要以上の予算も発生しているので、例えば商工会は連絡協議会だけの案内にするなど名簿の再検討をさせていただきます。

⑤ 日程が確定し次第、ホームページ等を利用し、すぐにメンバーに周知すると共に、日程を開けていただくよう、早期にお願いしてください。なお、ホームペー

ジに関してはトップページにバナーなどを張り付けされると効果的だと思います。

⑥昨年は金曜日開催だった為、特に飲食業のメンバー・シニアクラブの不参加が目立ちました。本年はできるだけ多くの方が事業に参加しやすいように金曜日、土曜日、日曜日の開催を避けて火曜日で設定いたしました。仕事の都合、家庭の都合などで役員以外のメンバーの欠席が目立ちました。できるだけ多くのメンバーが事業に参加しやすいよう、日程を考慮してください。やむを得ず欠席されたメンバーにつきましては、なぜ欠席されたかという報告書があれば次年度以降の出席率向上につながると思います。

【備品等について】

⑦今年は拡大した席次表を受付と会場入口に張り出しました。非常にわかりやすく見やすくなっていたので、次年度も引き続き実施してください。

⑧本年度は席次表の張り出しのみとしましたが、ご来賓、シニアクラブの中で、どなたが出席しているか知りたいという意見をいただきました。席次表をしおりに折り込むなど工夫をされてください。

⑨席次表の作成は委員会だけでは判断が困難です。本年は執行部に作成依頼いたしました。おかげでスムーズに運営できました。来年度もご検討下さい。

⑩今回、準備していたプロフィールカードの落とし込みを忘れておりご迷惑をおかけする形となりました。備品などメンバーに落とし込みをする場合、委員会から担当者を決めて当日の落とし込みを行ってください。

【演出について】

⑪時間短縮のため来賓紹介は席次表を持って紹介に代えさせていただくという手法なども検討されてください。

⑫理事・役員だけでなく役員以外のメンバーの氏名一覧表やの席次表などを作成し、当日の配布資料の充実させることをご検討ください。

【運営について】

⑬他LOMの進行も参考にし（熊本JCの賀詞交歓会、牛深JCの新年会、国歌斉唱やJCに関するクリードの唱和などが一切なく、開会後理事長挨拶という流れになっていました。また、八代JCの賀詞交歓会は国歌斉唱・JCソング斉唱ののち、理事長挨拶という流れになっていました。玉名JCは来賓の挨拶が市長のみでした。）乾杯までの時間を短縮する為に省略できる部分等がないか、来賓挨拶を3名から2名に変更されるなど、歓談の時間をより長く確保できるような工夫をご検討ください。

⑭1階から2階への誘導及び会場内の誘導が明らかに人員不足で来賓等の方々をスムーズに案内することができませんでした。各ポイントに最低1人ずつは付けてもらうよう、配置を徹底してください。

⑮来賓へのフォローが少なかったため、早く帰られた来賓がいらっしゃいました。歓談の時間を有効的に利用し、執行部だけでなく、お世話係の担当者をもう1名配置するなど来賓へのフォローを徹底してください。

⑯本年度は昨年同様に乾杯のご発声をシニア会代表世話人、締めのご発声を次年度シニア会代表世話人予定者をお願いしました。両先輩とも快く引き受けてくださいました。次年度以降も継続されて下さい。

⑰司会のリハーサルはもちろんのこと、当日のスムーズな運営のため、演出時の流れや立ち位置、会場の放送機器の確認などの事業シミュレーションは綿密に十分行ってください。

⑱配席で女性のところは、当日本人たちの希望があり、同テーブルの男性側の了解もあり、隣同士に変更されました。女性の来賓の参加が複数ある場合は、最初から隣同士にするなどの検討をされてください。

【福引大抽選会について】

⑲福引チケットの価格を1千円に設定し、175枚販売することができました。予定金額以上の収入となり、単価を下げて魅力ある景品を準備できました。次年度以降も引き続き、気軽に購入できる単価設定を検討して下さい。

⑳福引抽選会ではメンバーが当選しても受け取りやすいように事前にアナウンスしていただき、スムーズに進行できました。引き続き、福引の司会を担当される委員会からアナウンスを入れてもらうなどの工夫をされてください。

Ⓜ時間が押していたため、福引抽選会の時間を短縮せざるをえませんでした。駆け足での運営になってしまったため、せっかくチケットを購入しても聞いていなかった、聞き逃したという声をお聞きしました。これが楽しみで来られる先輩方もいらっしゃいますので抽選会の時間は十分に確保されてください。

Ⓜ福引チケットを購入されていないシニアクラブの方がいらっしゃいました。開宴後も司会からアナウンスを入れたり、全テーブルを回るなど、販売促進をご検討ください。

Ⓜ本年度はシーサイドホテルより、天草エアラインの航空券（天草～福岡の往復）を1式、お食事券を10枚、株式会社池田商店より清酒が1本、商品の協賛がありました。次年度以降も協賛があった場合は引継ぎ事項に残してください。

Ⓜ本年度は名寄JCさんをお願いして名寄の物産品を賞品に使いました。名寄JCさんのメンバーの方をお願いして購入していただきましたが、領収書が名寄JC宛てになっていましたので、次年度以降名寄さんなどから物品を購入される場合は必ず天草本渡青年会議所宛ての領収書をもってください。また、代金を支払う際、個人の口座にお金を移して口座間の取引を行いました。振込の際は必ず窓口を通して行ってください。

【その他】

Ⓜ閉会后、来賓、来訪JC、シニアクラブの先輩方が残っている中、食事を取っているメンバーがいました。残った料理は会場で飲食せず、速やかに二次会への持って行くようにしてください。撤収作業第一でメンバーの食事は二次会で取っていただくようにしてください。

Ⓜホテル側からのご要望もあり、これまでホテル側でしていただいていた領収書の発行については青年会議所作成のものを使用してください。

Ⓜここ数年新年賀詞交歓会の際、参加者が減少し、特に役員以外のメンバーの参加者が減少しています。おもてなしをすることも大切ですが、メンバーと来賓が和気藹々とする雰囲気も大切であると考えます。シニアクラブの先輩方から、現役も着席して欲しい、立っていると落ち着かない。という意見もいただいています。それらの意見も踏まえた上で、以前の新年会のスタイルに戻すということも検討してください。

▮ 当日は席次表通り椅子が設置されているか、ホテル任せにせず確認されてください。

▮ 前理事長感謝状用の額縁を購入にあたり、計画時に確認した金額より購入時には価格が下がっていました。備品等を購入される際はきちんと見積を取り、納期を確認して予算組みをしてください。また、前年度使用した備品等を引き続き使用される場合におきましては、在庫と状態を十分確認してください。

▮ 司会のシナリオは当日でも変更があるのはやむを得ないと考えます。カラーで印刷される場合は多めに予算を設定してください。

▮ 事務局へ封筒代やコピー代を支払うとき、預金引き出しにて硬貨が50枚以上になり手数料が発生いたしました。手数料がかからないように現金をまとめて下すなど、注意してください。

▮ 本年度は2011年度新入会員の紹介を行いました。顔を覚えてもらうことができ、人前で話すいい機会になったとの報告を受けました。次年度も新入会員の紹介が行われるときは、日程が決まったら早急に新入会員には落とし込みを行い、出席が難しい場合でも、その時間だけでも出席してもらえるようお願いしてください。

Ⅱ. 事業名：【卒業式の企画・運営】

1. 事業目的

(対外)

卒業生の在籍期間中の活動を、ご家族やシニアクラブの先輩方に知っていただき、その活動の労をねぎらうと共に、卒業後のご家庭やシニアクラブでのひとつのコミュニケーションのきっかけとなることを目的とする

(対内)

卒業生の在籍期間中の活動の功績を讃たえ、卒業生の想いを受け継ぎ、今後のJC活動に活かすことを目的とする。

2. 実施日時・場所

2012年12月17日(月) 19時30分～21時30分

ホテルアレグリアガーデンズ天草

3. 参加人員

(外部) 関係諸団体 25名

(内部) 理事・役員 22名

メンバー 25名

その他 1名

合計 73名

4. 事業内容

(対外)

①事業だけではなく、卒業式と例会を同日に開催にする事で、ご家族やシニアクラブの先輩方に現在の例会の雰囲気も感じていただく。

②卒業式にシニアクラブの先輩方に参加していただき、シニアクラブの先輩方、現役メンバーが一つとなって卒業生を送り出す。

(対内)

③現役メンバーが必ず卒業生全員と一言ずつでも会話ができるように、歓談の時間を長めに設定する。

④贈る言葉で卒業生へ感謝の気持ちや想いを伝え、卒業生の挨拶において想いを受け継ぐ。

⑤司会並びに総務例会委員会より卒業生の席へ行くように促し、必ず一言ずつ話せる機会を作る。

⑥卒業生が生まれた1972年度に起こった出来事をドキュメンタリー風に流し、その中で〇月〇日、〇〇君誕生というような映像を流す。

5. 成果

(対外)

例年より多くのシニアクラブの先輩方に参加していただき、卒業生紹介の映

像や卒

業生の挨拶を通して在籍期間中の活動を知っていただくことができた。また、卒業生とシニアクラブの先輩方とコミュニケーションを図る良いきっかけとすることができた。

(対内)

卒業式を通して卒業生の在籍期間中の活動の功績を讃たえ、卒業生の想いを受け継ぎ、今後のJC活動に活かす機会とすることができた。

6. 引継事項

【案内・準備】

- ①日程を決定する際、卒業生の予定が第一ですが、計画の際から家族にも日程をあげていただけるようお願いをしてください。
- ②FAXにて案内発送後、締切日時点での返信率は三割にも満たない状態でした。出欠の取りまとめは余裕を持って早めに設定してください。またシニアクラブにつきましては、返信もなく当日急に参加された方もいらっしゃいました。出欠の取りまとめの際、出席する可能性の高い先輩には返信がない場合は早めに連絡を取り、確認されてください。
- ③開催日時・会場は審議後早めにホームページ等を活用し、告知をされてください。
- ④今後も寄せ書きをされる場合は、早めにメンバーに告知し、事業前日までに事務局にいけばいつでも記入できるようにされるか、委員会訪問をされて記入してもらってください。どうしても事務局に来ることができないメンバーについては代筆を呼び掛けるなど工夫されてください。

【運営】

- ⑤毎年のことですが、贈る言葉・卒業生挨拶で時間を超過します。今回は20分超過でしたが、卒業式の中で一番盛り上がる部分でもあるので難しいかもしれませんが、会場にもご迷惑のかからないよう、タイムキープはしっかり行ってください。
- ⑥事業当日に委員会メンバーが少ないと、運営に追われてしまいます。どの事業でもそうですが、役割分担を明確にし、やむを得ず欠員が出た場合でも対応できるように委員会メンバー全員で情報を共有されるか、他委員会にも応援を依頼されてください。
- ⑦今回、株式会社天草ケーブルネットワークに委託し、卒業生紹介の映像を作成いたしました。外部に委託される際、必要な素材は最低でも1ヶ月前に提供し、早い段階で先方と打ち合せをされてください。

【その他】

- ⑧国旗・JCI旗は準備したものの、ホテル側の看板を取り付けるレールが1つしかなかったため、取り付けを断念しました。ホテルアレグリアガーデンズ天草を使用する場合、吊り下げレールが1本しかないため、看板と別に国旗・JCI旗と取り付ける工夫をされるか、一般社団法人となり看板のリニューアルをされる場合には、看板の中に入れて作成されることを検討してください。
- ⑨司会のシナリオについては、今回はフリ仮名を振り、カラー印刷で出したことにより読みやすいとの声をいただきました。今後も司会者が読みやすいように、また読みにくい漢字や人名にはフリ仮名を振り、カラーで出されることをおすすめしま

す。

- ⑩運営にあたり、委員会メンバーに役割分担をし、万が一欠席者が出た場合でも誰でも対応できるように委員会内で当日の流れを共有されてください。それでも人員が足りない場合は、他委員会へ応援を依頼されて下さい。
- ⑨開会から閉会まで15分の時間超過があり、会場にご迷惑をおかけしました。また、閉会后にアナウンスで誘導したもののなかなか人が掃けずにホテル側の片づけに支障をきたすことになりました。タイムキーパーを設けてスムーズな運営を心掛けてください。
- ⑩ホテル側から15時30分以降の使用許可をいただきましたが、会場設営に追われて十分なりハーサルの時間を確保できませんでした。当日のリハーサルは確認程度にされ、事業当日までには事務局など別会場にて十分なりハーサルをされてください。
- ⑪しおりのカラー印刷でトナーがきれいに付着せず、他のものに色うつりしました。大量のカラー印刷を事務局のコピー機で行う際は、外注するか少しずつ印刷するなど検討してください。
- ⑫本年は代表世話人、締めを最年長者にお願いをすることにしておりましたが、乾杯を最年長者、締めを2番目の年長者にお願いしました。代表世話人が欠席の場合のご対応をご検討されてください。
- ⑬シナリオなど委員会メンバー分の資料を印刷して持ち出すときは、漏れがないよう確認してください。

▪ **【予算上の引き継ぎ】**

- ①席次表を出席者に配ることは計画に挙げておりませんでした。事業直前に、一人ずつあった方が見やすい上、アテンドに1名メンバーを取られることがないと判断し、出席者分の枚数を出すことにいたしました。席次表を参加者分出されるのであれば、計画の段階で印刷代を予算に組み込んでください。
- ②物品を購入される際、計画時に確認したときと金額が変わっている可能性があります。事前に見積を取るなど対応をされてください。

Ⅲ. 事業名：【総会並びに例会の企画・運営・資料作成並びに議事録の作成・保存】

1. 事業目的

(対外)

来訪ＪＣや入会候補者がオブザーブとして来られた場合、青年会議所の魅力を伝え、今後の活動への理解と協力を得る。

(対内)

総会並びに月に一度の例会を通じて、メンバー間の交流、情報交換、資質の向上を図ることを目的とする。

2. 実施日時・場所

通常総会並びに 1 月度例会	肥後銀行天草支店 3 階大会議室
2 月度例会	肥後銀行天草支店 3 階大会議室
3 月度地区長訪問例会	ホテルアレグリアガーデンズ天草
4 月度例会	肥後銀行天草支店 3 階大会議室
臨時総会並びに 5 月度例会	肥後銀行天草支店 3 階大会議室
6 月度例会	肥後銀行天草支店 3 階大会議室
通常総会並びに 7 月度例会	肥後銀行天草支店 3 階大会議室
通常総会並びに 8 月度例会	肥後銀行天草支店 3 階大会議室
9 月度例会	肥後銀行天草支店 3 階大会議室
10 月度例会	肥後銀行天草支店 3 階大会議室
11 月度例会	肥後銀行天草支店 3 階大会議室
12 月度例会	ホテルアレグリアガーデンズ天草

3. 参加人員

(外部)

牛深青年会議所 (3月)	14名
九州地区協議会 (3月)	38名
熊本ブロック協議会 (3月)	64名
シニアクラブ (12月)	5名
オブザーバー (2月・6月)	3名

(内部)

役員	254名
メンバー	162名
(当委員会	45名)
顧問	8名
のべ人数合計	548名

4. 事業内容

(対外)

- ① 社団法人天草本渡青年会議所の規則正しい例会スタイルを見せ、入会候補者にはサポートをつけてフォローを行う。

(対内)

【準備】

- ② 例会企画の担当窓口となり、例会企画申込の提出期限の厳守を促し、タイムテーブルを調整し、円滑な例会の進行を行う。
- ③ 総務例会委員会から発信し、各委員長・副委員長から委員会メンバーへ例会出席を促す連絡をしていただく。なお、総会時の委任状についての提出義務の徹底を行う。また、連絡網システムは引き続き活用する。
- ④ 居酒屋の青春の開催場所の設定と幹事を例会企画担当委員会が行う。例会企画が開催されない場合、執行部が行う。
- ⑤ 理事会で審議が承認され、意見の対応などが埋まった議案は紙資料を1部打ち出して回覧し、フロアメンバーにも議案に触れる機会を多くするとともに、各事業への意識を高めていただく。

【運営】

- ⑥ 総務例会委員会は例会当日、開始 60 分前に集合し設営を行い円滑な例会運営を行う。
- ⑦ 例会時間は基本的に 19 時 30 分から 21 時までとする。
- ⑧ 自己研鑽の場として委員会アワーを実施する。
- ⑨ 例会議事録の作成は、円滑に起こせるようにボイスレコーダーに保存した記録を3日以内に事務局のパソコンにデータ保存を当委員会担当者が行う。また、一言一句の議事録ではなく、誰が読んでも解りやすく読みやすい議事録の作成を行う。
- ⑩ 総会月以外は、理事以外のメンバーの席を固定しないで、会場入りしてクジを引いていただき、席をシャッフルする。
- ⑪ 仕事や家庭の都合でやむを得ずLOMの例会に出席できない場合、他LOMの例会に承諾をいただいて出席し、アテンダンスカードに参加したLOM理事長の印を押してもらえれば当LOM例会の出席扱いとする。
- ⑫ 当委員会でわかりやすい議事録を作成し、次回例会にて回覧する。効果として、例会に出席できなかったメンバーにも理事長挨拶など、前回例会の内容をわかりやすく伝えることができる。

(参加推進方法)

(対外)

- ① 対外向けの例会企画が開催される場合、担当委員会および広報渉外委員会と連携を取り、ホームページ等、出来る限りの広告媒体を活用・発信し、参加を促す。

(対内)

- ② 委員長・副委員長及び委員会幹事は欠席予定者及び出欠未返信者への電話確認を行い、少ない時間でも出席していただけるよう促していく。なお欠席の場合、欠席理由を明確にしていただき、委員会状況を把握していただく。

③例会終了時間を21時にすることで、居酒屋の青春の開始時間を早める。

5. 成 果

(対外)

- ①例会に3名の候補者の方にオブザーバーとして参加していただき、天草本渡青年会議所が天草のために真剣に考えている団体だと感じていただいたことで、1名の候補者を入会につなげることができた。
- ②12月度例会にて、5名のシニアクラブの先輩方に参加していただき、現在の例会の雰囲気を感じていただくことができ、現役当時を懐かしんでいただくことができた。

(対内)

- ①例会の中での3分間スピーチやスマイルに参加してもらい、発表者には自己研鑽を図っていただくことができ、理事長・直前理事長挨拶等で折に触れて最近の話題にも触れていただいたことで、メンバー間の情報交換や自己研鑽の場とすることができた。
- ②普段あまり接することがない他の委員会とも交流が図れるようにと理事以外のメンバーの席を固定せずにシャッフルして席を決める手法を取りました。所属する委員会以外の委員長、副委員長とも交流を持てることができ、よかったという意見がありました。

6. 引 継 事 項

【対外】

- ①入会候補者をオブザーバーとして例会に来ていただく場合、また新入会員への例会時や居酒屋の青春時でのフォローは推薦人や会員拡大担当、委員会メンバーでしっかり行ってください。
- ②本年度は対外向けの例会を実施いたしませんでしたが、対外向けの例会企画を開催される場合、担当委員会および広報担当委員会と連携を取り、ホームページ等を活用・発信し、参加を促してください。
- ③12月度例会に本年は5名のシニアクラブの先輩にご出席いただきましたが、久しぶりに例会の雰囲気が感じられてよかったとの声をいただきました。卒業式などシニアクラブが出席される事業と例会の同日開催をされる場合は、例会への出席もシニアクラブへ呼びかけてください。

【対内】

【準備】

- ④例会企画の締め切りを開催前月の20日と設定していましたが、ほとんど守られませんでしたが、例会企画の締め切り日時の徹底をお願いします。
- ⑤欠席や返信のないメンバーに対してはそれぞれの委員長・副委員長から例会出席を促すように連絡をしていただき、それでも返事のないメンバーには直接会ってお願いするなど出席を促す工夫をされてください。
- ⑥事前の例会や事業の折に委任状の必要性を訴えるなど、総会時の委任状の提出義務と期限を徹底してください。
- ⑦理事会で審議承認された資料を理事以外のメンバーにも閲覧してもらい、各

委員会事業の情報を共有できる手法を検討されてください。

【運営】

- ⑧次年度の例会設定時間はわかりませんが、担当委員会で設定した時間内に終了するようにスムーズな例会運営ができるよう、執行部と例会企画担当委員会と協力することを心掛けてください。
- ⑨理事以外のメンバーが所属する委員会以外とも交流ができるようにと座席を固定しない手法を取りましたが、結果的には理事以外のメンバー出席が少なくうまく活用することができませんでした。来年度も座席を固定しない場合は、委員会メンバーの入れ替えはできないが、委員会の並び順を変えるなど新たな手法を検討されてください。

【3分間スピーチ】

- ⑩発表者やテーマの設定については、「私の仕事の内容」など、比較的誰もが答えやすいテーマを設定し、例会時や例会案内文での事前周知を行なっておくことで、当日指名でも発表に不慣れなメンバーも参加しやすいかと思えますし、事前指名のケースにあった当日の急な欠席者の対応についても解消できます。
- ⑪コメント用紙は当日の配布資料などと同じように受付に置いておくとスムーズに運営ができます。
- ⑫進行役は委員会などであらかじめ決めておくといいと思います。役割を与えておくことで、その委員会メンバーの出席動機にも繋がります。
- ⑬コメント用紙の内容もご検討下さい。数字で良し悪しを表す部分は、もし悪いと判断の数字だけでは、どこが悪く、どういうふう直せばいいのかが発表者には具体的には分かりません。
- ⑭コメント用紙をまとめるリングですが、多少扱いづらい感じがしました。発表者が後で見返しがしやすいよう配慮をした上で、綴じ紐などもあるかとは思いますが、コメント用紙を渡す方法は再度次年度でご検討ください。

【スマイル】

- ⑮アカデミーメンバーや新入会員にスマイルの主旨・目的をしっかりと伝え、参画してもらえるよう、仕組み作りを検討ください。
- ⑯次月の誕生日、入会月メンバーを事前に例会などで告知し、少しでも例会に来ていただいて参加してもらえるように呼びかけを行ってください。
- ⑰過去に行われていた本来のスマイルは楽しい雰囲気で行われていたと卒業された先輩にお伺いしておりました。BGMをかけてスマイルを行うなど、雰囲気をガラリと変えるような趣向を凝らしたスマイルを企画してみてもいかがでしょうか。

【アテンダンス】

- ⑱本年度は他LOMの例会に出席し、参加LOMの理事長印を押していただくことで例会の出席扱いとするという手法を取り、事例はありませんでしたが、次年度以降も継続される場合は、毎月案内をされる際にはその旨記載されてください。

【その他】

- ⑲議事録作成は委員会内で役割分担をされ、一言一句ではなく、誰が読んでも

読みやすい議事録の作成を心掛けてください。また、完成後は早急に事務局のフォルダに綴じて署名人の方に連絡を取り、署名の徹底をされてください。

⑳居酒屋の青春の案内にはMy 箸持参の文言も記入する他、例会終了後の閉会宣言前や専務理事の居酒屋の青春の案内の際にもアナウンスするなどMY 箸の持参を呼び掛けてください。

21 連絡網システムを活用される場合、FAX案内後、早急にされてください。また、連絡網システムが受信できないメンバーもいますので、全員に届くように確認、工夫をされてください。

22 総会案内の封書用のタックシールの在庫がありますので活用されてください。

23 例会当日のドレスコードについては、案内時にきちんと説明を行ってください。

24 地区協議会会長訪問例会を引き受ける場合は、LOM単独で開催したほうがよいと考えます。ブロック協議会会長訪問と合同で開催したり、牛深青年会議所と合同で引き受けると調整が非常に大変です。また、例会が長時間となり懇親会までの時間を考えるとかなり遅い時間となりますのでご検討下さい。

25 地区協議会会長訪問例会を開催したことで、地区会長にバッジ授与をお願いするために拡大担当委員会の拡大活動のモチベーションが上がりますので、ぜひ会員拡大運動の機運のきっかけとしてください。

26 例会次第・資料につきましては、メンバー全員分印刷をし、欠席者分はそれぞれのレターケースに入れて、連絡を行ってください。

27 総会と例会の次第を本年は1枚にまとめましたが、総会時の次第は別に作成されてください。

(予算上の問題点の引き継ぎ)

28 警備会社の開閉に関しては、会場を無料でお借りしていることもあり、全ての開錠を肥後銀行にお願いすることはいかがかと考えるので、通常通り開閉分の予算計上をした方がよいと考えます。

29 総会・例会配布資料は欠席者分も印刷するようにしてください。

30 封筒代等の金額に関しては、事務局から購入する場合には委員会にて確認するのは難しいので、予定者の早い段階から事務局長もしくは財政担当者がしっかり打ち合わせをして下さい。

31 コメント用紙の印刷代に関しては次年度もされるのであれば、用紙及び様式が変わらないのであれば、印刷済みの用紙を確認の上、予算計上をお願いします。

32 切手などを購入される際、間違えないように購入前に一度メンバー数を専務理事に確認して購入されてください。

IV. 事業名 【 理事会の設営並びに議事録の作成・保存 】

1. 事業目的

定刻に理事会が開催できるように会場設営を行う。正確な資料として記録を残す。発言者の意図が正確にわかりやすくメンバーに伝わるような議事録を作成・保存する。

2. 参加人員

(内部) 理事・役員	2名
メンバー	8名
その他	0名
合 計	10名

3. 事業内容

- ①毎月理事会当日、JC会館会議室にて会場設営を行う。
- ②理事会中のボイスレコーダーの管理。
- ③毎月の理事会のボイスデータを即日事務局のパソコンにデータを落とし込み、メンバーで役割分担をして議事録を作成する。

4. 成果

- ①執行部、事務局、財政特別室と連携し、毎月の理事会会場の設営を行うことができた。
- ②当委員会でボイスレコーダーを管理し、理事会での発言等を漏れなく把握することができた。
- ③理事会のボイスデータを委員会メンバーで分担し、一言一句ではなく発言者の意図がわかりやすく作成することで、メンバーに理事会内容が正確に伝わるような議事録を作成・保存することができた。

5. 引継事項

- ①理事会設営は担当委員会だけでなく、執行部等と連携することで当日の出欠を把握しながらの無駄のない設営を心掛けてください。
- ②理事会のボイスデータは速やかに事務局パソコンに保存し、ボイスレコーダー内のデータは削除するようにしてください。そのままレコーダーにデータを残しておくと容量がなくなり会議中の記録ができなくなることがあります。また、ボイスレコーダーは容量が大きいので事務局パソコンの保存先も気を付けてください。
- ③議事録作成は委員会内で役割分担をされ、一言一句ではなく、誰が読んでも読みやすい議事録の作成を心掛けてください。また、完成後は早急に事務局のフォルダに綴じて新定款で定める署名人の方に連絡を取り、署名・捺印の徹底をされてください。

Ⅴ. 事業名 【 会員拡大事業の推進 】

1. 事業目的

「天草の明るい豊かな社会」の実現に向けて、共に天草の未来を想像し、行動する仲間を作っていくために、翌年に控えた創立50周年時、会員数100名を目指す。

2. 参加人員

（内部）理事・役員	2名
メンバー	8名
その他	0名
合計	10名

3. 事業内容

研修拡大委員会と共に5月、10月に企業訪問を実施

委員会開催報告

回数	開催日	委員会開催場所	内 容	出席	欠席	出席率
1	2011. 10. 20	串焼きよみや	委員会運営 年間事業計画書	4名	4名	50%
2	2011. 10. 27	J C 会館	年間事業計画書 年賀詞交歓会	3名	5名	38%
3	2011. 11. 11	J C 会館	新年賀詞交歓会 総会並びに例会	3名	5名	38%
4	2011. 11. 24	J C 会館	新年賀詞交歓会について	2名	6名	25%
5	2011. 12. 12	J C 会館	新年賀詞交歓会案内状 の作成並びに発送作業	3名	5名	38%
6	2011. 12. 21	J C 会館	新年賀詞交歓会 総会並びに例会	3名	5名	38%
7	2011. 12. 26	J C 会館	新年賀詞交歓会準備	4名	4名	50%
8	2012. 1. 16	J C 会館	新年賀詞交歓会準備	3名	5名	38%
9	2012. 1. 23	J C 会館	通常総会並びに1月度例会準備	2名	6名	25%
10	2012. 2. 13	J C 会館	2月度例会準備 地区長訪問例会につい	3名	5名	38%

			て			
11	2012. 3. 21	J C 会館	3 月度例会準備	4名	4名	50%
12	2012. 4. 13	J C 会館	4 月度例会準備	3名	5名	38%
13	2012. 5. 18	串焼きよみや	5 月度臨時総会について	5名	3名	63%
14	2012. 6. 14	J C 会館	6 月度例会準備	3名	5名	38%
15	2012. 7. 2	J C 会館	7 月度通常総会準備	3名	5名	38%
16	2012. 7. 23	J C 会館	卒業式	3名	5名	38%
17	2012. 8. 20	J C 会館	8 月度通常総会準備 卒業式	4名	4名	50%
18	2012. 9. 14	J C 会館	9 月度例会準備 卒業式	2名	6名	25%
19	2012. 10. 15	J C 会館	10 月度例会準備 卒業式	4名	6名	40%
20	2012. 11. 14	J C 会館	11 月度例会準備 卒業式	4名	6名	40%
21	2012. 12. 9	J C 会館	総会並びに例会報告書 意見対応 卒業式準備	2名	8名	20%

委員長所見

総務委員長をさせていただきます。青年会議所において最も基礎となる例会。その例会に携わる委員長をやってみたいという想いで野嶋理事長に自ら申し出て、希望を叶えていただき、初理事初委員長で総務例会委員長をさせていただきました。予定者の段階から、新年賀詞交歓会と総会並びに例会の企画・運営並びに議事録の作成・保存と2本の議案を作成し、それに加えて理事会の議事録の作成。年末の忙しい中でも、専務理事、副委員長、委員会メンバーには時間を作っていただき、支えていただいたおかげで、無事に審議を通過させることができました。理事会審議承認の席で賛成の手が一斉に上がった時のあの喜びはずっと忘れることができません。賀詞交歓会の事業当日および事前の準備におきましては、慣れないことばかりでメンバーの皆さんには大変ご迷惑をおかけしました。元来、私は人をお願いをすることが苦手で、各委員会をお願いしていたことを事前に十分な落とし込みができず、事前のシミュレーションも十分にできず、反省すべき点の多い新年度最初の事業となりましたが、自分にとって本当に貴重な経験をさせていただくことができました。また、例会、委員会、各種事業において人を集めることの難しさを委員長になって初めて実感させられました。電話やFAX、連絡網システムだけでは返信率が上がらず、例会について本年度は短い時間でも出れば出席扱いになるということで、その旨を伝え、会えるメンバーには直接会ってお願いし、実際に来てもらった時は本当にうれしく、想いをきちんと伝えればなにかしら返ってくるということを実感できました。議事録においては、委員会メンバーで役割分担して進めてまいりましたが、三役会への提出期限を守れずに執行部・事務局・財政特別室には本当にご迷惑をおかけいたしました。こうやって振り返ってみると反省すべき点が多く、会議の運営、議案書の作成、事前の段取り、すべてにおいて、なんで自分は今までこんな基本的なこ

とを知らなかったのだろうか？気付かなかったのだろうか？ということばかりで、このまま1年間やっていけるのか不安でしたが、専務理事や副委員長、委員会メンバーに支えられ、皆さんのおかげでここまでやっていくことができました。1年間を通して忙しくはありましたけれど、たくさんの方々のご協力と暖かさ、優しさに支えられた1年となりました。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

担当専務理事所見

今年の総務例会委員会は、新年賀詞交歓会から通常の例会、最後の卒業式と1年間を通して活動し続けた委員会でした。本年最初の事業となる新年賀詞交歓会では、来ていただいた方への感謝のおもてなしをするとともに、新年度事業の紹介をすることができました。さらに、例会の運営では、近年の出席率の低迷から出席率向上という目標を掲げ、席のシャッフルや例会時間の短縮などの工夫を行いました。しかし、それでも出席率の向上につながらず、私も含め委員会は悪戦苦闘の1年間でした。例会の出席率を少しでも上げようと例会の数日前には、メンバーに電話または訪問し出席のお願いをしに行かれた委員会の想い、そして、円滑でかつ規律ある例会の運営をするために2時間前から会場に入り設営をしていた委員会の姿は決して表に出るところではありませんが、執行部として本当に感謝申し上げます。また、本年は九州地区協議会会長訪問例会を行い、各地青年会議所より多くの来訪メンバーをお招きし、無事成功させたことはメンバーにとっても貴重な財産になりました。これらの活動の他にも、毎月の理事会議事録の作成を頑張っていたいただきました。地味で目立たない職務も委員会で分担して積極的に全うして頂いたことは、必ず委員会メンバーの今後のJCライフの糧となると信じております。最後に、私自身初めて担当専務理事として委員会を監督する立場となり、力不足や未熟な点が多々あり、委員会に迷惑をかけたと反省しております。委員会の頑張りがあったって私も1年間担当専務理事という役職を1年間全うできたものと信じております。本当にありがとうございました。